

令和3年度

名古屋市美術館年報

2 0 2 1

目次

序	1
沿革	2
展覧会事業	3
1 常設展	3
(1)名品コレクション展	4
(2)常設企画展	9
2 特別展	14
教育普及事業	34
1 教育プログラム	34
1 一般成人対象の事業	35
(1)講演会・解説会	35
(2)コレクション解析学	35
(3)パフォーマンス・ワークショップ	36
2 子ども対象の事業	37
(1)学校休業日の体験活動の推進	37
(2)芸術と科学の杜	39
3 学校対象事業	40
(1)ボランティアによる学校等団体向け ガイドトーク	40
(2)アートカード貸出実績	40
(3)出前アート体験	41
(4)就業・職業体験及び 職場訪問受け入れ	42
2 ボランティア	44
(1)ボランティア登録者	44
(2)定例会	44
(3)ガイド活動	44
(4)サポート活動 系の活動	45
3 学生向け優待事業	45
(1)美術館学生メンバーズ	45
(2)高校生サポーター事業	45
4 協力会	46
5 図書室	46
6 出版	47
資料	48
1 収集	48
(1)受贈	49
(2)受入変更	82
(3)資料収集状況一覧	83
2 保存・修復	84
3 調査・研究	86
4 貸出	88
5 寄附金	89
入館者一覧	90
組織・予算	91
1 組織図	91
2 美術館協議会	91
(1)名古屋市美術館協議会委員	91
(2)名古屋市美術館協議会開催状況	91
3 職員	91
4 運営予算	91

序

PREFACE

名古屋市美術館の令和3年度の活動をまとめた年報を発行いたします。

本年度も特別展では事前予約制による入場制限、教育普及事業は一部休止、延期、人数制限や実施方法を変更するなど新型コロナウイルス感染症対策を実施しながらの運営となりました。

収集活動としては、本年度は1303点を受け入れ、令和4年3月末現在収集数は8105点となりました。作品では甲斐庄楠音、野見山暁治、奈良原一高らの作品、地元とゆかりがある山田秋衛、平岩三陽、横山葩生、野村博らの作品を収集しました。特別資料では、大島哲以のスケッチブック、岸本清子に関連する資料などを収集しました。また、令和2年度に開催した「『写真の都』物語—名古屋写真運動史：1911-1972—」に関連した多くの写真および資料を受け入れました。

展覧会事業としては、令和2年度から引き続いた「アートとめぐる はるの旅」から「ゴッホ展—響きあう魂 ヘレーネとフィンセント」まで特別展6回と、常設展2回、常設企画展・特集を3回実施しました。特別展では、ヨーロッパ絵画、彫刻、アメリカ美術と幅広いジャンルの美術を紹介しました。また、収蔵品による展覧会と、当地方の現代美術の動向を全国に向けて発信する「ポジション」展を開催し、当館の特色を活かした内容となりました。常設企画展では、名古屋出身で映画監督・写真家として活躍する日比遊一氏の写真を紹介する「日比遊一写真展／心の指紋」を開催しました。特集では、愛知県立芸術大学文化財保存修復研究所との共同研究の成果報告、また佃政道の作品を展示しました。常設展「名品コレクション展」では、テーマ性のある内容を企画し、収蔵品のさらなる活用に努めました。

収蔵品に関しては、ブラザー工業株式会社から提供いただいた多言語ミュージアムガイドアプリ「Multilingual Museum Guide (マルチリンガルミュージアムガイド)」の運用を開始しました。無料の音声ガイドアプリで、収蔵品から選んだ86件の解説を聞いていただけるようになりました。

教育普及活動については、新型コロナ感染症拡大により、一部のイベント等が延期または中止になるなど影響を受けましたが、感染対策を行い、実施方法を工夫しながら開催しました。学芸員による解説会、美術講座「コレクション解析学」は、参加人数を制限して実施し、ボランティアによるギャラリートークは、時間短縮などの対策を行いながら実施しました。「美術をたのしむプログラム」は、プログラム内容をよく検討し、参加者にもご協力いただきながら開催しました。出前アート体験や就業職場体験・職場訪問の受入といった学校向け事業は、学校側と事前に内容を相談、確認したうえで実施しました。芸術と科学の杜については、アート・フェスティバルとして、館内でワークショップやコンサート等のイベントを開催しました。また美術館を支える両輪となっているボランティアと協力は、いずれも新型コロナ感染症拡大の影響から活動が制限されましたが、それぞれ工夫して活動の維持を図ってきました。

新型コロナ感染症は私たちの社会生活に多大な影響を与え続けています。こうした困難な状況だからこそ、美術館は美術作品との出会いから多様な考え方や生き方を知り、また感性への働きかけを感じていただくような場所でありたいと考えています。あらためて社会とともにある美術館として、皆様のご期待に応えられるように努力して参ります。引き続き、名古屋市美術館へのご理解とご支援を賜りますようお願いいたします。

令和4年8月

名古屋市美術館

沿革 HISTORY

- 昭和52年12月 「名古屋市基本構想」策定、同構想において美術館建設をめざす
- 昭和56年1月 市長、年頭記者会見において、美術館の具体化検討を発表
12月 市会、美術館建設のための調査費を議決
- 昭和57年2月 美術館調査委員会（委員長 豊岡益人愛知県立芸術大学学長）設置、美術館のあり方について諮問
4月 「名古屋市市民文化振興のための基金に関する条例」制定
- 昭和58年1月 美術館調査委員会「名古屋市美術館（仮称）基本構想について」答申
7月 美術館建設委員会（委員長 伊藤延男東京国立文化財研究所所長）設置
8月 美術館基本設計委託（黒川紀章建築・都市設計事務所）
10月 美術館資料収集審査委員会設置、資料の収集を開始
- 昭和59年3月 建築基本設計完了
9月 美術館実施設計委託（黒川紀章建築・都市設計事務所）
- 昭和60年1月 建築実施設計完了
2月 名古屋市文化顧問（安達健二 東京国立近代美術館長）委嘱
7月 美術館建設工事着手
- 昭和61年11月 「名古屋市美術館（仮称）収集作品展」を市博物館で開催
- 昭和62年4月 美術館開設準備顧問（谷隆夫 元名古屋市助役）委嘱
7月 美術館本体工事完成
10月 外構工事完成
- 昭和63年3月 「名古屋市美術館条例」制定
4月 美術館顧問（河北倫明氏）委嘱
4月 開館（館長 谷隆夫）
- 平成元年9月 博物館登録
- 平成5年9月 南側エレベーターの設置
- 平成7年6月 美術館長（劔持一郎 元名古屋市教育長）委嘱
美術館顧問（谷隆夫 元館長）委嘱
- 平成10年10月 美術館参与（馬場駿吉 元名古屋市立大学教授）委嘱
- 平成11年6月 美術館長（小林龍郎 元名古屋市総務局長）委嘱
- 平成14年6月 美術館長（宮澤明倫 元名古屋市教育長）委嘱
- 平成18年6月 美術館長（渡辺豊彦 元名古屋市選挙管理委員会事務局長）委嘱
美術館参与（石黒鏘二 名古屋造形芸術大学名誉教授）委嘱
- 平成21年5月 美術館長（松永恒裕 元名古屋市総務局長）委嘱
6月 開館以来1,000万人目の入館者を迎える
- 平成26年5月 美術館長（横井政和 元名古屋市選挙管理委員会事務局長）委嘱
- 平成29年4月 美術館参与（早瀬弘親 元名古屋市鶴舞中央図書館長）委嘱
- 平成29年7月 美術館長（早瀬弘親 元名古屋市美術館参与）委嘱
- 令和3年4月 美術館参与（深谷克典 元名古屋市美術館副館長）委嘱

常設展では「名品コレクション展」と題して、当館の4つの収集方針に基づき、「エコール・ド・パリ」「メキシコ・ルネサンス」「現代の美術」「郷土の美術」の4つのコーナーで、それぞれテーマを設定して収蔵作品を展示しています。また、館外の作品を含めた小企画「常設企画展」、そして所蔵作品による小企画「特集」を開催しています。

本年度は、令和2年度に延期となった特別展「アートとめぐる はるの旅」を常設展示室にて開催したため、名品コレクション展及び常設企画展は7月10日からの開催となりました。

7月10日からはブラザー工業株式会社により提供された多言語ミュージアムガイドアプリ「Multilingual Museum Guide (マルチリンガルミュージアムガイド)」の運用を開始しました。これは来館者が自分のスマートフォンやタブレット端末で、館内を見学しながら収蔵作品の解説を視聴できる、無料の音声ガイドアプリで、一度ダウンロードすれば館外でも解説を視聴できます。4つの収集分野から代表作品86点について、学芸員が執筆した解説を収録しました。

名品コレクション展

【エコール・ド・パリ】

第Ⅰ期「女性を表す」

女性の姿かたちは、数多くの美術作品に表され、社会の変化とともにその表現も変わってきました。エコール・ド・パリの作家が活躍しはじめた20世紀のはじめごろは、戦争や革命、科学技術の発展により社会の仕組みが大きく変わった時代でした。その時代にどのように女性の姿が描かれたかを、キスリング、シャガール、ドルティオールといった作家の作品から探りました。

第Ⅱ期「国境を越える」

“異邦人の集まり”であるエコール・ド・パリの画家たちは、フォーヴィスム、キュビスム、未来主義といった当時の前衛様式を吸収しながらも、それぞれの国民性や民族性に根ざした造形精神を忘れることなく、芸術家としてのアイデンティティを確立していきました。このたびは、ロシア（現ベラルーシ）生まれでユダヤ人のシャガール、日本からフランスへ渡った藤田嗣治をはじめ、ザツキンの彫刻作品やキスリングの油絵などを展示しました。

【メキシコ・ルネサンス】

第Ⅰ期「立ちつくす孤独」

フランシスコ・スニガの《立ちつくす孤独》は、不安、孤独、不確かさといった感情を見る者に抱かせます。スニガは寄る辺のない存在の不確かさを中南米の先住民の女性の姿で表しました。独立のための闘い、革命、そして戦いがもたらす悲しみ、苦悩に向き合った、シケイロス、オロスコ、タマヨ、カーロ、北川民次らの作品を展示しました。

第Ⅱ期「壁を壊す／壁に描く」

1920年代のメキシコでは、革命後の新政府下で“メキシ

コ人”という国民意識を確立していくなかで、農民や労働者が主体性をもつべきという社会主義的な思想も生まれました。リベラの《プロレタリアの団結》に加え、労働者の連帯や上流階級の生活への風刺などが描かれたリベラ作メキシコ文部省壁画を写したモドッティの写真、シャーンによる刑務所のための壁画下絵などを展示し、“壁に描く”ことで“壁を壊す”ことを望んだ作家たちの表現をひもときました。

【現代の美術】

第Ⅰ期「人をかたどる」

美術は、何かについて考え、感じたことを記録する方法でもあります。そのような美術では、見た目が本物に似ていることよりも、考え、感じたことがらをそれにふさわしく表すことが求められます。そして作家たちは、それぞれ工夫をしています。ここでは、人を対象として制作された芥川紗織、中島千波、舟越桂らの作品を紹介しました。

第Ⅱ期「境界を拓ける」

従来の絵画や彫刻といった表現方法に限らず、新しい素材や技法を用い、時には領域を横断する手法を選択する現代美術の作品を展示しました。ヴィデオ・アートの創始者の一人ナム・ジュン・パイクによる《ロボット家族》、拡大インクジェット印刷を用いた秋岡美帆の版画作品、山本富章や久野真といった地元の現代作家などを紹介しました。さらに、令和元年度に受贈した赤瀬川原平の「模型千円札裁判」関連資料を展示しました。

【郷土の美術】

第Ⅰ期「加藤大博と現代美術の5人」

令和元年度に収集した加藤大博（1936-）の作品3点と、1993年に名古屋市民ギャラリー（栄）にて開催された「1960年代の絵画—現代美術の5人—」展の出品作家として加藤が選んだ伊藤利彦、稲葉桂、近藤文雄、星野真吾、吉川家永の5人の作品を展示しました。

第Ⅱ期「北川民次—社会へのまなざし」

北川民次（1894-1989）は美術の社会における役割を重視し、現実の社会に真剣に向き合った制作を信念としていました。本展示では、メキシコの死生観が反映された《トラムパム霊園のお祭り》、沖縄米軍基地問題を主題とした《いなごの群れ》など、画家が“社会”や“民衆”をどのように捉えていたかをうかがい知ることのできる作品を展示しました。

常設企画展・特集

本年度は、名古屋出身で映画監督としても活躍する日比遊一氏の写真を紹介する常設企画展「日比遊一写真展／心の指紋」、愛知県立芸術大学文化財保存修復研究所との共同研究を報告した特集「鬼頭鍋三郎と松下春雄の女性像をさぐる」、また令和2年度に延期した特集「佃道」展を開催しました。

(1)名品コレクション展

Selected Works from the Collection of
Nagoya City Art Museum

名品コレクション展 I

会期：2021年7月10日(土)～11月14日(日)

常設展示室 1・2

☆：初出品 *：寄託作品 ○：特別出品

I 前期 2021年7月10日(土)～9月5日(日)

II 後期 2021年9月18日(土)～11月14日(日)

出品作品

No.	作家名	作品名	制作年	技法・材質	サイズ (cm)	
コレクション解析学						
1	ルフィーノ・タマヨ	メキシコの風	1952	リトグラフ・紙	4点1組 各25.0×19.3	I
☆ 2	加藤大博	点による作業-80.D2	1980	油彩・キャンヴァス	116.0×165.7×4.0	I・II

エコール・ド・パリ：女性を表す

* 1	安藤邦衛	赤い帽子をかぶった女	1919	油彩・キャンヴァス	38.0×30.5	I・II
2	海老原喜之助	風景	1927	油彩・キャンヴァス	81.4×100.3	I・II
3	田中 保	ソリタ・ソラノの肖像	1923	油彩・キャンヴァス	103.0×73.5	I・II
* 4	藤田嗣治	裸婦	1928	油彩・キャンヴァス	73.0×101.0	I・II
5	藤田嗣治	夢	1954	油彩・キャンヴァス	50.8×61.3	I・II
6	キース・ヴァン・ドンゲン	コルセットの女	1908	油彩・キャンヴァス	65.0×50.0	I・II
7	キスリング	ルネ・キスリング夫人の肖像	1920	油彩・キャンヴァス	73.7×54.6	I・II
8	キスリング	マルセル・シャンタルの肖像	1935	油彩・キャンヴァス	116.0×81.0	I・II
9	オンシップ・ザツキン	扇を持つ女	1923	ブロンズ	84.0×35.0×31.0	I・II
10	マルク・シャガール	二重肖像	1924	油彩・キャンヴァス	130.0×100.0	I・II
11	ハイム・スーチン	農家の娘	c. 1919	油彩・キャンヴァス	80.0×45.0	I・II
12	フランティシエク・ドルティコル	[女性の肖像]	1924	ゼラチンシルバー・プリント	5.2×11.3	I
13	フランティシエク・ドルティコル	女とマスク	c. 1924	ゼラチンシルバー・プリント	29.1×23.1	II
14	フランティシエク・ドルティコル	円の正接	c. 1925-28	ゼラチンシルバー・プリント	22.5×28.4	II
15	ジュール・バスキン	横たわるエリアーヌ	1929	油彩・キャンヴァス	73.2×92.6	I・II
16	パブロ・ピカソ	女	1922-23	エッチング・紙	イメージ:11.8×7.9 紙:21.3×17.6	I
17	アメデオ・モディリアアーニ	おさげ髪の少女	c. 1918	油彩・キャンヴァス	60.1×45.4	I・II
18	マリー・ローランサン	横たわる裸婦	1908	油彩・キャンヴァス	38.0×46.4	I・II

現代の美術：人をかたどる

1	芥川(間所)紗織	女	1954	染色・木綿	90.8×65.2	II
2	芥川(間所)紗織	入水するおとたちばな姫	1956	染色・絹	128.9×88.6	II
3	荒川修作	熱をもつものの中に入れること/私たち	1979-80	アクリル・キャンヴァス	254.0×692.0	I・II
4	黒蕨 壮	マイ・ハウスI	1986	木、ステンレス	230.0×150.0×50.0	I・II
5	設楽知昭	鏡よりモノタイプ	1988	カーボン、油・紙	117.0×67.0	I
6	設楽知昭	鏡よりモノタイプ	1988	カーボン、油・紙	117.0×67.2	I
7	設楽知昭	鏡よりモノタイプ	1988	カーボン、油・紙	117.0×67.1	I
○	8 鷺見 麿	新・聖なるファティアー「神秘の子羊の礼拝」	2013-2020	ミクストメディア	185.5×288.5×36.0	I・II
9	中島千波	衆生・女・3	1976	紙本着彩	220.2×175.3	I
10	中村正義	男女	1963	紙本着彩	182.0×259.5	I
11	藤本由紀夫	RECORD	2001	ミクストメディア	30.0×30.0×10.0	I・II
12	舟越 桂	かたい布はときどき話す	1988	木彫着彩	h.81.0	II
13	舟越 桂	「かたい布はときどき話す」のためのドローイング	1988	木炭、鉛筆・紙	97.0×86.3	II
14	真島直子	密林にて	2009	鉛筆・紙	114.0×300.0	I・II
☆*	15 真島直子	妖精	2012	ミクストメディア	185.0×32.0×45.0	I・II
16	三木富雄	耳	1972	アルミニウム	78.0×44.5×17.5	I・II
17	村井正誠	歩く人	1992	油彩・キャンヴァス	228.0×182.0	II
18	森村泰昌	兄弟(虐殺II)	1991	カラー写真、メディウム・パネル	240.0×309.0	I・II
19	アンゼルム・キーファー	シベリアの女王	1988	ミクストメディア	280.0×501.0×6.5	I・II
20	イサム・ノグチ	死すべきもの	1959/62(1988)	ブロンズ	190.0×51.0×48.0	I・II
21	フランク・ステラ	説教	1990	アルミニウム、ミクストメディア	345.5×365.8×139.7	I・II

メキシコ・ルネサンス：立ちつくす孤独

1	北川民次	老人	1932	油彩・キャンヴァス	76.0×61.0	I・II
2	北川民次	焼け跡	1945	油彩・キャンヴァス	65.5×80.6	I・II
3	ホセ・クレメンテ・オロスコ	メキシコ風景	1932	油彩・キャンヴァス	76.1×93.9	I・II
4	フリーダ・カーロ	死の仮面を被った少女	1938	油彩・ブリキ	14.9×11.0	I・II
5	ダビッド・アルファロ・シケイロス	カウテモックの肖像	1947	ピロキシリン・メゾナイト	75.5×62.0	II
6	ダビッド・アルファロ・シケイロス	母と子	1962	デュコ・メゾナイト	80.2×61.2	I
7	ダビッド・アルファロ・シケイロス	幼き母親	1956	リトグラフ・紙	93.5×66.5	I
8	フランシスコ・スニガ	立ちつくす孤独	1971	ブロンズ	h.181.0	I・II
9	ルフィーノ・タマヨ	乗り遅れた乗客	1946	油彩・キャンヴァス	97.2×84.0	I・II
10	ルフィーノ・タマヨ	苦悶する人	1949	油彩・キャンヴァス	100.0×80.0	I・II
11	ルフィーノ・タマヨ	人物	1975	リトグラフ・エンボス紙	76.0×55.0	II
12	ディエゴ・リベラ	プロレタリアの団結	1933	フレスコ・石膏(3層)、ワイヤラス(金網)、合板	161.9×201.3	I・II
13	アマドール・ルーゴ	戦いの後のメキシコの女	1939	ピロキシリン・キャンヴァス、板	98.0×80.7	I・II

郷土の美術：加藤大博と現代美術の5人

1	伊藤利彦	CUSTOM 5	1965	エナメル、ガラス用パテ・キャンヴァス	165.0×113.0	I
2	伊藤利彦	CUSTOM 12	1967	エナメル、ガラス用パテ・キャンヴァス	165.0×132.0	II
3	稲葉 桂	土にかえるもの63-2	1963	油彩、カシュー下地・パネル	164.0×132.0	I・II
4	稲葉 桂	作品66-7	1966	油彩、みがき粉、カシュー下地・キャンヴァス	132.0×164.0	I・II
☆	5 加藤大博	点からの作品-92.C2	1992	油彩・キャンヴァス	116.0×165.5×4.0	I・II
☆	6 加藤大博	Dots '84-8	1984	インク・紙 スクリーンプリント	イメージ:59.3×40.9 紙:66.5×50.3	II
☆	7 加藤大博	Dots '86-(K)	1986	インク・紙 スクリーンプリント	イメージ:90.9×60.4 紙:107.0×78.7	II
8	近藤文雄	タベルナクル	1962	油彩・キャンヴァス	3点1組 各73.0×61.0	I・II
9	近藤文雄	右手にいやなヤツがあらわれた	1963	インク、墨、鉛筆、水彩・紙	31.0×50.0	I
10	近藤文雄	さらしもの(1)	1964	インク、墨、鉛筆、水彩・紙	36.0×53.0	II
11	星野真吾	黒い犠牲	1966	紙本着彩	122.0×183.0	I
12	星野真吾	蒼色の作品	1969	紙本着彩	123.0×183.5	II
13	吉川家永	作品-31	1962	油彩・厚紙	167.0×137.0	I
14	吉川家永	方式79~○△×	1979	白黒写真、針金	182.0×144.0	II

名品コレクション展Ⅱ

会期：2021年12月11日(土)～2022年4月10日(日)

常設展示室1・2

☆：初出品 *：寄託作品

I 前期 2021年12月11日(土)～2022年2月6日(日)

II 後期 2022年2月23日(水・祝)～4月10日(日)

出品作品

No.	作家名	作品名	制作年	技法・材質	サイズ(cm)	
コレクション解析学						
1	庄司 達	白い布による空間 '68-6	1968	綿布、糸、塗装金属フレーム	216.0×202.0×202.0	I
2	北川民次	赤津陶工の家	1941	テンペラ・キャンヴァス	128.1×163.6	I・II
3	北川民次	赤津陶工の家(下図)	1941	水彩、鉛筆・紙	29.8×38.0	II

エコール・ド・パリ：国境を越える

1	オシップ・ザツキン	扇を持つ女	1923	ブロンズ	84.0×35.0×31.0	I・II
2	キスリング	新聞のある静物	1913	油彩・キャンヴァス	81.0×100.0	I・II
3	東郷青児	帽子をかむった男(歩く女)	1922	油彩・キャンヴァス	60.9×49.9	I・II
4	マルク・シャガール	二重肖像	1924	油彩・キャンヴァス	130.0×100.0	I・II
5	ディエゴ・リベラ	スペイン風景(トレド)	1913	油彩・キャンヴァス	89.0×110.0	I
6	マリー・ローランサン	サーカスにて	c. 1913	油彩・キャンヴァス	116.5×89.0	I
7	アメデオ・モディリアーニ	立てる裸婦(カリアティードのための習作)	c. 1911-12	油彩、水彩・紙、板	83.0×47.8	I
8	アメデオ・モディリアーニ	おさげ髪の少女	c. 1918	油彩・キャンヴァス	60.1×45.4	I
9	ハイム・スーチン	セレの風景	c. 1922	油彩・キャンヴァス	79.8×87.2	I
10	三岸節子	雷がくる	1979	油彩・キャンヴァス	89.0×116.3	I
11	ジュール・パスキン	クララとジュヌヴィエーヴ	1925	油彩・キャンヴァス	92.0×73.0	II
12	マリー・ローランサン	横たわる裸婦	1908	油彩・キャンヴァス	38.0×46.4	II
13	マリー・ローランサン	アポリネールの娘	c. 1924	油彩・キャンヴァス	73.1×54.0	II
14	モーリス・ユトリロ	ノルヴァン通り	1910	油彩・厚紙	73.1×92.0	II
15	海老原喜之助	風景	1927	油彩・キャンヴァス	81.4×100.3	II
16	岡鹿之助	魚	1927	油彩・キャンヴァス	60.0×73.0	II
17	鬼頭壺二郎	風景	1925	油彩・キャンヴァス	60.0×73.0	I・II
18	佐分 眞	風景	c. 1927-28	油彩・キャンヴァス	60.9×73.2	I・II
19	藤田嗣治	自画像	1929	油彩、鉛筆、金箔・キャンヴァス	81.4×65.5	I
* 20	藤田嗣治	猫を抱く少女	1949	油彩・キャンヴァス	70.0×51.5	II
21	藤田嗣治	二人の祈り	1952	油彩・キャンヴァス	46.2×38.2	I・II
22	藤田嗣治	夢	1954	油彩・キャンヴァス	50.8×61.3	I・II

現代の美術：境界を拓ける

1	アンゼラム・キーファー	シベリアの王女	1988	ミクストメディア	280.0×501.0×6.5	I・II
2	椎原 治	流氓ユダヤーヘブライの書	1941	ゼラチンシルバー・プリント	31.8×41.4	I
3	椎原 治	流氓ユダヤー窓	1941	ゼラチンシルバー・プリント	30.3×25.0	I
4	田淵銀芳	流氓ユダヤー題不詳(仲間、中庭)	1941 / 2005	ゼラチンシルバー・プリント	20.2×30.3	I
5	田淵銀芳	流氓ユダヤーチェス	1941 / 2005	ゼラチンシルバー・プリント	20.2×30.3	I
6	田淵銀芳	流氓ユダヤー父子	1941 / 2005	ゼラチンシルバー・プリント	20.2×30.3	I
7	田淵銀芳	流氓ユダヤー男	1941 / 2005	ゼラチンシルバー・プリント	30.1×20.1	I
8	川崎亀太郎	流氓ユダヤー題不詳(仲間)	1941 / 2005	ゼラチンシルバー・プリント	20.2×29.9	I
9	川崎亀太郎	流氓ユダヤー題不詳(三人の子供)	1941 / 2005	ゼラチンシルバー・プリント	20.2×30.1	I
10	川崎亀太郎	流氓ユダヤー題不詳(姉妹、窓辺)	1941 / 2005	ゼラチンシルバー・プリント	20.1×30.1	I
11	椎原 治	流氓ユダヤー仲間	1941	ゼラチンシルバー・プリント	30.9×43.7	II
12	椎原 治	流氓ユダヤー仮睡	1941	ゼラチンシルバー・プリント	35.7×43.2	II
13	田淵銀芳	流氓ユダヤー題不詳(ヘブライの書)	1941 / 2005	ゼラチンシルバー・プリント	20.2×30.3	II
14	田淵銀芳	流氓ユダヤー題不詳(窓)	1941 / 2005	ゼラチンシルバー・プリント	30.3×20.2	II
15	田淵銀芳	流氓ユダヤー題不詳(三人の子供)	1941 / 2005	ゼラチンシルバー・プリント	20.2×30.3	II
16	田淵銀芳	流氓ユダヤー題不詳(ベッド)	1941 / 2005	ゼラチンシルバー・プリント	20.2×30.3	II
17	川崎亀太郎	流氓ユダヤー題不詳(姉妹)	1941 / 2005	ゼラチンシルバー・プリント	20.2×30.1	II
18	川崎亀太郎	流氓ユダヤー題不詳(少女)	1941 / 2005	ゼラチンシルバー・プリント	20.1×29.9	II
19	川崎亀太郎	流氓ユダヤー題不詳(門前)	1941 / 2005	ゼラチンシルバー・プリント	20.2×30.1	II
20	辰野登恵子	WORK 86-P-12	1986	油彩・キャンヴァス	291.0×218.0	I・II
☆ 21	秋岡美帆	光の間 02-5-13-3	2002	インク・麻紙/NECOプリント	217.5×276.0	I・II
22	ナムジュン・パイク	ロボット家族(お父さん/お母さん)	1986	テレビ、ビデオ	226.1×139.1×52.1; 203.1×153.7×53.3	I・II
23	久野 真	鋼鉄による作品	1959	特殊染料、布、石膏、鋼鉄・板	182.0×364.0	I・II
24	久野 真	鋼鉄による作品(#397/#398)	1982	鋼鉄・板	各160.0×134.0	I・II
☆ 25	赤瀬川原平	模型千円札事件	1963-70	文書、証拠品、写真等		I・II
26	赤瀬川原平	押収品・模型千円札/パネル作品	1963	印刷物、ボルト、パネル	82.0×79.0	I・II
27	赤瀬川原平	《大日本零円札》と両替された現金の瓶詰	1968	現金、瓶	高さ 38.0	I・II
28	桑山忠明	無題:白	1987	油彩・ハニカムボード	91.5×61.0×10.2	I・II
29	桑山忠明	無題:黒	1987	油彩・ハニカムボード	91.5×61.0×10.2	I・II
30	桑山忠明	無題:黄土	1987	油彩・ハニカムボード	91.5×61.0×10.2	I・II
31	山本富章	Untitled(無題)	1987	ミクストメディア	286.0×382.0×16.0	I・II
32	フランク・ステラ	説教	1990	アルミニウム、ミクストメディア	345.5×365.8×139.7	I・II
☆ 33	ボスコ・ソディ	立方体	2017	粘土(煉瓦)	50.0×50.0×50.0	I・II
☆ 34	ボスコ・ソディ	Untitled(5×5)	2018	水彩・紙	28.9×20.5	I・II
☆ 35	ボスコ・ソディ	Untitled(6×5)	2018	水彩・紙	28.9×20.5	I・II
☆ 36	ボスコ・ソディ	Untitled(7×5)	2018	水彩・紙	28.9×20.5	I・II
☆ 37	ボスコ・ソディ	Untitled(8×5)	2018	水彩・紙	29.7×20.0	I・II
☆ 38	ボスコ・ソディ	Untitled(9×5)	2018	水彩・紙	28.2×20.5	I・II
☆ 39	ボスコ・ソディ	Untitled(10×5)	2018	水彩・紙	29.0×20.5	I・II

メキシコ・ルネサンス：壁を壊す／壁に描く

1	フリーダ・カーロ	死の仮面を被った少女	1938	油彩・金属板	14.9×11.0	I・II
2	ジョン・スローン	ヴェレツ監獄の解体	1929	テンペラ、油彩・厚紙	76.2×61.1	I・II
3	ディエゴ・リベラ	プロレタリアの団結	1933	フレスコ・石膏(三層)、ワイヤラス(金網)、合板	161.9×201.3	I・II
4	ホセ・クレメンテ・オロスコ	地下鉄／労働者(失業者)	1929	油彩・キャンヴァス	46.5×53.8	I・II
5	ダビッド・アルファロ・シケイロス	奴隷	1961	アクリル・板	86.4×64.8	I・II
6	ルフィーノ・タマヨ	苦悶する人	1949	油彩・キャンヴァス	100.0×80.0	I・II
7	ダビッド・アルファロ・シケイロス	カウテモックの肖像	1947	ピロキシリン・メゾナイト	75.5×62.0	I・II
8	ホセ・クレメンテ・オロスコ	メキシコ風景	1932	油彩・キャンヴァス	76.1×93.9	I・II
9	ダビッド・アルファロ・シケイロス	母と子	1962	デュコ・メゾナイト	80.2×61.2×1.0	I・II
10	ホセ・クレメンテ・オロスコ	白い神々	c. 1947	油彩・メゾナイト	71.0×91.5	I・II
11	ベン・シャーン	健康診断を受ける囚人たち	1934	テンペラ・厚紙	26.8×39.8	I・II
12	ベン・シャーン	牛乳工場で働く囚人たち	1934	グワッシュ・紙	35.6×49.5	I・II
13	ティナ・モドッティ	[メキシコ文部省壁画:大地の果実(部分)]	c. 1928	ゼラチンシルバー・プリント	20.2×25.3	I
14	ティナ・モドッティ	[メキシコ文部省壁画:エミリアーノ・サパタ(部分)]	c. 1928	ゼラチンシルバー・プリント	25.3×20.3	I
15	ティナ・モドッティ	[メキシコ文部省壁画:雨(部分)]	c. 1928	ゼラチンシルバー・プリント	25.3×20.2	I
16	ティナ・モドッティ	[メキシコ文部省壁画:眠り-貧者の夜]	c. 1928	ゼラチンシルバー・プリント	25.3×20.3	I
17	ディエゴ・リベラ	大地の果実	1932	リトグラフ・紙	55.3×39.9	I
18	ディエゴ・リベラ	エミリアーノ・サパタ	1932	リトグラフ・紙	57.5×40.3	I
19	ディエゴ・リベラ	タコスを持つ子供	1932	リトグラフ・紙	44.5×31.8	I
20	ディエゴ・リベラ	夢	1932	リトグラフ・紙	42.5×30.5	I
21	ティナ・モドッティ	[メキシコ文部省壁画:ABCの学習]	c. 1928	ゼラチンシルバー・プリント	25.3×20.2	II
22	ティナ・モドッティ	[メキシコ文部省壁画:統一戦線]	c. 1928	ゼラチンシルバー・プリント	24.1×18.9	II
23	ティナ・モドッティ	[メキシコ文部省壁画:[世界のすべての富は大地からもたらされる]]	c. 1928	ゼラチンシルバー・プリント	23.4×19.2	II
24	ティナ・モドッティ	[メキシコ文部省壁画:労働へ]	c. 1928	ゼラチンシルバー・プリント	21.0×14.5	II
25	ティナ・モドッティ	[メキシコ文部省壁画:脱穀]	c. 1928	ゼラチンシルバー・プリント	21.0×14.5	II
26	ティナ・モドッティ	[メキシコ文部省壁画:抗議]	c. 1928	ゼラチンシルバー・プリント	24.1×18.6	II
27	ティナ・モドッティ	[メキシコ文部省壁画:トラクター]	c. 1928	ゼラチンシルバー・プリント	25.3×20.2	II
28	ティナ・モドッティ	[メキシコ文部省壁画:保障-資本主義の残骸]	c. 1928	ゼラチンシルバー・プリント	23.8×18.8	II
29	ティナ・モドッティ	[メキシコ文部省壁画:労働組合]	c. 1928	ゼラチンシルバー・プリント	25.3×20.3	II
30	ティナ・モドッティ	[メキシコ文部省壁画:乱痴気騒ぎ-金持ちの夜(部分)]	c. 1928	ゼラチンシルバー・プリント	20.3×25.3	II

郷土の美術：北川民次—社会へのまなざし

1	北川民次	トラルバム霊園のお祭り	1930	油彩・キャンヴァス	99.5×89.8	I・II
2	北川民次	メキシコ水浴の図	1930	油彩・キャンヴァス	78.6×68.5	I・II
3	北川民次	老人	1932	油彩・キャンヴァス	76.0×61.0	I・II
4	北川民次	作文を書く少女	1939	油彩・キャンヴァス	73.4×60.7	I・II
6	北川民次	瀬戸登り窯	c. 1940	油彩・キャンヴァス	80.5×100.3	II
5	北川民次	焼け跡	1945	油彩・キャンヴァス	65.5×80.6	I・II
6	北川民次	赤津陶工の家	1941	テンペラ・キャンヴァス	128.1×163.6	I・II
7	北川民次	陶器工場内部	1936	グワッシュ・紙	39.8×40.6	I・II
8	北川民次	瀬戸風景(中学生の居る風景)	1936	グワッシュ・紙	38.5×38.5	I・II
9	北川民次	瀬戸風景	1937	グワッシュ・紙	39.5×38.5	I・II
10	北川民次	酸素溶接工場	1937	グワッシュ・鉛筆・紙	38.9×38.5	I・II
11	北川民次	瀬戸風景(まちかど)	1936-37	グワッシュ・紙	38.8×38.5	I・II
12	北川民次	雑草の如くII	1948	油彩・キャンヴァス	162.0×130.9	I・II
13	北川民次	いなごの群れ	1959	油彩・キャンヴァス	162.0×130.5	I・II
14	北川民次	哺育	1964	油彩・キャンヴァス	130.3×162.0	I・II

(2)常設企画展 Thematic Exhibition

日比遊一写真展／心の指紋

“imprint”, Photographs by Yuichi Hibi

会期：2021年7月10日(土)～9月5日(日)

会場

常設展示室3

内容

1964年、名古屋市熱田区生まれの日比遊一は、30年近くにわたり、ニューヨークを拠点に写真家として活動を続け、一方で映画監督としても、俳優高倉健をテーマにしたドキュメンタリー作品「健さん」で数々の賞を受賞するなど、高い評価を得ている。本展覧会「心の指紋」は、2005年に刊行された日比の最初の写真集に収められた、モノクロームの銀塩写真79点を陳列した。これらは、1992年、日比の7年ぶりの帰国の前後に、ニューヨークと日本各地で撮影されたもので、ニューヨークで撮影された写真29点と、日本で撮影された写真50点で構成された。会場には写真とあわせて、写真集に収録されている日比直筆の手紙の原本も展示された。

本展は、作者にとって生まれ故郷で開催される初めての個展となった。なお、本展の開幕に先立って、日比の監督による名古屋を舞台とした映画『名もなき日』が6月に全国公開されている。

関連催事

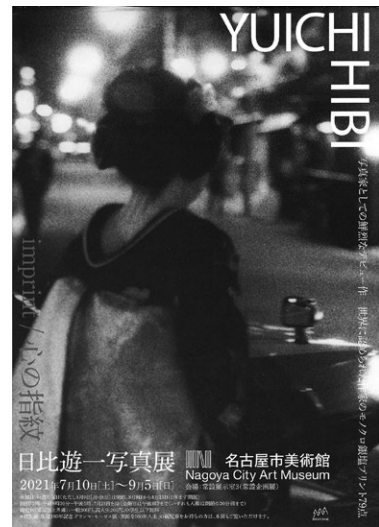
日比遊一講演会

日 時：7月17日(土)午後2時～午後3時30分

講 師：日比遊一

聞き手：深谷克典(名古屋市美術館参与)

会 場：名古屋市美術館2階講堂



チラシ



会場風景



日比遊一講演会

特集 鬼頭鍋三郎と松下春雄の 女性像をさぐる

Exploring female figures by Kito Nabesaburo and
Matsushita Haruo around 1930's

会期：2021年9月18日(土)～11月14日(日)

会場

常設展示室3

内容

本展示は、郷土の洋画史上重要な作家である鬼頭鍋三郎(1899-1982)と松下春雄(1903-1933)が1930年代に描いた女性像を、愛知県立芸術大学文化財保存研究所と光学機器等を用いて共同で調査し、2人がどのように描いたのかをさぐった。

鬼頭と松下は、1923年に名古屋で旗揚げされた、絵画グループ「サンサンオン」の創設メンバーで、洋画研究所を開設し、公募展を開催するなど当時の名古屋洋画壇に新風を吹き込んだ。また、2人は、当時の画家の登竜門であった帝展に積極的に出品し、入選を重ね、1931年にはまず松下が《花を持つ女》で帝展の特選に選ばれ、その3年後には鬼頭が《手をかざす女》で特選に選ばれた。松下は残念ながら30歳の若さで夭折したが、鬼頭は画家として活躍を続け、愛知の洋画壇を牽引した。

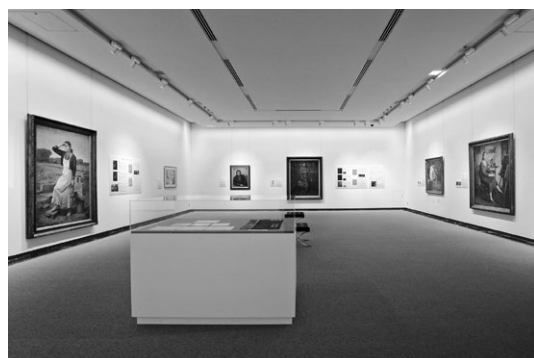
本展示では、2人の代表作《手をかざす女》、《花を持つ女》を中心に、1930年代に制作した女性像作品の調査結果を報告した。調査は、デジタルカメラによる高精度撮影、デジタルマイクロスコープによる観察、側光線、紫外線、赤外線による特殊写真撮影、蛍光X線装置による分析を用いて行った。自然科学的手法を使ったこうした調査では、肉眼での観察では見えてこない作家の工夫や描き直し、使われた材料、傷み具合、後世による加筆を知ることができる。また、調査結果を集積することによって、作品の履歴や作家の画歴をひもとくことになり、後世に作品を引き継いでいくための重要な情報となる。本展示を通して、材料や作家の描き方を読み解く面白さを発見し、作品保存への理解を深める機会となることを目指した。

出品作品

No.作家名	作品名	制作年	技法・材質	サイズ (cm)
1 鬼頭鍋三郎	背向きの裸婦	1930	油彩・キャンヴァス	116.0×99.0
2 鬼頭鍋三郎	画室の女	1933	油彩・キャンヴァス	160.0×120.0
3 鬼頭鍋三郎	手をかざす女	1934	油彩・キャンヴァス	191.0×129.0
4 鬼頭鍋三郎	裸婦	1934	油彩・キャンヴァス	116.5×91.0
5 松下春雄	下落合徳川男爵別邸	1926	水彩・紙	78.5×63.0
6 松下春雄	第5回サンサンオン展の旗	1928	手彩色・染色・布	71.0×47.5
7 松下春雄	花を持つ女	1931	油彩・キャンヴァス	162.3×130.1
8 松下春雄	外套を着た女	c.1931-33	油彩・キャンヴァス	91.0×73.0



会場風景



会場風景

特集 佃政道

Tsukuda Masamichi, Woodcut Artist

会期：2021年12月11日(土)～2022年2月6日(日)

会場

常設展示室3

内容

佃政道(つくだまさみち/1901-1992)は、瀬戸市を拠点とした木版画家である。大和路や生まれ故郷の岡山を主題とした作品で知られており、鋭く勢いのある線で対象を大胆に描き出した画面は、生き生きとした動きを伴って、場の持ち味やそこにある情感をも繊細に表現している。佃は、彫りに技巧を凝らすことを避け、いずれの作品もほとんどを切り出し刀だけで仕上げている。

岡山県に生まれた佃は、私立関西中学校(現在の関西高等学校)に入学した1914(大正3)年から卒業の1919(大正8)年まで、大原美術館の作品収集に関わった洋画家の児島虎次郎(こじまとらじろう/1881-1929)に指導を受けている。兄の佃武昭(つくだたけあき/1891-1968)も東京美術学校(現在の東京藝術大学)を卒業した洋画家である。佃は、中学校を卒業したあと、東京美術学校図案科に進学し、1924(大正13)年に卒業している。1930(昭和5)年から1950(昭和25)年まで日本水彩画会に所属し、水彩画家として制作に取り組んでいる。1932(昭和7)年に愛知県立瀬戸窯業学校(現在の愛知県立瀬戸窯業高等学校)の教諭となり、1960(昭和35)年まで勤め、以来、死去するまで瀬戸市に居住した。

佃が版画制作に取り組んだのは、中学校からの友人であった料治熊太(りょうじくまた/1899-1982)の依頼を受けたもので、料治が手掛けた1930(昭和5)年刊行の版画雑誌「白と黒」に前川千帆(まえかわせんぱん/1888-1960)、平塚運一(ひらつかうんいち/1895-1997)、谷中安規(たになかやすのり/1897-1946)、棟方志功(むなかたしこう/1903-1975)などとともに作品を発表している。料治は後に古美術研究家となり、佃の『版画大和路』(1971年、徳間書店)に作品図版に添える和歌とあとがきを提供している。

版画の制作が次第に主流となるものの、佃の多色木版画には水彩画の経験が生かされており、力強い墨一色の木版画とは異なる色彩の調和を楽しませる作品となっている。多色木版画には色違いのものもあり、佃がそれぞれの表現の効果を確かめていたことがうかがわれる。

この度の展示では、朝日新聞名古屋版連載記事の挿図として制作された《中部の女》と《とうかい事物考》に大和路を主題とする作品を加えて紹介した。これらの作品は2012(平成24)年度にご遺族からの寄贈により所蔵となったもので、はじめての展示である。この地域の風物を的確に描き留める《中部の女》と《とうかい事物考》は、往時を知るための貴重な記録ともなっており、主題とともに地域にゆかりのある作家とその作品を広く紹介する機会とした。

この展示は2020年7月11日(土)から8月30日(日)の会期で実施を予定していたが、新型コロナウイルス感染症と改修工事への対応により会期を改めて実施した。

リーフレット

A3両面二つ折り 4ページ

編集・執筆:角田美奈子(名古屋市美術館学芸員)

発行:名古屋市美術館



会場風景

出品作品

《中部の女》

作者はすべて佃政道。所蔵はすべて名古屋市美術館。作品名は掲載表題。制作年は1966年。技法は木版画、番号80のみ素描。大きさは用紙。

番号	作品名	大きさ(cm)	番号	作品名	大きさ(cm)
1	四日市(上)	19.8×14.3	41	設楽(下)	15.4×22.4
2	四日市(中)	15.9×19.4	42	桑名(上)	22.7×15.7
3	四日市(下)	18.5×13.9	43	中津川(上)	16.0×23.4
4	岡崎(上)	23.5×16.0	44	中津川(下)	23.4×16.0
5	岡崎(下)	15.9×23.2	45	伊賀上野(上)	16.0×23.3
6	志摩(上)	16.0×23.4	46	伊賀上野(下)	23.2×15.8
7	志摩(中)	17.8×11.3	47	犬山(上)	18.1×24.7
8	志摩(下)	23.4×16.0	48	犬山(下)	14.7×20.1
9	郡上	21.5×14.1	49	刈谷(上)	16.0×23.3
10	半田(上)	15.5×22.9	50	刈谷(下)	14.5×20.9
11	半田(中)	16.0×23.3	51	尾鷲(上)	23.4×16.0
12	半田(下)	14.3×18.3	52	尾鷲(下)	23.4×15.9
13	亀山(上)	16.0×23.4	53	多治見(下)	20.7×15.1
14	亀山(下)	14.3×18.3	54	松阪(上)	15.4×22.8
15	美濃(上)	15.5×22.9	55	松阪(下)	16.0×23.4
16	美濃(下)	15.7×23.1	56	西尾(上)	14.0×21.2
17	浜松(上)	18.5×11.7	57	西尾(下)	20.6×14.1
18	浜松(中)	23.2×15.9	58	岐阜(上)	16.0×23.4
19	浜松(下)	23.4×15.8	59	岐阜(中)	21.0×15.4
20	瀬戸	12.9×18.6	60	岐阜(下)	17.9×12.0
21	伊勢(上)	23.4×16.2	61	鈴鹿	16.1×23.2
22	伊勢(中)	20.7×12.7	62	一宮(上)	15.8×23.1
23	伊勢(下)	15.9×24.0	63	一宮(下)	15.6×21.8
24	津島(上)	9.5×17.7	64	関(上)	16.0×23.4
25	津島(下)	23.0×15.7	65	関(下)	22.3×14.1
26	豊田(上)	15.5×22.9	66	渥美(上)	15.3×21.0
27	豊田(中)	15.5×23.2	67	渥美(下)	23.5×16.1
28	豊田(下)	16.6×10.4	68	名古屋(1)	15.9×22.1
29	大垣(上)	22.7×15.0	69	名古屋(2)	16.0×23.4
30	大垣(中)	15.9×23.4	70	名古屋(3)	23.4×16.0
31	大垣(下)	23.5×16.0	71	名古屋(4)	23.4×16.0
32	安城(上)	15.7×22.5	72	豊橋(上)	14.9×19.0
33	安城(下)	23.4×16.0	73	豊橋(中)	15.7×24.9
34	津(上)	16.0×23.4	74	豊橋(下)	23.3×16.0
35	津(中)	15.6×23.2	75	題字「中部の女」	16.0×11.8
36	高山(上)	16.4×24.1	76	関(下)別案	22.7×15.8
37	高山(中)	16.2×23.5	77	桑名別案	12.1×16.6
38	高山(下)	16.0×23.3	78	鈴鹿別案	15.7×21.2
39	設楽(上)	16.0×23.3	79	[長久手]	23.3×16.0
40	設楽(中)	23.5×16.0	80	志摩(下)下絵	22.0×14.8

《とうかい事物考》

作者はすべて佃政道。所蔵はすべて名古屋市美術館。作品名は掲載表題。制作年は1977-78年。技法は木版画、番号39と40は木版画とコラージュ。大きさは用紙。

番号	作品名	大きさ(cm)	番号	作品名	大きさ(cm)
1	せともの①	23.2×16.0	21	長良川ウ飼い④	15.9×23.4
2	せともの②	23.4×16.1	22	長良川ウ飼い⑤	23.2×16.0
3	せともの③	23.4×15.9	23	郡上おどり(上)	23.5×15.9
4	せともの④	23.5×16.1	24	郡上おどり(中)	23.7×16.2
5	美濃の柿(上)	23.3×16.1	25	郡上おどり(下)	23.5×16.1
6	美濃の柿(中)	23.6×16.2	26	浜名湖ウナギ(上)	23.4×16.1
7	美濃の柿(下)	23.3×16.0	27	浜名湖ウナギ(中)	23.6×16.2
8	堀川	15.9×23.3	28	浜名湖ウナギ(下)	23.6×16.2
9	三ヶ日ミカン①	23.5×16.2	29	ういろう①	23.4×16.1
10	三ヶ日ミカン②	16.1×23.6	30	ういろう②	16.2×23.6
11	三ヶ日ミカン③	23.5×16.1	31	ういろう③	23.6×16.2
12	三ヶ日ミカン④	16.6×23.6	32	ういろう④	23.6×16.2
13	豊川稲荷①	23.4×16.0	33	題字「とうかい事物考」(縦)	14.8×10.0
14	豊川稲荷②	16.0×23.7	34	題字「とうかい事物考」(横)	10.0×14.7
15	豊川稲荷③	23.6×16.1	35	せともの別案	23.4×16.0
16	豊川稲荷④	23.4×16.0	36	堀川別案①	16.6×23.7
17	豊川稲荷⑤	15.9×23.7	37	堀川別案②	23.5×16.2
18	長良川ウ飼い①	16.1×23.6	38	浜名湖ウナギ別案	23.6×16.1
19	長良川ウ飼い②	16.1×23.5	39	ういろう別案①	23.6×16.2
20	長良川ウ飼い③	23.4×16.0	40	ういろう別案②	23.7×16.1

〈大和路〉シリーズ

作者はすべて佃政道。所蔵はすべて名古屋市美術館。技法は木版画(番号1~12は一色、番号13~21は多色)。大きさは用紙。

番号	作品名	制作年	大きさ(cm)	番号	作品名	制作年	大きさ(cm)
1	東大寺大仏殿	1958年	46.2×31.9	13	宇治川	1958年	32.1×47.4
2	談山神社十三重塔	1965年	47.0×32.3	14	香久山	1960年	31.7×46.3
3	春日大社	1968年	31.9×46.3	15	室生寺修円の墓	1961年	46.3×32.1
4	奈良公園丸窓	1972年	32.3×47.0	16	耳成山	1970年	32.2×47.4
5	於美阿志神社層塔	1972年	47.0×32.3	17	宝幢寺本堂	1973年	32.4×47.0
6	弘仁寺本堂	1973年	47.2×32.6	18	柏木	1973年	46.8×32.2
7	鑑真の墓	1973年	32.2×46.5	19	室生寺奥院	1974年	46.4×32.0
8	豪溪	1976年	47.3×32.1	20	奥香落錯岳	1983年	46.8×32.0
9	高野槇樹叢	1977年	47.2×32.1	21	吉備津の竈	1969年	46.8×32.4
10	弘川寺西行墓	1981年	32.3×47.0				
11	十津川街道城戸	1984年	46.9×32.3				
12	聖徳太子廟	不詳	32.0×46.3				

〈[女性像]〉

作者はすべて佃政道。所蔵はすべて名古屋市美術館。制作年は不詳。技法は木版画(番号1~3は一色、番号4と5は多色)。大きさは用紙。

番号	作品名	大きさ(cm)
1	[立てる裸婦]	32.3×15.7
2	[座る裸婦]	15.9×12.3
3	[横たわる裸婦]	23.5×15.9
4	[東京市電乗客心得]	23.5×16.2
5	[ハンドバッグ]	23.5×8.0

令和3年度は、前年度からの継続の展覧会も含め6件の特別展を開催しました。内容としては、コレクションによる企画、フランス、アメリカ、オランダの作家、また当地方の美術の動向を紹介する展覧会と幅広く多くの方楽しんでいただける企画を組むことができたと考えており、また評価もいただきました。

運営面では、前年度は新型コロナウイルス感染症拡大防止と改修工事のため約9か月休館しましたが、本年度は年間を通じて開館することができました。しかし、開催中も緊急事態宣言やまん延防止等重点措置の発令があり、感染対策しながらの開催となりました。

前年度の3月25日に開幕した「アートとめぐる はるの旅」は、新型コロナウイルス感染症拡大の影響を受けて、時期をずらし、会場を地下1階常設展示室1、2に変更して開催しました。「旅するような気分でアートを楽しむ」をテーマに、これまで展示の機会が少なかった当館の“隠れた名品”を含めた内容となりました。子どもたちの鑑賞の補助としてカラー版のワークブックを作成。学校教材としての活用を図り、また美術館の周知に努めました。

特別展を開催している企画展示室では、4月10日から「ランス美術館コレクション 風景画のはじまり コローから印象派へ」を開催しました。フランス・シャンパーニュ地方の古都ランスは名古屋市の姉妹都市です。本展では、同市にあるランス美術館の所蔵作品から選りすぐりの作品で、印象派へとつながる風景画の歴史をたどりました。同美術館は、巨匠カミーユ・コローの世界的に知られた傑作コレクションを所蔵しており、本展ではその中から16点を紹介しました。

7月10日からは、アメリカの国民的画家でグランマ・モーゼス（モーゼスおばあさん）として知られるアンナ・メアリー・ロバートソン・モーゼスの展覧会「生誕160年記念 グランマ・モーゼス展—素敵な100

年人生」を開催しました。70代で本格的に絵を描き始め、101歳で亡くなるまでたくましく誠実に生き抜いた彼女の人生を、愛用品を展示し、作品とあわせて紹介しました。

9月18日からは、19世紀から20世紀にかけて活躍したフランスの動物彫刻家フランソワ・ポンポンの日本初の回顧展を開催しました。《シロクマ》に代表される、シンプルな造形で表現された動物の姿が多くの人を魅了しました。子ども向けのチラシも好評で、ファミリー層の集客につながりました。また、若者からも人気で、撮影できる作品をスマホで収める姿も多く見られました。

12月11日からは、「現代美術のポジション2021-2022」を開催しました。1994年に、名古屋および近隣地域で活躍する作家を紹介し、当地方の現代美術を全国に発信する展覧会として始まった「ポジション」は今回で通算6回目になりました。このたびは洋画・日本画・彫刻・映像といった分野を基盤としながら、独自の表現を追求している中堅・若手の作家9人を取り上げました。「ポジション」は、当地方の美術の発信の機会として重要な展覧会であるという評価を複数いただき、今後も継続していければと考えています。

令和4年2月23日からは、「ゴッホ展—響きあう魂 ヘレーネとフィンセント」を開催しました。ファン・ゴッホの作品を収集したことで知られるヘレーネ・クレラー＝ミュラー。本展では、作品を通じて「魂の交流」ともいえるほどの深い結びつきを得た画家ファン・ゴッホと収集家クレラー＝ミュラーの關係に焦点をあてて、ファン・ゴッホの作品の魅力を紹介しました。《夜のプロヴァンスの田舎道》、《黄色い家（通り）》などファン・ゴッホの代表作を含む展覧会は大きな話題となり、多くの来場者を迎えることができました。（令和4年4月10日閉幕）。

ランス美術館コレクション 風景画のはじまり コローから印象派へ

En route to Impressionism
French paintings from the Fine Art Museum, Reims

会期：2021年4月10日(土)～6月6日(日)

会場

企画展示室1・2

主催

名古屋市美術館、中日新聞社、テレビ愛知

後援

在日フランス大使館／アンステイチュ・フランセ日本、名古屋市立小中学校PTA協議会

協力

日本航空

企画・監修

ランス美術館

企画協力

プレントラスト

観覧料

- ・平日限定券
一般：1,400円、高大生：900円
- ・土日祝日・日時指定券
(事前予約購入)一般：1,500円、高大生：1,000円
(当日購入)一般：1,600円、高大生：1,100円
- ・中学生以下：無料

内容

2017年に名古屋市とランス市は姉妹都市提携を結び、「ランス美術館展」を開催した。2回目となる本展は、「風景画のはじまり」と題して、19世紀フランス風景画の展開、すなわち戸外制作の歴史を辿る内容だった。現在リニューアル休館中のランス美術館蔵の油彩画約50点(バルビゾン派、ウジェーヌ・ブーダン、またモネ、ルノワール、ピサロら印象派の作品)にくわえ、個人蔵の版画26点、当時の資料(絵具セットや絵画理論書)を展示した。なかでも見どころは、フランス風景画の巨匠カミーユ・コローの油彩画16点をまとめて鑑賞できる点で、これは名古屋では初めての機会であった。

図録

29.0×22.5cm 152ページ

編集：(株)プレントラスト

発行：「ランス美術館コレクション 風景画のはじまり コローから印象派へ」カタログ制作委員会

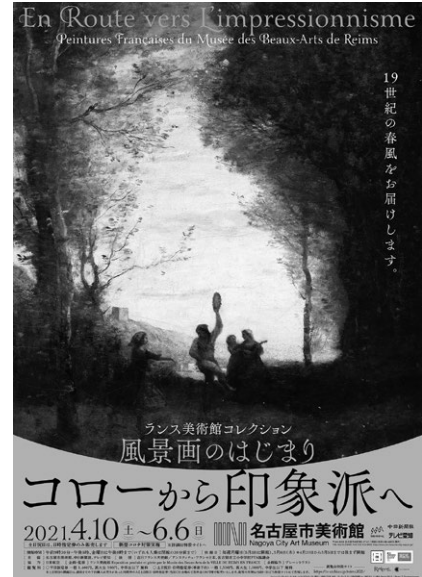
関連催事

展覧会解説会

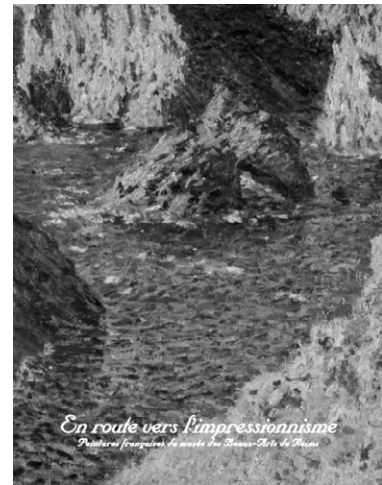
日時：4月24日(土)、5月9日(日)午後2時～

場所：名古屋市美術館2階講堂

講師：勝田琴絵(名古屋市美術館学芸員)



ポスター



図録



鑑賞ガイド

出品作品

No. 作家名	作品名	制作年	技法・材質	寸法(cm)	
I コローと19世紀風景画の先駆者たち					
1	アシル＝エトナ・ミシャロン	水車小屋のある風景	1814-16年	油彩／カンヴァスに裏打ちされた紙	37.5×26.4
2	ジャン＝ヴィクトール・ベルタン	風景	1820年	油彩／カンヴァス	39.2×46.1
3	ジョルジュ・ミシェル	森のはずれの藁ぶき小屋(羊飼い、砂州、農家)	1795年頃	油彩／カンヴァス	51.7×70.2
4	フランソワ＝オーギュスト・ラヴィエ	平原の老木	1868年	油彩／カンヴァス	23.2×42.0
5	ギュスターヴ・クールベ	レマン湖の岸边(急流)	1875年頃	油彩／カンヴァス	61.5×50.1
6	ジャン＝バティスト・カミーユ・コロー	カーヴェ山	1825-28年頃	油彩／厚紙に貼られたカンヴァス	29.2×42.5
7	ジャン＝バティスト・カミーユ・コロー	ヴィラ・メディチの噴水盤	1825-28年頃、1845年以降に加筆	油彩／カンヴァス	18.0×28.6
8	ジャン＝バティスト・カミーユ・コロー	春、柳の木々		油彩／カンヴァス	40.0×60.2
9	ジャン＝バティスト・カミーユ・コロー	岸边の小舟に乗る漁師	1860-65年	油彩／カンヴァス	40.0×62.3
10	ジャン＝バティスト・カミーユ・コロー	川を渡る	1860-67年	油彩／カンヴァス	37.8×60.0
11	ジャン＝バティスト・カミーユ・コロー	小川、ボーヴェ近郊	1860-70年	油彩／カンヴァス	55.5×41.6
12	ジャン＝バティスト・カミーユ・コロー	水辺で洗濯する女性たち	1860-70年	油彩／カンヴァス	46.5×56.0
13	ジャン＝バティスト・カミーユ・コロー	イタリアのダンス	1865-70年	油彩／カンヴァス	66.5×47.7
14	ジャン＝バティスト・カミーユ・コロー	湖畔の木々の下のふたりの姉妹	1865-70年	油彩／カンヴァス	67.4×47.6
15	ジャン＝バティスト・カミーユ・コロー	アルバーノ湖の思い出	1865-70年	油彩／カンヴァス	54.4×73.3
16	ジャン＝バティスト・カミーユ・コロー	樹間の小道、春	1860-70年	油彩／カンヴァス	55.2×41.0
17	ジャン＝バティスト・カミーユ・コロー	突風	1865-70年	油彩／カンヴァス	47.4×58.9
18	ジャン＝バティスト・カミーユ・コロー	柳の近く、小舟で漁をする人	1870-73年頃	油彩／カンヴァス	54.5×65.3
19	ジャン＝バティスト・カミーユ・コロー	ワニオンヴィルの森の小道	1871年	油彩／カンヴァス	46.0×61.3
20	ジャン＝バティスト・カミーユ・コロー	谷間を馬に乗って横切る人	1843年、1872-73年に加筆	油彩／カンヴァス	32.5×46.4
21	ジャン＝バティスト・カミーユ・コロー	地中海沿岸の思い出	1873年頃	油彩／カンヴァス	57.0×73.5

II バルビゾン派

22	アントワーヌ＝ルイ・バリー	フォンテーヌブローの森の砂利道		油彩／カンヴァス	25.3×31.5
23	テオドール・ルソー	沼	1842-43年	油彩／カンヴァス	41.1×63.3
24	シャルル＝フランソワ・ドービニー	森の中の小川	1866年	油彩／板	39.0×67.1
25	シャルル＝フランソワ・ドービニー	風景、雨模様の空	1865年	油彩／板	30.9×49.3
26	ジュール・デュプレ	風車	1835年頃	油彩／板	22.8×36.2
27	ナルシス・ディアズ・ド・ラ・ペーニャ	森の中の小さな沼		油彩／板	20.0×26.1
28	シャルル・ジャック	水飲み場の羊の群れ	1850-55年	油彩／板	37.6×46.3
29	シャルル・ジャック	放牧地の羊の群れ	1873年	油彩／カンヴァス	81.2×65.4
30	コンスタン・トロワイヨン	ノルマンディー、牛と羊の群れの帰り道	1856年	油彩／板	46.2×60.8
31	アンリ＝ジョゼフ・アルビニー	ヨンヌの思い出、サン＝プリヴェからプレノーへの道	1885年	油彩／カンヴァス	55.0×72.2
32	アンリ＝ジョゼフ・アルビニー	晴天のサン＝プリヴェ	1886年	油彩／カンヴァス	27.4×35.4
33	アンリ＝ジョゼフ・アルビニー	夜明け	1890年	油彩／カンヴァス	100.5×152.4

Ⅲ 画家＝版画家の誕生

34	ジャン＝バティスト・カミーユ・コロ	森の中の大きな騎手	1854年	クリエ・ヴェール(ガラス版印刷)／紙	28.5×22.4
35	ジャン＝バティスト・カミーユ・コロ	イタリアの風景	1865年頃	エッチング／紙	15.8×23.4
38	ポール・ユエ	フォンテーヌブロー近郊	1866年	エッチング／紙	23.2×31.5
39	レオ・ドルーアン	ジロンド、ラ・カノー沼	1863年	エッチング／紙	24.0×31.7
40	シャルル＝フランソワ・ドービニー	夕暮れ	1859年	エッチング／紙	14.5×20.6
41	シャルル＝フランソワ・ドービニー	柵の中の羊の群れ、朝	1860年、刷り1862年	エッチング／紙	18.4×34.2
42	シャルル＝フランソワ・ドービニー	月の出	1861年	エッチング／紙	13.4×19.4
43	シャルル＝フランソワ・ドービニー	カラスのいる木	1867年	エッチング／紙	21.7×29.9
44	シャルル＝フランソワ・ドービニー	ポール＝モランのセーヌ川	1876年	エッチング／紙	19.4×27.5
45	ヨハン・バルトルト・ヨンキント	オランダ、マースラン村からの眺め	1862年	エッチング／紙	24.0×32.5
46	オーギュスト・ドラートル	朝	1865年	エッチング／紙	24.7×32.2
47	グザヴィエ・ド・ダナンシュ	森の中	1863年	エッチング／紙	36.5×24.0
48	ジャン＝フェルディナン・シエニョー	平原の羊の群れ		エッチング／紙	23.8×32.4
49	ジャン＝フェルディナン・シエニョー	羊の小さな群れ		エッチング／紙	24.3×31.9
50	テオフィル・ナルシス・ショヴェル	テルノワーズ川 の岸辺にて	1863年	エッチング／紙	23.5×31.5
51	テオフィル・ナルシス・ショヴェル	アブルモン峡谷の十字路		エッチング／紙	31.5×23.8
52	フェリックス・ブラックモン	冬		エッチング／紙	16.3×24.8
53	ジャン＝アルフレ・デブロス	カエルの住む沼		エッチング／紙	16.3×24.8
54	タンクレード・アブラアム	ブルターニュ、ファイエーユの池	1863年	エッチング／紙	21.5×32.0
55	ジャン・フランソワ・ミレー	野良仕事(「イリュストラシオン」誌 no. 519)	1853年2月5日	印刷／紙	36.0×26.0
56-1	オーギュスト・ペクノー	『田園の風景画家』の扉絵	1876年	エッチング／紙	14.5×21.8
56-2	ジャン＝バティスト・カミーユ・コロ	さびしい場所	1876年	エッチング／紙	11.0×14.0
56-3	アドルフ・ポルティエ	風景画家たち(レオン・ロワールに基づく)	1876年	エッチング／紙	11.0×14.0
56-4	レオポルド・デブロス	おしゃべりな女性たちの会話	1876年	エッチング／紙	11.0×14.0
56-5	レオポルド・デブロス	下校	1876年	エッチング／紙	11.0×14.0
56-6	レオン・オーギュスタン・レルミット	村にて	1876年	エッチング／紙	11.0×14.0

Ⅳ ウージェーヌ・ブーダン

57	ウージェーヌ・ブーダン	水飲み場の牛の群れ	1880-95年	油彩／カンヴァス	79.3×109.6
58	ウージェーヌ・ブーダン	ポルドーの港、バカラン埠頭の眺め	1874年	油彩／カンヴァス	36.4×58.4
59	ウージェーヌ・ブーダン	ポルドーの港、シャルロン埠頭の眺め	1875年	油彩／カンヴァス	54.5×90.5
60	ウージェーヌ・ブーダン	上げ潮(サン＝ヴァレリの入り江)	1888年	油彩／カンヴァス	50.0×75.3
61	ウージェーヌ・ブーダン	ベルク、出航	1890年	油彩／カンヴァス	79.0×110.2
62	ウージェーヌ・ブーダン	ベルク、船の帰還	1890年	油彩／カンヴァス	79.0×109.6
63	ウージェーヌ・ブーダン	トルーヴィルの浜辺		油彩／カンヴァス	38.2×46.3

Ⅴ 印象主義の展開

64	フェリックス・ジエム	コンスタンティノーブル(イスタンブール)	1890年以前	油彩／カンヴァス	50.0×83.5
65	スタニスラス・レピーヌ	トゥルヌ＝プールの草地	1878-82年頃	油彩／カンヴァス	38.5×55.4
66	スタニスラス・レピーヌ	マルヌ川の眺め	1878-82年頃	油彩／カンヴァス	22.2×33.1
67	ピエール＝オーギュスト・ルノワール	ノルマンディーの海景		油彩／カンヴァス	35.3×45.5
68	ピエール＝オーギュスト・ルノワール	風景	1890年頃	油彩／板に裏打ちされたカンヴァス	23.4×33.0
69	アルフレッド・シスレー	カーディフの停泊地	1897年	油彩／カンヴァス	54.1×65.4
70	カミーユ・ピサロ	ルーヴル美術館	1902年	油彩／カンヴァス	46.3×55.6
71	クロード・モネ	ベリールの岩礁	1886年	油彩／カンヴァス	65.6×81.5
72	アンリ・モレ	ケルレックの島の眺め(ウエサン島)	1901年	油彩／カンヴァス	74.0×92.7
73	マクシム・モーフラ	日没の岩礁	1899年	油彩／カンヴァス	54.1×73.1
74	マクシム・モーフラ	モルビアン、キブロン島のしけ	1904年	油彩／カンヴァス	81.2×100.0

生誕160年記念「グランマ・モーゼス展」 — 素敵な100年人生 —

Celebrating the 160th Anniversary of Her Birth
Grandma Moses: A Retrospective Exhibition

会期：2021年7月10日(土)～9月5日(日)

会場

企画展示室1・2

主催

名古屋市美術館、メーテレ、東映

後援

アメリカ大使館、名古屋市立小中学校PTA協議会

協賛

損保ジャパン、NISSHA

協力

ギャラリー・セント・エティエンヌ、ニューヨーク、日本航空、名古屋市交通局

観覧料

一般1,500円、高大生1,000円、中学生以下無料

内容

グランマ・モーゼス(1860-1961)は無名の農婦から、70代で本格的に絵を描き始め、80歳の時ニューヨークで初めての個展を開いた。身近な出来事や自然へのあたたかなまなざしを映した作風とそのユニークな経歴は、当時、大恐慌や第二次世界大戦を経験し疲弊していたアメリカの人々の心をとらえ、アメリカの国民的画家となった。日本でも1980年代に初めて紹介されて以来、根強いファンが多くいることで知られている。

本展は、生誕160年を機に特別に企画されたもので、国内で開催される回顧展としては16年ぶりとなった。最初期の作品から100歳で描いた最後の完成作、また愛用品や関連資料まで、初来日を含む約130点を展示した。

副題を「素敵な100年人生」とし、作品紹介だけでなく、101歳までたくましく誠実に生きたグランマ・モーゼスの生き方を紹介し、「人生100年時代」といわれる現代を生きる私たちに幸せな人生を送るヒントを伝えることを目指した。

図録

B4変形 208ページ

編集：世田谷美術館、あべのハルカス美術館、名古屋市美術館、東広島市立美術館、東映

発行：東映、BS-TBS

関連催事

作品解説会

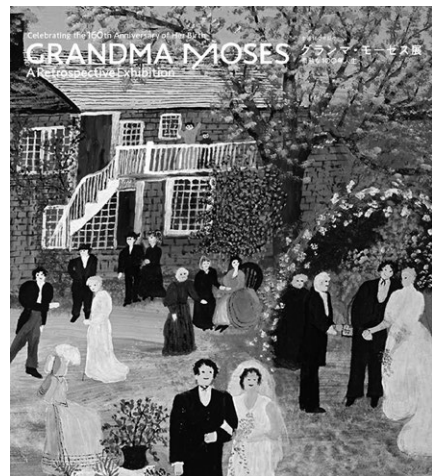
日時：2021年7月18日(日)、8月21日(土)午後2時～午後3時

場所：名古屋市美術館2階講堂

講師：井口智子(名古屋市美術館学芸課長)



ポスター



図録

出品作品

No.	作品名	制作年	技法・材質	寸法 (cm)	所蔵
第1章 アンナ・メアリー・ロバートソン・モーゼス					
1	グランマ誕生の地	1959年	油彩・合板	30.5×40.7	個人蔵(グランマ・モーゼス・プロパティーズ、ニューヨーク寄託)
2	冬のネボ山農場	1943年	油彩・合板	52.0×67.3	個人蔵(ギャラリー・セント・エティエンヌ、ニューヨーク寄託)
3	丘の上のネボ山農場	1940年	梳毛糸・布	25.4×35.6	個人蔵(ギャラリー・セント・エティエンヌ、ニューヨーク寄託)
4	ファイヤーボード(暖炉の覆い)	1918年	油彩・紙	82.0×98.4	個人蔵(ギャラリー・セント・エティエンヌ、ニューヨーク寄託)
5	パークシャーの秋	1938年以前	油彩・カンヴァス	20.3×36.2	個人蔵(ギャラリー・セント・エティエンヌ、ニューヨーク寄託)
6-1	守護天使	1940年以前	油彩・厚紙	22.9×17.8	個人蔵(ギャラリー・セント・エティエンヌ、ニューヨーク寄託)
6-2	守護天使(グリーティングカード)		紙		個人蔵(ギャラリー・セント・エティエンヌ、ニューヨーク寄託)
7	イギリスの別荘の花園	1940年頃	梳毛糸・布	26.8×33.3	SOMPO美術館
8	丘から家路につく羊飼	1940年	梳毛糸・布	24.1×28.9	ハーモ美術館
9	海辺のコテージ	1941年	梳毛糸・布	28.6×40.6	個人蔵(ギャラリー・セント・エティエンヌ、ニューヨーク寄託)
10	冬の湖	1941年	梳毛糸・布	25.4×30.5	個人蔵(ギャラリー・セント・エティエンヌ、ニューヨーク寄託)
11	フージック・フォールズ、ニューヨークII	1944年	油彩・板	51.0×65.7	SOMPO美術館
12	初めての自動車	1939年以前	油彩・厚紙	24.8×29.2	個人蔵(ギャラリー・セント・エティエンヌ、ニューヨーク寄託)
13	グリニッチへの道	1940年	油彩・厚紙	35.6×55.9	個人蔵(ギャラリー・セント・エティエンヌ、ニューヨーク寄託)
14	ケンブリッジ渓谷	1943年	油彩・合板	61.0×75.5	個人蔵(ギャラリー・セント・エティエンヌ、ニューヨーク寄託)
15	窓越しに見たフージック谷	1946年	油彩・合板	48.9×55.9	個人蔵(ギャラリー・セント・エティエンヌ、ニューヨーク寄託)
16	フージック川、夏	1952年	油彩・合板	45.7×60.9	個人蔵(ギャラリー・セント・エティエンヌ、ニューヨーク寄託)
17	フージック川、冬	1952年	油彩・合板	45.7×60.9	個人蔵(ギャラリー・セント・エティエンヌ、ニューヨーク寄託)
18	気球	1957年	油彩・合板	40.0×60.9	個人蔵(グランマ・モーゼス・プロパティーズ、ニューヨーク寄託)
19	フォレスト・モーゼスの家	1952年	油彩・合板	30.3×40.7	個人蔵(グランマ・モーゼス・プロパティーズ、ニューヨーク寄託)
第2章 仕事と幸せと					
20	耕す少年	1950年	油彩・板	30.5×40.7	アリス・アイヴィ・ワイズ蔵
21	干し草作り	1945年	油彩・合板	60.9×76.2	個人蔵(グランマ・モーゼス・プロパティーズ、ニューヨーク寄託)
22	収穫期	1945年	油彩・合板	45.7×71.1	個人蔵(ギャラリー・セント・エティエンヌ、ニューヨーク寄託)
23	ニワトリ	1959年	油彩・合板	30.5×40.6	ディアンサ・C & ジョージ・C・ハリントン蔵
24	馬車修理店	1960年	油彩・合板	40.7×60.9	ベニントン美術館
25	休憩中	1951年	油彩・合板	60.9×76.2	スミノニアン・アメリカ美術館 (ヒルデガート・バカートを追悼してキャリア一家による寄贈)
26	洗濯物をとり込む	1951年	油彩・合板	43.2×55.2	キャリア・ファミリー財団、ニューヨーク
27	5月:せっけんを作り、羊を洗う	1945年	油彩・合板	43.8×61.6	ミス・ポーターズ・スクール、ファーマントン、コネチカット (レイモンド・F・エヴァンス夫人による寄贈)
28	1800年のろうそく作り	1950年	油彩・合板	22.9×23.5	個人蔵(ギャラリー・セント・エティエンヌ、ニューヨーク寄託)
29	日曜日にはみんな着飾って	1940年以前	油彩・合板	28.5×33.0	個人蔵(ギャラリー・セント・エティエンヌ、ニューヨーク寄託)
30	訪問者	1959年	油彩・合板	40.7×60.9	モンクレア美術館 (ウィリアム・ライトフット・シュルツ財団による寄贈[1970.17])
31	ご褒美で買ったもの	1947年	油彩・合板	61.0×97.2	東京富士美術館
32	古い台所	1948年	油彩・板	50.5×41.0	SOMPO美術館
33	キルティング・ビー	1950年	油彩・合板	50.8×61.0	個人蔵(ギャラリー・セント・エティエンヌ、ニューヨーク寄託)
34	昔	1957年	油彩・合板	40.7×60.9	個人蔵(グランマ・モーゼス・プロパティーズ、ニューヨーク寄託)
35	プロポーズ	1948年	油彩・板	88.9×112.1	SOMPO美術館
36	村の結婚式	1951年	油彩・合板	43.0×56.0	ベニントン美術館
37	農場の引越し	1951年	油彩・合板	43.2×55.9	個人蔵(ギャラリー・セント・エティエンヌ、ニューヨーク寄託)
38	そりを出す	1960年	油彩・合板	40.7×60.9	個人蔵(ギャラリー・セント・エティエンヌ、ニューヨーク寄託)
39	冬の牧場	1945年	油彩・メゾナイト	49.5×65.0	東京富士美術館
40	古い格子縞の家、1860年	1942年	油彩・合板	40.7×50.8	リチャード・D・デッラ・ベンナM.D.とメーラー・A・ナボニック M.D.、サンディエゴ、カリフォルニア
41	古い格子縞の家	1944年	油彩・板	60.7×109.4	SOMPO美術館
42	古い檜のつるべ	1943年	油彩・板	46.1×60.7	SOMPO美術館
43	古い檜のつるべ、1760年冬	1944年	油彩・板	61.0×86.4	SOMPO美術館
44	古い檜のつるべ、冬	1952年	油彩・合板	45.7×60.9	個人蔵(グランマ・モーゼス・プロパティーズ、ニューヨーク寄託)
45	昔	1942年	油彩・板	42.0×52.0	ハーモ美術館
46	家の古いブランコ	1940年	油彩・合板	25.4×30.5	個人蔵(ギャラリー・セント・エティエンヌ、ニューヨーク寄託)
47	子ども時代の願い	1947年	油彩・合板	68.5×53.3	個人蔵(ギャラリー・セント・エティエンヌ、ニューヨーク寄託)

第3章 季節ごとのお祝い

48	シュガリング・オフ	1955年	油彩・合板	45.7×61.0	個人蔵(ギャラリー・セント・エティエンヌ、ニューヨーク寄託)
49	砂糖作り(シュガリング・オフ)	1940年頃	油彩・板	35.3×46.3	SOMPO美術館
50	家族のピクニック	1951年	油彩・合板	42.5×55.8	個人蔵(ギャラリー・セント・エティエンヌ、ニューヨーク寄託)
51	アップル・バター作り	1947年	油彩・合板	48.9×59.1	個人蔵(ギャラリー・セント・エティエンヌ、ニューヨーク寄託)
52	ハロウィーン	1955年	油彩・合板	45.7×60.9	個人蔵(グランマ・モーゼス・プロパティーズ、ニューヨーク寄託)
53	魔女	1960年	油彩・合板	40.7×60.9	個人蔵(グランマ・モーゼス・プロパティーズ、ニューヨーク寄託)
54	七面鳥を追いかけて	1940年	油彩・合板	30.5×40.7	個人蔵(ギャラリー・セント・エティエンヌ、ニューヨーク寄託)
55	七面鳥	1958年	油彩・合板	40.7×60.9	スミノアン・アメリカ美術館 (オットー・カリアーを追悼してカリアー家による寄贈)
56	川を渡っておばあちゃんの家へ	1941年	油彩・合板	45.7×76.2	個人蔵(グランマ・モーゼス・プロパティーズ、ニューヨーク寄託)
57	川を渡っておばあちゃんの家へ	1944年	油彩・合板	48.9×84.4	世田谷美術館
58	クリスマス・ツリーを探しに	1946年	油彩・合板	66.1×91.5	スミノアン・アメリカ美術館 (ヒルデガード・バカートに敬意を表してカリアー家による寄贈)
59	家のクリスマス	1946年	油彩・合板	45.7×58.4	個人蔵(ギャラリー・セント・エティエンヌ、ニューヨーク寄託)
60	サンタクロース I	1960年	油彩・合板	40.7×61.0	個人蔵(グランマ・モーゼス・プロパティーズ、ニューヨーク寄託)
61	サンタクロースを待ちながら	1960年	油彩・合板	30.5×40.7	個人蔵(グランマ・モーゼス・プロパティーズ、ニューヨーク寄託)
62	来年までさようなら	1960年	油彩・合板	40.6×61.0	個人蔵(グランマ・モーゼス・プロパティーズ、ニューヨーク寄託)

第4章 美しき世界

63	マサチューセッツ州パークシャー・ヒルズ	1938年以前	アンドリュー・メルローズによる クロモリグラフの上にグラン マ・モーゼスによる油彩	55.9×91.4	個人蔵(ギャラリー・セント・エティエンヌ、ニューヨーク寄託)
64	静けさにつつまれて	1941年	油彩・合板	36.8×49.5	個人蔵(グランマ・モーゼス・プロパティーズ、ニューヨーク寄託)
65	濁ったミズーリ川の流れ	1940年以前	油彩・厚紙	30.5×40.7	個人蔵(ギャラリー・セント・エティエンヌ、ニューヨーク寄託)
66	雪の丘のふもとの家	1942年	油彩・合板	20.0×25.0	個人蔵(ギャラリー・セント・エティエンヌ、ニューヨーク寄託)
67	早春の農場	1945年	油彩・合板	40.6×65.4	個人蔵(ギャラリー・セント・エティエンヌ、ニューヨーク寄託)
68	暴風	1956年	油彩・合板	40.7×60.9	個人蔵(グランマ・モーゼス・プロパティーズ、ニューヨーク寄託)
69	雷雨	1948年	油彩・合板	52.1×62.2	個人蔵(ギャラリー・セント・エティエンヌ、ニューヨーク寄託)
70	森の火事	1945年	油彩・合板	29.0×36.0	個人蔵(ギャラリー・セント・エティエンヌ、ニューヨーク寄託)
71	丘の秋	1954年	油彩・板	30.5×45.7	SOMPO美術館
72	秋	1950年	油彩・カンヴァス	30.0×40.5	ハーモ美術館
73	かぼちゃ	1959年	油彩・合板	40.0×60.0	個人蔵(グランマ・モーゼス・プロパティーズ、ニューヨーク寄託)
74	曇りの日	1952年	油彩・合板	45.7×60.9	ホールマーク・アート・コレクション、ホールマーク・カース社、 カンザス・シティ、ミズーリ
75	丘を越えて行こう	1950年	油彩・板	28.6×40.0	ハーモ美術館
76	雪に閉じ込められて	1957年	油彩・合板	30.5×40.7	個人蔵(グランマ・モーゼス・プロパティーズ、ニューヨーク寄託)
77	美しき世界	1948年	油彩・合板	50.8×61.0	個人蔵(ギャラリー・セント・エティエンヌ、ニューヨーク寄託)
78	白樺	1961年	油彩・合板	40.7×60.9	個人蔵(グランマ・モーゼス・プロパティーズ、ニューヨーク寄託)
79	オールド・ホーム	1961年	油彩・板	40.6×60.9	SOMPO美術館
80	虹	1961年	油彩・合板	40.6×61.0	個人蔵(ギャラリー・セント・エティエンヌ、ニューヨーク寄託)



会場風景



会場風景

No.	作品名	制作年	技法・材質	寸法(cm)	所蔵
M-1	初個展「一農婦の描いたもの」内覧会招待状	1940年	書状	10.2×15.2	個人蔵(ギャラリー・セント・エティエンヌ、ニューヨーク寄託)
M-2	オットー・カリアー『グランマ・モーゼス:アメリカン・プリミティヴ』ドライデン・プレス社	1946年刊	書籍		個人蔵(ギャラリー・セント・エティエンヌ、ニューヨーク寄託)
M-3	アンナ・メアリー・ロバートソン・モーゼス著、オットー・カリアー編『私の人生』ハーバート・アンド・ブラザーズ社	1952年刊	書籍		個人蔵(ギャラリー・セント・エティエンヌ、ニューヨーク寄託)
M-4	アンナ・メアリー・ロバートソン・モーゼス著、オットー・カリアー編『私の人生』(ドイツ語版)ウルシュタイン書店	1963年刊	書籍		個人蔵(ギャラリー・セント・エティエンヌ、ニューヨーク寄託)
M-5	オットー・カリアー『グランマ・モーゼス その芸術と人』デュモン社芸術文庫	1979年刊	書籍		個人蔵(ギャラリー・セント・エティエンヌ、ニューヨーク寄託)
M-6	ファミリー・アルバム	1860-1960年	写真アルバム	14.0×18.4×8.9	ベニントン美術館
M-7	15歳のアンナ・メアリー・ロバートソン	1875年	写真	18.4×10.5	個人蔵(ギャラリー・セント・エティエンヌ、ニューヨーク寄託)
M-8	マーガレット・ホワイトサイド夫人より譲られたクック・ブック	1840-1941年	冊子	21.0×17.8	ベニントン美術館
M-9	結婚写真	1887年	写真	各 15.6×11.4	個人蔵(ギャラリー・セント・エティエンヌ、ニューヨーク寄託)
M-10	トーマス・サーモン・モーゼスとアンナ・メアリー・ロバートソンの結婚証明書	1887年11月9日付		33.7×27.3	ベニントン美術館
M-11	トーマスからアンナ・メアリーに贈られた『聖書』	1889年	書籍		ベニントン美術館
M-12	『私のお気に入りのバースデイ・ブック』	1945年	冊子		ベニントン美術館
M-13	絵を描くための作業テーブル	1773-1920年	木	68.6×114.3×80.0	ベニントン美術館
M-14	作品制作時に使用した椅子とクッション	1961年以前	椅子:木、籐 クッション:絹、ベルベット、綿	椅子:74.3×54.6×48.3、 クッション:10.2×48.3×43.2	ベニントン美術館
M-15	絵筆				個人蔵(ギャラリー・セント・エティエンヌ、ニューヨーク寄託)
M-16	制作時に使用した絵具と瓶類				個人蔵(ギャラリー・セント・エティエンヌ、ニューヨーク寄託)
M-17	孫のために作ったワンピース	1920-1922年	ボイル	50.8	ベニントン美術館
M-18	孫娘のために作った人形	1932年	綿	38.1×30.48×5.1	ベニントン美術館(ゾイン・コロセウスとフランセス・ルドゥウィグによる寄贈)
M-19	手作りのポーチ	1960年以前	ウール毛糸	22.9×15.2	ベニントン美術館(ゾイン・コロセウスとフランセス・ルドゥウィグによる寄贈)
M-20	自画像	1933年頃	油彩・油布	25.4×20.3	ベニントン美術館(ゾイン・コロセウスとフランセス・ルドゥウィグによる寄贈)
M-21	十字架の形のしおり	1960年	ポリエステル、絹	12.7×7.6	ベニントン美術館
M-22	お気に入りの金のプレスレット	1961年以前	金メッキ	径6.2	ベニントン美術館
M-23	“ほぼいつも”着けていたカメオのブローチ	1950年	貝殻、真鍮	径4.5	ベニントン美術館
M-24 a	飾櫛	1940-1961年	プラスチック	3.8×4.1×0.6	ベニントン美術館
M-24 b	飾櫛	1940-1961年	プラスチック	4.1×7.0×1.3	ベニントン美術館
M-24 c	飾櫛	1880-1910年	プラスチック	8.3×7.0×3.2	ベニントン美術館
M-25	ラヴェンダー・ピンクのショール	1950-1961年	ポリエステル毛糸	114.3×114.3	ベニントン美術館
M-26	手作りのキルト	1961年以前	綿	203.2×180.3	ベニントン美術館

M-27	クレメント・C・ムーア文、グランマ・モーゼス絵 『クリスマスのまえのばん』ランダム・ハウス	1962年刊	書籍		個人蔵(ギャラリー・セント・エティエンヌ、ニューヨーク寄託)
M-28	『タイム』1953年12月28日号	1953年刊	雑誌		個人蔵(ギャラリー・セント・エティエンヌ、ニューヨーク寄託)
M-29	クリスマス・カード・セット ホールマーク社	1974年		外箱:3.8×17.8×14.6	個人蔵(ギャラリー・セント・エティエンヌ、ニューヨーク寄託)
M-30	Lプレコード・アルバム『グランマ・モーゼスと 一緒にのクリスマス』RCAヴィクター社	1958年リリース	Lプレコード	31.4×31.8	個人蔵(ギャラリー・セント・エティエンヌ、ニューヨーク寄託)
M-31	クリスマス・オーナメント ホールマーク社	1976年	ガラス	径7.6	個人蔵(ギャラリー・セント・エティエンヌ、ニューヨーク寄託)
M-32	クリスマス・オーナメント メトロポリタン美術 館ミュージアムショップ	2007年	ガラス	径7.6	個人蔵(ギャラリー・セント・エティエンヌ、ニューヨーク寄託)
M-33	コレクター・プレート シラキウス・チャイ ナ社	1972年	陶器	径31.1	個人蔵(ギャラリー・セント・エティエンヌ、ニューヨーク寄託)
M-34	ディナーウェアより、ティーポット、ポウル、グ レイヴィーソース入れ クラウン・ポタリー ズ社	1954年	陶器	ティーポット:16.5×24.1×11.4、 ポウル:5.1×17.8×16.5、グレイ ヴィーソース入れ:8.9×17.8×7.6	個人蔵(ギャラリー・セント・エティエンヌ、ニューヨーク寄託)
M-35	布地 リヴァーデイル・ファブリックス社	1974年	綿	182.8×121.9	個人蔵(ギャラリー・セント・エティエンヌ、ニューヨーク寄託)
M-36	スカーフ	1960年頃	綿	63.5×66.7	個人蔵(ギャラリー・セント・エティエンヌ、ニューヨーク寄託)
M-37	子ども服	1950年代	綿	52.0	個人蔵(ギャラリー・セント・エティエンヌ、ニューヨーク寄託)
M-38	ハンドバッグ	1955年頃	綿	26.0×33.0×11.0 (持ち手:16.0cm)	個人蔵(ギャラリー・セント・エティエンヌ、ニューヨーク寄託)
M-39	スプライ・ショートニングの缶 リーヴァー・ ブラザース社	1958年			個人蔵(ギャラリー・セント・エティエンヌ、ニューヨーク寄託)
M-40	クッキー缶 オールステイト・カン社	2001年			個人蔵(ギャラリー・セント・エティエンヌ、ニューヨーク寄託)
M-41	モーゼス作品がデザインされた切手	1969年5月1日 発行	印紙		個人蔵(ギャラリー・セント・エティエンヌ、ニューヨーク寄託)
M-42	ジグソー・パズル スプリングボック社	1977年		外箱:3.8×36.2×28.9	個人蔵(ギャラリー・セント・エティエンヌ、ニューヨーク寄託)
M-43	モーゼスのために作られた日本製扇子	1940-1961年	紙、竹	筒:36.2×径6.4、 扇子:33.0	ベニントン美術館
M-44	丸木スマ署名入り『丸木スマ画集』大塔 書店	1954年刊	書籍		ベニントン美術館
M-45	「グランマ・モーゼスの日」宣言書(複製)	1960年5月25日 付			ベニントン美術館
M-46	アイゼンハワー大統領からの手紙(複製)	1960年8月27日 付			ベニントン美術館
M-47	『ライフ』1960年9月19日号	1960年刊	雑誌		個人蔵(ギャラリー・セント・エティエンヌ、ニューヨーク寄託)
M-48	『私の人生:グランマ・モーゼス絵画展』 IBM芸術・科学ギャラリー	1960年	展覧会図録		個人蔵(ギャラリー・セント・エティエンヌ、ニューヨーク寄託)
M-49	1960年度「人生は40歳から始まる賞」賞 状	1960年12月13 日付	賞状		ベニントン美術館
M-50	曾孫と100歳の誕生日を祝うフォーク・アー ト画家グランマ・モーゼス、イーグル・プリッ ジ、ニューヨーク コーネル・キャバ撮影 (複製)	1960年		50.8×40.6	東京富士美術館
M-51	『少年少女のためのグランマ・モーゼス・ス トーリーブック』ランダムハウス社	1961年刊	書籍		個人蔵(ギャラリー・セント・エティエンヌ、ニューヨーク寄託)

フランソワ・ポンポン展

François Pompon Retrospective

会期：2021年9月18日(土)～11月14日(日)

主催

名古屋市美術館、中京テレビ放送

後援

名古屋市立小中学校長会

協力

群馬県立館林美術館

企画協力

美術デザイン研究所

観覧料

一般1,600円、高大生1,000円、中学生以下無料

内容

19世紀末から20世紀初頭にかけて活躍した彫刻家、フランソワ・ポンポンの日本で初めての回顧展。長い間ロダンをはじめとする有力彫刻家たちの下彫り職人として過ごしたポンポンは、20世紀初頭に動物彫刻家として歩み始め、1922年、67歳のときサロン・ドートンヌで発表した《シロクマ》の成功を契機に、単純にして優美な形状をもつ独創的な動物彫刻で世に認められた。本展覧会は、キャリアの最初期の人物彫刻から、形の洗練を極めた最晩年の動物彫刻まで、ポンポンの作品91点を陳列して、作風の変遷と生涯を辿った(アンリ・マルティネ作《フランソワ・ポンポンの肖像》)を加えて総出品数は92点)。国内でポンポンの彫刻と資料を多数所蔵する群馬県立館林美術館の所蔵作品に加えて、パリのオルセー美術館、ポンポンの出身地であるブルゴーニュ地方のディジョン美術館、ソーリュウのフランソワ・ポンポン美術館の所蔵品で構成された。当館および京都市京セラ美術館、群馬県立館林美術館、佐倉市立美術館、山梨県立美術館に巡回した。

図録

19.9×21.0cm 108ページ

編集：今井美樹(大阪工業大学)、深谷克典(名古屋市美術館)、見原由希子(美術デザイン研究所)

執筆：リリアヌ・コラ(フランス美術工芸専門家連合)、松下和美(群馬県立館林美術館)、神尾玲子(群馬県立館林美術館)、深谷克典、保崎裕徳(名古屋市美術館)、今井美樹

発行：美術デザイン研究所

関連催事

展示説明会

日時：9月23日(木・祝)、10月13日(水)、10月23日(土)、11月7日(日)

午後2時～午後2時30分

講師：星子桃子(名古屋市美術館学芸員)

会場：名古屋市美術館2階講堂



ポスター



図録



会場風景

番号	作品名	制作年	技法・材質	サイズ(H×W×D cm)	所蔵
彫刻家としての歩み — 人物像での成功をめざして					
1	D氏像	1879	石膏	65.6×36.3×31.9	群馬県立館林美術館
2	ポール像	1884	テラコッタ	38.4×21.1×17.8	群馬県立館林美術館
3	ベルト・ボンボン	1894-1932	石膏	22.7×24.9×19.9	群馬県立館林美術館
4	サント・カトリヌ	1886-1888	石膏	41.3×42.8×36.2	群馬県立館林美術館
5	コゼット	1888	ブロンズ	41.0×18.0×13.0	群馬県立館林美術館
6	生まれたての雛鳥、割れた卵	1892	大理石	8.0×9.5×13.5	ディジョン美術館 (パリ、国立自然史博物館より寄託)
7	スカートの裾をたくしあげるコルセットの女性	1894	石膏	42.2×17.7×18.7	群馬県立館林美術館

田舎の動物をモデルに — 塑像と石彫り

8	ルネ・ド・ポール・ド・サン＝マルソー	1900	ブロンズ	21.2×7.0×6.0	ディジョン美術館 (パリ、国立自然史博物館より寄託)
9	ブーヴェリュウの教会	1900年頃	石膏	14.8×14.0×12.5	群馬県立館林美術館
10-1	スケッチ帳	—	—	15.2×10.5	パリ、オルセー美術館
10-2	スケッチ帳	—	—	10.3×15.8	パリ、オルセー美術館
10-3	スケッチ帳	—	—	8.7×14.7	パリ、オルセー美術館
10-4	スケッチ帳	—	—	9.0×13.5	パリ、オルセー美術館
10-5	スケッチ帳	—	—	21.1×13.7	パリ、オルセー美術館
11	ぼろぼろ鳥の頭	1910-1914	石膏	7.3×10.5×6.8	群馬県立館林美術館
12	雨の中を駆け回る雄鶏	1923	石膏	5.5×8.3×4.6	群馬県立館林美術館
13	七面鳥	1923-1924	石膏	8.8×9.3×5.7	群馬県立館林美術館
14	七面鳥	1923-1924	石膏	8.8×9.3×5.7	群馬県立館林美術館
15	二羽の雌雉	制作年不詳	鉛筆、グワッシュ、インク・紙	27.0×45.0	群馬県立館林美術館
16	2つの姿勢の雌雉	制作年不詳	インク、グワッシュ・紙	32.4×17.0	群馬県立館林美術館
17	餌をついばむ雄鶏	1907	ブロンズ	28.6×14.8×27	ディジョン美術館 (パリ、国立自然史博物館より寄託)
18	風見鶏	1923-1924	ブロンズ	8.5×6.5×4.4	群馬県立館林美術館
19	仔牛	1900	石膏	11.4×14.1×7.8	群馬県立館林美術館
20	狼の頭	1926-1927	石膏	9.4×5.4×6.0	群馬県立館林美術館
21	仔鹿	1927-1928	石膏	19.3×24.6×9.3	群馬県立館林美術館
22	水上で胸を張る鴨	1932	石膏	6.2×9.2×4.2	群馬県立館林美術館
23	モグラ	1908	ベルギー産硬石	47.0×42.0×46.0	ソーリュウ、フランソワ・ボンボン美術館 (パリ、国立自然史博物館より寄託)
24	牝豚と子豚たち	1929	サンバン産の石	25.0×23.5×43.2	ディジョン美術館 (パリ、国立自然史博物館より寄託)
25	カイエンヌの雌鶏	1906-1924	インク・紙	9.2×8.6	群馬県立館林美術館
26	アヒルのメダル	1907	ブロンズ	6.0×6.0×0.6	ディジョン美術館 (パリ、国立自然史博物館より寄託)
27	アヒル	1911-1927	石膏	18.1×14.8×8.8	群馬県立館林美術館
28	風見鶏	1908-1932	銅板	47.0×54.4×6.0	群馬県立館林美術館
29	羽をむしられて駆け回る雄鶏	1910	インク・紙	15.5×14.0	群馬県立館林美術館
30	羽をむしられて駆け回る雄鶏	1910	インク・紙	21.5×10.0	群馬県立館林美術館
31	羽をむしられて駆け回る雄鶏	1910	インク・紙	15.0×17.0	群馬県立館林美術館
32	七面鳥	1925	インク・紙	13.5×13.0	群馬県立館林美術館
33	鷺鳥	1926	石膏	25.9×21.7×13.8	群馬県立館林美術館
34	ぼろぼろ鳥	1910-1912	ブロンズ	19.8×23.4×10.7	群馬県立館林美術館
35	牝豚	1918	ブロンズ	11.0×20.0×5.5	群馬県立館林美術館
36	眼の突き出たフクロウ	1918-1923	石膏	18.6×8.5×8.5	群馬県立館林美術館
37	フクロウ	1923	ブロンズ	17.7×7.9×8.2	群馬県立館林美術館
38	雄鶏	1913-1927	ブロンズ	24.0×9.6×17.8	パリ、オルセー美術館

パリの動物園にて — 異国の動物と大型作品の夢

39	キリン	1906	ブロンズ	18.5×5.0×13.0	ディジョン美術館 (パリ、国立自然史博物館より寄託)
40	ラクダ	1906-1930	ブロンズ	15.6×23.0×6.0	群馬県立館林美術館
41	バイソン	1925	ブロンズ	20.0×8.0×26.0	ディジョン美術館 (パリ、国立自然史博物館より寄託)
42	カバ	1918-1931	石膏	21.2×23.0×8.5	群馬県立館林美術館
43	ベリカン	1924	ブロンズ	114.0×73.0×58.0	ディジョン美術館 (パリ、国立自然史博物館より寄託)
44	休んでいる冠鶴	1926	ブロンズ	108.0×37.0×60.0	ディジョン美術館 (パリ、国立自然史博物館より寄託)
45	立って頭を下げているインドの牝鹿	1927-1928	ブロンズ	12.5×20.8×8.0	群馬県立館林美術館
46	大鹿	1928-1929	石膏	55.1×35.1×21.8	群馬県立館林美術館
47	オラン・ウータン(頭部)	1930	石膏	34.3×23.0×20.0	群馬県立館林美術館
48	ライオン「メネリク」	1932	石膏	21.0×24.7×10.0	群馬県立館林美術館

《シロクマ》の誕生 — 動きとフォルムの美

49	ヒグマ	1918-1926	石膏	10.5×15.5×5.9	群馬県立館林美術館
50	ヒグマ	1918-1926	石膏	10.2×15.4×5.9	群馬県立館林美術館
51	ヒグマ	1918-1926	ブロンズ	9.2×15.8×7.0	群馬県立館林美術館
52	シロクマ	1921-1924	無釉硬質磁器	20.4×39.4×7.3	群馬県立館林美術館
53	シロクマ	1923-1933	銀合金	24.0×44.0×12.4	群馬県立館林美術館
54	シロクマ	1923-1933	白色大理石	24.7×45.5×11.7	群馬県立館林美術館
55	パン	1923頃	ブロンズ	26.0×29.0×12.0	群馬県立館林美術館
56	紅ヨーロッパやまうずら	1924-1931	石膏	27.1×22.2×11.0	群馬県立館林美術館
57	紅ヨーロッパやまうずら	1923	ブロンズ	25.0×9.5×23.0	ディジョン美術館 (パリ、国立自然史博物館より寄託)
58	戯れる豹	1927	石膏	8.2×12.7×4.4	群馬県立館林美術館
59	跳ぼうと構えた豹	1927	ブロンズ	21.0×16.0×7.5	ディジョン美術館 (パリ、国立自然史博物館より寄託)
60	斑点のある豹	1921-1922	石膏	14.9×32.4×6.5	群馬県立館林美術館
61	黒豹	1922-1924	石膏	14.2×32.8×6.6	群馬県立館林美術館
62	斑点のある豹	1925	ブロンズ	21.4×53.5×12.0	ソーリユー、フランソワ・ボンボン美術館
63	黒豹	1925	石膏	14.1×38.1×4.6	群馬県立館林美術館
64	遊ぶ雌トラ	1922	ブロンズ	25.2×13.0×60.5	ディジョン美術館 (パリ、国立自然史博物館より寄託)
65	大黒豹	1930-1931	ブロンズ	25.0×81.0×14.0	群馬県立館林美術館

究極の洗練を求めて — 古典とモダン/アール・デコの時代に

66	雉鳩	1919	ブロンズ	24.0×8.7×9.5	群馬県立館林美術館
67	雉鳩	1919	石膏	24.9×8.9×10.1	群馬県立館林美術館
68	眠っている雄鶏	1923	石膏	23.0×30.5×12.6	群馬県立館林美術館
69	水上の鴨	1911	ブロンズ	16.0×7.7×13.4	ディジョン美術館 (パリ、国立自然史博物館より寄託)
70	ハゲコウ	1921	ブロンズ	15.5×6.0×9.0	ディジョン美術館 (パリ、国立自然史博物館より寄託)
71	子豚	1925	ブロンズ	15.0×9.0×23.4	ディジョン美術館 (パリ、国立自然史博物館より寄託)
72	猪	1925-1929	石膏	22.8×37.1×10.0	群馬県立館林美術館
73	ワシミズク	1927-1930	ブロンズ	52.0×23.0×18.0	パリ、オルセー美術館
74	カラス	1929	ブロンズ	49.5×16.5×38.5	ディジョン美術館 (パリ、国立自然史博物館より寄託)
75	オオバン	1913	ブロンズ	28.0×6.5×19.5	ディジョン美術館 (パリ、国立自然史博物館より寄託)
76	錦鶏(キンケイ)	1933	磨かれたブロンズ	44.8×10.0×26.5	ディジョン美術館 (パリ、国立自然史博物館より寄託)

モデルへの暖かなまなざし — 彫刻に捧げた人生

77	クロード・レイ	1922	石膏	32.1×17.3×16.5	群馬県立館林美術館
78	アンリ・デシャン	1932	油土	24.6×17.7×21.4	群馬県立館林美術館
79	コンドル	1923	石膏	25.5×18.0×9.3	群馬県立館林美術館
80	鳩「ニコラ」	1926-1927	石膏	30.4×27.7×17.7	群馬県立館林美術館
81	切断された巢の雌鳩	1928-1931	石膏	10.6×29.4×19.8	群馬県立館林美術館
82	巢の雌鳩	1928	ブロンズ	22.5×18.7×29.6	ソーリュウ、フランソワ・ボンボン美術館 (パリ、国立自然史博物館より寄託)
83	ネネット	1929	ブロンズ	10.0×3.5×12.0	ディジョン美術館 (パリ、国立自然史博物館より寄託)
84	リボンをつけた牛	1930	ブロンズ	12.5×6.0×17.4	ディジョン美術館 (パリ、国立自然史博物館より寄託)
85	ポストン・テリヤ「トイ」	1931	ブロンズ	31.0×34.5×15.0	ソーリュウ、フランソワ・ボンボン美術館
86	立っているグレーハウンド「スタブツラ」	1932	ブロンズ	24.0×12.0×31.0	ディジョン美術館 (パリ、国立自然史博物館より寄託)
87	シロクマ(頭部)	1930	ブロンズ	38.0×40.5×43.0	ソーリュウ、フランソワ・ボンボン美術館 (パリ、国立自然史博物館より寄託)
88	アンリ・マルティネ《フランソワ・ボンボンの頭像》	1933	石膏	47.9×18.9×27.8	群馬県立館林美術館

資料

S1	ボンボンと鳩ニコラ		写真	60.0×49.8	群馬県立館林美術館
S2	ボンボン旧蔵 絵はがきアルバム		写真	28.0×38.0×4.7	群馬県立館林美術館
S3	「現代動物芸術家展/フランソワ・ボンボン展とアトリエ再構成」ポスター(パリ、国立自然史博物館)	1934 (リプリント)	印刷・紙	68.3×48.8	群馬県立館林美術館
S4	「ブロンズ動物彫刻家の1世紀—1875年から1975年まで—」展ポスター(パリ、ギャルリ・ポール・アンブローズ)	1975	印刷・紙	64.2×45.4	群馬県立館林美術館
S5	「動物—ラスコーからピカソまで—」展ポスター(パリ、国立自然史博物館)	1977	印刷・紙	59.6×40.0	群馬県立館林美術館
S6	「パリの現代動物図像集」展ポスター(パリ、8区庁舎)	1985	印刷・紙	59.6×40.0	群馬県立館林美術館
S7	「ボンボンと近代彫刻—自然と抽象」展ポスター(ディジョン美術館)	1994	印刷・紙	155.5×120.0	群馬県立館林美術館
S8	ロベール・レイ『フランソワ・ボンボン』	1928	書籍	19.8×15.2×1.7	群馬県立館林美術館

現代美術のポジション2021-2022

Position 2021-2022 Nagoya Contemporary Art Exhibition

会期：2021年12月11日(土)～2022年2月6日(日)

主催

名古屋市美術館、毎日新聞社

後援

名古屋市立小中学校PTA協議会

協力

名古屋市交通局

観覧料

一般1,200円、高大生800円、中学生以下無料

内容

「ポジション」は、名古屋およびその近隣地域に在住し、この地方で活発に活動している美術家たちの作品を紹介する企画展として、1994年に始まった。グループ展形式の特別展としては6回目の開催となる「現代美術のポジション 2021-2022」では、地元、すなわち名古屋を含む伊勢湾周辺地帯(愛知・岐阜・三重)にゆかりのある中堅および若手の美術家の中から、近年個性的で完成度の高い作品を発表するに至った作家を9名選出した。卒業・修了や進学などを機に、環境を変えて制作する作家が昨今少なくないため、地元在住であること、というこれまでの条件を緩め、今回の出展者には、当該地方で学んだのち、現在は別の土地を拠点にしている者を含めた。

川角岳大、木村充伯、鈴木孝幸、多田圭佑、寺脇扶美、水野勝規、水野里奈、本山ゆかり、横野明日香の9名は、洋画、日本画、彫刻、映像、インスタレーションの各分野を基盤としつつ、今後さらなる表現の深化や、既存の枠に囚われない展開が期待される中堅・若手の作家である。各作家とも、旧作に新作を交えた展示構成、あるいは旧作を改編した新作の展示となった。会場の最後には「アーティストの日常」の一室を設け、作家の生活や趣味を象徴する物品を、作家のコメントとともに展示した。



会場風景

図録

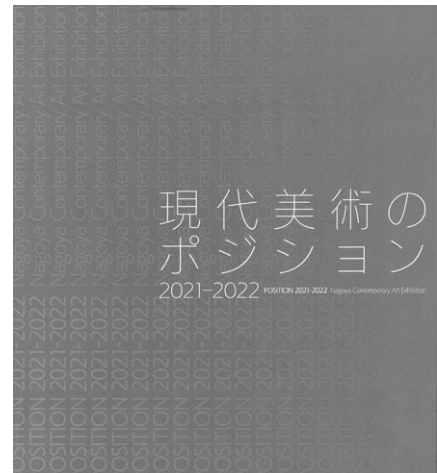
25.0×25.0cm 64ページ

編集・執筆：保崎裕徳(名古屋市美術館学芸係長)、森本陽香(名古屋市美術館学芸員)、久保田舞美(名古屋市美術館学芸員)

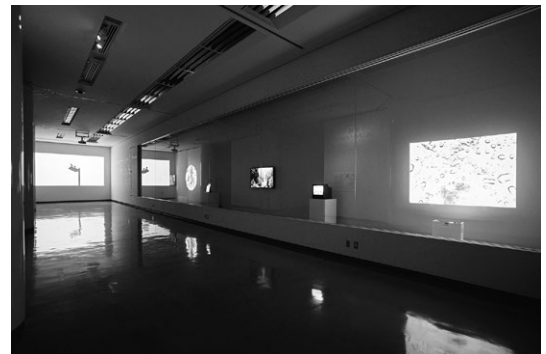
発行：「現代美術のポジション 2021-2022」展実行委員会



ポスター



図録



会場風景

関連催事

① 展覧会解説会

日 時:(1)1月9日(日)、(2)1月22日(土)

午後2時～午後3時30分

会 場:名古屋市美術館2階講堂

ゲスト:(1)鈴木孝幸、寺脇扶美、本山ゆかり、横野明日香

(2)木村充伯、多田圭佑、水野勝規、水野里奈

進行役:(1)森本陽香、久保田舞美 (2)保崎裕徳、久保田舞美

② ワークショップ「線であそんでみよう」

日 時:1月29日(土)、1月30日(日)

午前の部 10時～11時30分

午後の部 2時～3時30分

会 場:名古屋市美術館2階講堂、企画展示室1

講 師:水野里奈(名古屋芸術大学非常勤講師、本展出展作家)

対 象:小学生以上

詳細は38ページに記載



アーティストの日常



展覧会解説会

出品作品

番号	作品名	制作年	技法・材質	寸法(cm)	所蔵
木村充伯 KIMURA Mitsunori					
1	猫のように	2015	油彩・毛が生えるパネル(角材、ベニヤ)	38.0×29.0×1.8	作家蔵
2	鳥と人	2016	油彩・毛が生えるパネル(角材、ベニヤ)	52.8×37.3×1.4	作家蔵
3	犬	2017	アクリル・毛が生えるパネル(角材、ベニヤ)	44.9×32.0×1.7	作家蔵
4	見知らぬ人	2019	アクリル・毛が生えるパネル(樟)	48.3×36.5×2.1	作家蔵
5	娘に似ている	2019	アクリル・毛が生えるパネル(樟)	50.5×30.6×2.0	作家蔵
6	LOVE	2019	アクリル・毛が生えるパネル(樟)	52.3×40.0×2.1	作家蔵
7	鳥の巣	2019	アクリル・毛が生えるパネル(樟)	27.0×34.3×2.0	作家蔵
8	にいに	2019	アクリル・毛が生えるパネル(樟)	36.5×39.7×2.4	作家蔵
9	親子	2019	アクリル・毛が生えるパネル(樟)	35.5×25.0×1.7	作家蔵
10	鳥の親子	2019	アクリル・毛が生えるパネル(樟)	41.4×28.7×1.7	作家蔵
11	熊と卵	2019	アクリル・毛が生えるパネル(樟)	17.6×14.7×1.8	作家蔵
12	大丈夫、あなたを見ている人がいる	2021	アクリル・毛が生えるパネル(檜)	80.0×20.0×2.5	作家蔵
13	祝福する人	2021	アクリル・毛が生えるパネル(檜)	101.0×71.0×2.1	作家蔵
14	泣く人	2021	アクリル・毛が生えるパネル(檜)	55.0×38.0×2.5	作家蔵
15	大丈夫、あなたを見ている人がいる(ヒョウ)	2021	アクリル、檜	左:53.0×42.0×20.0 右:53.5×41.0×19.0 中央:19.5×12.0×37.0	作家蔵
16	大丈夫、あなたを見ている人がいる(キリン)	2021	アクリル、檜	左:68.0×48.5×21.0 右:67.5×49.0×19.0 中央:40.5×8.5×21.0	作家蔵
17	大丈夫、あなたを見ている人がいる(ペンギン)	2021	アクリル、檜	左:36.0×24.5×16.0 右:36.0×26.0×15.5 中央:22.0×13.0×11.0	作家蔵
18	大丈夫、あなたを見ている人がいる(ネコ)	2021	アクリル、檜	左:47.5×26.5×12.0 右:47.0×26.0×12.0 中央:16.5×8.0×25.5	作家蔵
19	Wonderful Man	2015	油彩、楠(10体)	34.5×9.5×12.6他	作家蔵

多田圭佑 TADA Keisuke

20	trace/dimension #3 (reconstructed version)	2020/2021	アクリル、油彩、顔料・綿布、木製パネル	275.0×1397.0×10.0	作家蔵
----	---	-----------	---------------------	-------------------	-----

鈴木孝幸 SUZUKI Takayuki

21	self-34 私の足と私の足と	2021	2つの映像	サイズ可変	作家蔵
22	heaping earth-575 歩行のための場所	2019	モルタルにコルター、鉄板、金具	240.0×55.0×10.0	作家蔵
23	heaping earth-505 目の高さで見る	2018-2019	モルタルにコルター、鉄板、金具	13.0×75.0×13.0	作家蔵
24	conceptual modeling のシリーズ	2019-2021	河原での採取物にコルター	サイズ可変	作家蔵
25	heaping earth-506 日本の地図	2018-2019	モルタルにコルター、鉄板	370.0×180.0×7.0	作家蔵
26	heaping earth-627 台湾、中国の地図	2021	モルタルにコルター、鉄板	470.0×350.0×7.0	作家蔵
27	just cutting-35 日本、台湾、中国の地図	2021	地図、鉄板、アクリル板	30.0×45.0×1.0(2枚組)	作家蔵
28	just cutting-36 地球の地図	2021	地図、鉄板、アクリル板	19.5×90.0×1.0	作家蔵
29	just marking-3 日本の断層地図から	2021	鉄板、ラッカー塗料、アクリル板	29.5×37.0×1.0	作家蔵
30	just marking-4 台湾、中国の断層地図から	2021	鉄板、ラッカー塗料、アクリル板	37.0×48.0×1.0	作家蔵

水野里奈 MIZUNO Rina

31	青い宮殿	2019	油彩、ボールペン・キャンヴァス	194.0×521.0	高橋龍太郎コレクション
32	赤い織物のある部屋	2021	油彩、ボールペン・キャンヴァス	100.0×80.0	作家蔵
33	スタンドグラスのモスク	2021	油彩、ボールペン・キャンヴァス	194.0×130.0	作家蔵
34	森の中の泉	2021	油彩、ボールペン・キャンヴァス	181.8×227.3	作家蔵
35	羽と花	2021	油彩、ボールペン・キャンヴァス	100.0×80.0	作家蔵
36	細密ドローイング 2021.1	2021	ボールペン・水彩紙	33.2×24.2	作家蔵
37	細密ドローイング 2021.2	2021	ボールペン・水彩紙	33.2×24.2	作家蔵
38	細密ドローイング 2021.3	2021	ボールペン・水彩紙	33.2×24.2	作家蔵
39	細密ドローイング 2021.4	2021	ボールペン・水彩紙	33.2×24.2	作家蔵
40	細密ドローイング 2021.5	2021	ボールペン・水彩紙	33.2×24.2	作家蔵
41	細密ドローイング 2021.6	2021	ボールペン・水彩紙	33.2×24.2	作家蔵

横野明日香 YOKONO Asuka

42	curve	2014	油彩・キャンヴァス	181.8×291.0	作家蔵
43	Flight	2017	油彩・キャンヴァス	72.7×60.6	作家蔵
44	米塚	2018	油彩・キャンヴァス	162.0×194.0	作家蔵
45	花束	2019	油彩・キャンヴァス	162.0×130.3	作家蔵
46	赤いボット	2021	油彩・キャンヴァス	194.0×130.3	作家蔵
47	百合とかすみ草	2021	油彩・キャンヴァス	259.0×380.0	作家蔵

川角岳大 KAWASUMI Gakudai

48	GO DOG	2014	油彩・キャンヴァス	72.7×60.6	ギャラリーN
49	バイナッブル	2015	油彩・キャンヴァス	91.0×72.7	See Saw gallery+hibit
50	front dog	2019	油彩、アクリル、クレヨン・キャンヴァス	259.0×194.0	高橋龍太郎コレクション
51	rear dog	2019	油彩、アクリル、色鉛筆・キャンヴァス	259.0×194.0	高橋龍太郎コレクション
52	He has gone	2021	アクリル・キャンヴァス	192.0×250.0	作家蔵
53	In the car	2021	油彩、アクリル、色鉛筆・キャンヴァス	161.0×122.0	作家蔵
54	蜚蛾とライト	2021	テンペラ、アクリル、油彩、色鉛筆・キャンヴァス	53.0×45.5	作家蔵
55	水色のランプ	2021	油彩、テンペラ、色鉛筆・キャンヴァス	45.5×53.0	作家蔵
56	スポット	2021	テンペラ、色鉛筆・キャンヴァス	53.0×45.5	作家蔵
57	Untitled	2020	水性ペン・マット紙	19.2×19.2	作家蔵
58	Untitled	2020	水性ペン・マット紙	14.4×9.2	作家蔵
59	Untitled	2020	水性ペン・マット紙	13.3×10.2	作家蔵
60	Untitled	2020	水性ペン・マット紙	14.5×9.6	作家蔵

本山ゆかり MOTOYAMA Yukari

61	Ghost in the Cloth(ナイフ)	2020	布、綿、糸	130.0×110.0	作家蔵
62	Ghost in the Cloth(二本の薔薇)	2021	布、綿、糸	163.0×120.0	作家蔵
63	Ghost in the Cloth(薔薇)	2021	布、綿、糸	143.0×98.0	作家蔵
64	Ghost in the Cloth(ナイフ)	2021	布、綿、糸	110.0×115.0	作家蔵
65	Ghost in the Cloth(ナイフ)	2021	布、綿、糸	150.0×250.0	作家蔵
66	画用紙(スフィンクス・左)	2015	アクリル絵具・アクリル板	60.0×91.5	作家蔵
67	画用紙(スフィンクス・右)	2015	アクリル絵具・アクリル板	60.0×91.5	作家蔵
68	画用紙(草原と日の出)	2015	アクリル絵具・アクリル板	121.0×80.0	作家蔵
69	画用紙(二つの皿を持つ人)	2019	アクリル絵具・アクリル板	100.0×125.0	作家蔵
70	画用紙(三つの石)	2020	アクリル絵具・アクリル板	80.0×70.0	作家蔵

寺脇扶美 TERAWAKI Fumi

71	crystal box #10	2021	岩絵具、水干絵具、胡粉、エンボス・麻紙	8.5×8.5×6.0	作家蔵
72	crystal box #11	2021	岩絵具、水干絵具、胡粉、エンボス・麻紙	8.5×8.5×6.0	作家蔵
73	crystal box #12	2021	岩絵具、水干絵具、胡粉、エンボス・麻紙	8.5×8.5×6.0	作家蔵
74	crystal #09	2015	岩絵具、水干絵具、胡粉、箔、エンボス・麻紙	56.0×145.5	作家蔵
75	crystal #10	2015	岩絵具、水干絵具、胡粉、エンボス・麻紙	90.0×90.0	作家蔵
76	crystal #30	2021	岩絵具、水干絵具、胡粉、箔、エンボス・麻紙	53.0×45.5	個人蔵
77	autunite #01	2019	岩絵具、水干絵具、胡粉、箔、エンボス・麻紙	18.0×14.0	作家蔵
78	autunite #03	2020	岩絵具、水干絵具、胡粉、墨、箔、エンボス・麻紙	162.0×130.0	作家蔵
79	autunite #10	2021	岩絵具、水干絵具、胡粉、箔、エンボス・麻紙	53.0×53.0	作家蔵
80	diamond #01	2021	岩絵具、水干絵具、胡粉、箔、エンボス・麻紙	65.2×53.0	作家蔵
81	diamond #02	2021	岩絵具、水干絵具、胡粉、箔、エンボス・麻紙	65.2×53.0	作家蔵
82	red + white	2021	絹本彩色、裏彩色、糸	サイズ可変	作家蔵
83	red + white	2021	絹本彩色、裏彩色、刺繍枠	13.2×22.3×0.8	作家蔵
84	red + white	2021	絹本彩色、裏彩色、刺繍枠	11.5×13.0×0.8	作家蔵
85	red + white	2021	絹本彩色、裏彩色、刺繍枠	19.6×20.8×0.8	作家蔵
86	抱っこの光景	2021	紙本裏彩色	116.7×91.0	作家蔵
87	出産・誕生の光景	2021	紙本裏彩色	31.8×41.0	作家蔵
88	抱っこの光景	2021	紙本裏彩色	77.5×95.0	作家蔵
89	おむつカバーのある光景	2021	紙本裏彩色	33.3×24.2	作家蔵
90	授乳の光景	2021	紙本裏彩色	33.3×24.2	作家蔵
91	おむつ替えセットのある光景	2021	紙本裏彩色	33.3×24.2	作家蔵

水野勝規 MIZUNO Katsunori

92	snow garden	2004(2021再編)	シングルチャンネル・ビデオ(SD、サイレント、3分)		作家蔵
93	surface	2007	シングルチャンネル・ビデオ(SD、サイレント、9分)		作家蔵
94	fallwater	2007	シングルチャンネル・ビデオ(HD、サイレント、7分)		作家蔵
95	heron	2008	シングルチャンネル・ビデオ(HD、サイレント、7分)		作家蔵
96	fall color	2021	シングルチャンネル・ビデオ(HD、サイレント、5分)		作家蔵
97	sync code	2021	ダブルチャンネル・ビデオ(4K、サイレント、6分)		作家蔵
98	monotone	2018	シングルチャンネル・ビデオ(4K、サイレント、24分)		作家蔵

ゴッホ展

響きあう魂 ヘレーネとフィンセント

Collecting Van Gogh -
Helene Kröller-Müller's Passion for Vincent's Art

会期：2022年2月23日(水・祝)～4月10日(日)

主催

名古屋市美術館、中日新聞社、CBCテレビ

特別協賛

CyberAgent

協賛

NISSHA

協力

KLMオランダ航空会社、ヤマト運輸、名古屋市交通局

後援

オランダ王国大使館、JR東海、名古屋市立小中学校PTA協議会

観覧料

(平日)一般1,900円、高大生1,300円、中学生以下無料
(土日祝)一般2,000円、高大生1,400円、中学生以下無料

内容

本展では、フィンセント・ファン・ゴッホ(1853-1890)の世界最大の個人収集家となったヘレーネ・クレラー＝ミュラーのコレクションを中心に紹介した。ヘレーネは、画家がまだ評価の途上にあつた1908年からおよそ20年間で、鉄鉱業と海運業で財を成した夫アントンとともに、90点を超える油彩画と約180点の素描・版画を収集。宗教的ともいえる情熱で創作活動に打ち込んだファン・ゴッホの芸術に深い精神性を見出したヘレーネは、その感動を多くの人々と分かち合うべく、美術館の設立に尽力し、クレラー＝ミュラー美術館の初代館長に就任した。

本展では、今日クレラー＝ミュラー美術館に収蔵されるヘレーネのコレクションに焦点を当て、ファン・ゴッホの初期から晩年までの画業をたどる油彩画28点と素描・版画20点のほか、彼女の関心や収集傾向を明らかにするミレー、ルノワール、スーラ、ルドン、モンドリアンらの油彩画20点を展示した。さらに、ファン・ゴッホの弟テオ、その妻ヨーが引き継いだコレクションを核とするファン・ゴッホ美術館から、《黄色い家(通り)》を含むファン・ゴッホの油彩画4点を、合わせて展示した。

ファン・ゴッホ作品を軸に近代絵画の展開をたどる、ヘレーネの類まれなコレクションと、ファン・ゴッホ家に受け継がれたコレクションによって、20世紀初頭、ファン・ゴッホの人気と評価が飛躍的に高まっていく背景にも着目し、収集家の視点を通して、ファン・ゴッホの魅力を探った。

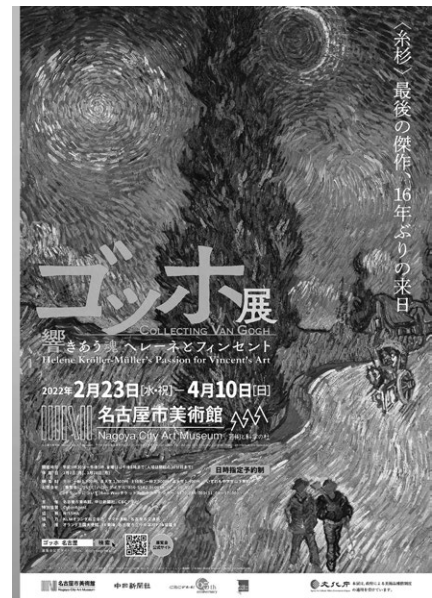
本展は、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、全日日時指定予約制とし、適宜人数制限を行いながら開催した。

関連催事：

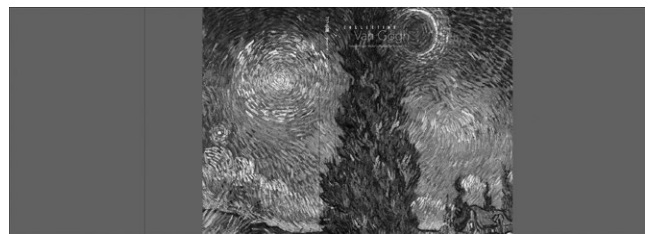
作品解説会

日時：3月13日(日)、19日(土)、26日(日)各回午後2時～3時
会場：名古屋市美術館2階講堂

講師：3月13日、26日：森本陽香(名古屋市美術館学芸員)
3月19日：深谷克典(名古屋市美術館参与)



ポスター



図録

出品作品

No.	作家名	作品名	制作年	技法・材質	寸法 (cm)	所蔵
芸術に魅せられて：ヘレーネ・クレラー＝ミュラー、収集家、クレラー＝ミュラー美術館の創立者						
1	フローリス・フェルステル	ヘレーネ・クレラー＝ミュラーの肖像	1910	油彩、カンヴァス	65.0×49.0	クレラー＝ミュラー美術館
2	フローリス・フェルステル	H.P. プレマーの肖像	1921	油彩、カンヴァス	74.0×59.0	クレラー＝ミュラー美術館

ヘレーネの愛した芸術家たち：写実主義からキュビズムまで

3	ジャン＝フランソワ・ミレー	グリュシー村のはずれ	1854	油彩、カンヴァス	46.0×56.0	クレラー＝ミュラー美術館
4	ウィレム・ルーロフス	小屋	1870頃	油彩、カンヴァスに貼った紙	25.0×35.5	クレラー＝ミュラー美術館
5	パウルヨセフ・コンスタンティン・ハブリエル	それは遠くからやって来る	1887頃	油彩、カンヴァス	67.0×100.0	クレラー＝ミュラー美術館
6	アンリ・ファンタン＝ラトゥール	静物(プリムローズ、洋梨、ザクロ)	1866	油彩、カンヴァス	73.0×59.5	クレラー＝ミュラー美術館
7	ピエール＝オーギュスト・ルノワール	カフェにて	1877頃	油彩、カンヴァス	35.7×27.5	クレラー＝ミュラー美術館
8	カミーユ・ピサロ	2月、日の出、バザンクール	1893	油彩、カンヴァス	65.5×81.9	クレラー＝ミュラー美術館
9	ジョルジュ・スーラ	ポール＝アン＝ベッサンの日曜日	1888	油彩、カンヴァス	66.0×82.0	クレラー＝ミュラー美術館
10	ポール・シニャック	ポルトリュウの灯台、作品183	1888	油彩、カンヴァス	46.0×65.0	クレラー＝ミュラー美術館
11	ヤン・トローップ	版画愛好家(アーヒディウス・ティメルマン博士)	1898-1900	油彩、カンヴァス	66.5×76.0	クレラー＝ミュラー美術館
12	アンリ・ヴァンド・ヴェルド	黄昏	1889頃	油彩、カンヴァス	45.2×60.0	クレラー＝ミュラー美術館
13	ヨハン・トルン・ブリッケル	花嫁	1892-1893	油彩、カンヴァス	147.1×88.2	クレラー＝ミュラー美術館
14	オディロン・ルドン	キュクロプス	1914頃	油彩、板に貼った厚紙	65.8×52.7	クレラー＝ミュラー美術館
15	ジェームズ・アンソール	キャベツのある静物	1921	油彩、カンヴァス	72.0×102.0	クレラー＝ミュラー美術館
16	ファン・グリス	トランプ札とサイフォン瓶	1916	油彩、板(三層)	73.2×116.6	クレラー＝ミュラー美術館
17	ジョルジュ・ブラック	菱形の中の静物	1917	チョーク・油彩、板(三層)	37.5×46.5	クレラー＝ミュラー美術館
18	ジーノ・セヴェリーニ	ギターのある静物	1919	油彩、カンヴァス	72.5×92.0	クレラー＝ミュラー美術館
19	ピート・モンドリアン	グリッドのあるコンポジション5(菱形、色彩のコンポジション)	1919	油彩、カンヴァス	63.0×63.0	クレラー＝ミュラー美術館
20	バート・ファン・デル・レック	種まく人	1921	油彩、カンヴァス	42.5×32.9	クレラー＝ミュラー美術館

ファン・ゴッホを収集する

素描家ファン・ゴッホ、オランダ時代

21	フィンセント・ファン・ゴッホ	風車「デ・オラニエboom」、ドルドレヒト	1881	木炭・鉛筆、網目紙	34.8×59.9	クレラー＝ミュラー美術館
22	フィンセント・ファン・ゴッホ	刈り込んだ柳のある道	1881	木炭・黒チョーク、簧の目紙	43.8×59.2	クレラー＝ミュラー美術館
23	フィンセント・ファン・ゴッホ	砂地の木の根	1882	鉛筆・黒チョーク・茶色と灰色の淡彩・不透明水彩、水彩紙	51.5×70.7	クレラー＝ミュラー美術館
24	フィンセント・ファン・ゴッホ	スヘーフェニゲンの魚干し小屋	1882	鉛筆・ペンと筆による黒インク(所々茶色に褪せ色)・白の不透明水彩・升目状の跡、簧の目紙	29.0×45.4	クレラー＝ミュラー美術館
25	フィンセント・ファン・ゴッホ	コーヒーを飲む老人	1882	鉛筆・黒のリクレヨン・升目状の跡・人物の周囲に定着液による変色、水彩紙	49.0×28.3	クレラー＝ミュラー美術館
26	フィンセント・ファン・ゴッホ	読書する老人	1882	鉛筆・升目状の跡、水彩紙	47.5×30.5	クレラー＝ミュラー美術館
27	フィンセント・ファン・ゴッホ	折り	1882/1883	鉛筆・黒のリクレヨン・灰色の淡彩・筆と版画用インク・白の油彩・灰色の不透明水彩、水彩紙	62.4×39.8	クレラー＝ミュラー美術館
28	フィンセント・ファン・ゴッホ	防水帽を被った漁師の顔	1883	鉛筆・黒のリクレヨン・筆による黒インク・白と灰色とピンクの不透明水彩・頭部周囲に定着液による変色・升目状の跡、水彩紙	42.9×25.1	クレラー＝ミュラー美術館
29	フィンセント・ファン・ゴッホ	籠に腰掛けて嘆く女	1883	黒のリクレヨン・灰色の淡彩・白と灰色の不透明水彩・升目状の跡、水彩紙	47.4×29.5	クレラー＝ミュラー美術館
30	フィンセント・ファン・ゴッホ	砂山の向こうのジャガイモ畑	1883	筆と薄めたインク・茶色と白の不透明水彩・ピンクがかった茶色の簧の目紙	28.6×42.9	クレラー＝ミュラー美術館
31	フィンセント・ファン・ゴッホ	耕す人	1883	鉛筆・黒チョーク、簧の目紙	20.9×34.0	クレラー＝ミュラー美術館
32	フィンセント・ファン・ゴッホ	縫い物をする女	1885	黒チョーク、簧の目紙	29.3×26.2	クレラー＝ミュラー美術館
33	フィンセント・ファン・ゴッホ	炉端の女	1885	黒チョーク・升目状の跡、網目紙	43.9×28.7	クレラー＝ミュラー美術館
34	フィンセント・ファン・ゴッホ	ジャガイモを食べる人々	1885	リトグラフ、網目紙	28.4×34.1	クレラー＝ミュラー美術館
35	フィンセント・ファン・ゴッホ	刈る人	1885	黒チョーク・灰色の淡彩・白の不透明水彩・定着液の跡・升目状の跡、網目紙	44.5×56.7	クレラー＝ミュラー美術館
36	フィンセント・ファン・ゴッホ	刈る人	1885	黒チョーク・灰色の淡彩・定着液の跡、網目紙	53.3×36.7	クレラー＝ミュラー美術館
37	フィンセント・ファン・ゴッホ	鍋を洗う農婦	1885	黒チョーク・はねかけた定着液の跡、網目紙	54.5×43.8	クレラー＝ミュラー美術館
38	フィンセント・ファン・ゴッホ	掘る農婦	1885	黒チョーク・おそらく定着液を含んだ淡彩・定着液の跡、網目紙	44.2×55.6	クレラー＝ミュラー美術館
39	フィンセント・ファン・ゴッホ	働く農夫	1885	黒チョーク・定着液の跡、網目紙	44.0×33.2	クレラー＝ミュラー美術館
40	フィンセント・ファン・ゴッホ	穀物の収穫	1885	黒チョーク・灰色の淡彩・定着液の跡、網目紙	27.2×38.3	クレラー＝ミュラー美術館

画家ファン・ゴッホ、オランダ時代

41	フィンセント・ファン・ゴッホ	麦わら帽子のある静物	1881	油彩、カンヴァスに貼った紙	36.5×53.6	クレラー＝ミュラー美術館
42	フィンセント・ファン・ゴッホ	森のはずれ	1883	油彩、カンヴァス	33.8×48.5	クレラー＝ミュラー美術館
43	フィンセント・ファン・ゴッホ	織機と織工	1884	油彩、カンヴァス	61.0×93.0	クレラー＝ミュラー美術館
44	フィンセント・ファン・ゴッホ	女の顔	1884-1885	油彩、カンヴァス	42.5×33.1	クレラー＝ミュラー美術館
45	フィンセント・ファン・ゴッホ	白い帽子を被った女の顔	1884-1885	油彩、カンヴァス	44.0×36.0	クレラー＝ミュラー美術館
46	フィンセント・ファン・ゴッホ	テーブルに着く女	1885	油彩、カンヴァス	42.2×28.8	クレラー＝ミュラー美術館
47	フィンセント・ファン・ゴッホ	リンゴとカボチャのある静物	1885	油彩、カンヴァス	59.0×84.5	クレラー＝ミュラー美術館
48	フィンセント・ファン・ゴッホ	鳥の巣	1885	油彩、カンヴァス	33.5×50.5	クレラー＝ミュラー美術館

画家ファン・ゴッホ、フランス時代

パリ

49	フィンセント・ファン・ゴッホ	ムーランド・ラ・ギャレット	1886	油彩、カンヴァス	38.4×46.0	クレラー＝ミュラー美術館
50	フィンセント・ファン・ゴッホ	草地	1887	油彩、カンヴァス	30.8×39.7	クレラー＝ミュラー美術館
51	フィンセント・ファン・ゴッホ	青い花瓶の花	1887	油彩、カンヴァス	61.5×38.5	クレラー＝ミュラー美術館
52	フィンセント・ファン・ゴッホ	レストランの内部	1887	油彩、カンヴァス	45.5×56.0	クレラー＝ミュラー美術館
53	フィンセント・ファン・ゴッホ	石膏像のある静物	1887	油彩、カンヴァス	55.0×46.0	クレラー＝ミュラー美術館

アルル

54	フィンセント・ファン・ゴッホ	夕暮れの刈り込まれた柳	1888	油彩、厚紙に貼ったカンヴァス	31.6×34.2	クレラー＝ミュラー美術館
55	フィンセント・ファン・ゴッホ	糸杉に囲まれた果樹園	1888	油彩、カンヴァス	64.9×81.2	クレラー＝ミュラー美術館
56	フィンセント・ファン・ゴッホ	レモンの籠と瓶	1888	油彩、カンヴァス	53.9×64.3	クレラー＝ミュラー美術館
57	フィンセント・ファン・ゴッホ	サント＝マリー＝ド＝ラ＝メールの眺め	1888	油彩、カンヴァス	64.2×53.0	クレラー＝ミュラー美術館
58	フィンセント・ファン・ゴッホ	種まく人	1888	油彩、カンヴァス	64.2×80.3	クレラー＝ミュラー美術館
59	フィンセント・ファン・ゴッホ	緑のブドウ園	1888	油彩、カンヴァス	73.5×92.5	クレラー＝ミュラー美術館

サン＝レミとオーヴェール＝シュル＝オワーズ

60	フィンセント・ファン・ゴッホ	サン＝レミの療養院の庭	1889	油彩、カンヴァス	91.5×72.0	クレラー＝ミュラー美術館
61	フィンセント・ファン・ゴッホ	麦束のある月の出の風景	1889	油彩、カンヴァス	72.0×91.3	クレラー＝ミュラー美術館
62	フィンセント・ファン・ゴッホ	療養院の庭の小道	1889	油彩、カンヴァス	61.4×50.4	クレラー＝ミュラー美術館
63	フィンセント・ファン・ゴッホ	夕暮れの松の木	1889	油彩、カンヴァス	91.5×72.0	クレラー＝ミュラー美術館
64	フィンセント・ファン・ゴッホ	草地の木々の幹	1890	油彩、カンヴァス	72.5×91.5	クレラー＝ミュラー美術館
65	フィンセント・ファン・ゴッホ	善きサマリヤ人(ドラクロワによる)	1890	油彩、カンヴァス	73.0×59.5	クレラー＝ミュラー美術館
66	フィンセント・ファン・ゴッホ	悲しむ老人(「永遠の門にて」)	1890	油彩、カンヴァス	81.8×65.5	クレラー＝ミュラー美術館
67	フィンセント・ファン・ゴッホ	夜のプロヴァンスの田舎道	1890	油彩、カンヴァス	90.6×72.0	クレラー＝ミュラー美術館
68	フィンセント・ファン・ゴッホ	花咲くマロニエの木	1890	油彩、カンヴァス	63.3×49.8	クレラー＝ミュラー美術館

ファン・ゴッホ美術館のファン・ゴッホ家コレクション:オランダにあるもう一つの素晴らしいコレクション

69	フィンセント・ファン・ゴッホ	ニューネンの牧師館	1885	油彩、カンヴァス	33.2×43.0	ファン・ゴッホ美術館
70	フィンセント・ファン・ゴッホ	モンマルトル:風車と菜園	1887	油彩、カンヴァス	45.2×81.4	ファン・ゴッホ美術館
71	フィンセント・ファン・ゴッホ	サント＝マリー＝ド＝ラ＝メールの海景	1888	油彩、カンヴァス	50.5×64.3	ファン・ゴッホ美術館
72	フィンセント・ファン・ゴッホ	黄色い家(通り)	1888	油彩、カンヴァス	72.0×91.5	ファン・ゴッホ美術館

令和2年度にひき続き、令和3年度も多くの教育普及事業が、新型コロナウイルス感染症の拡大の影響を受けました。当館では対話を重視する美術鑑賞を実施してきたことから、ほぼすべての事業形態を見直しました。政府が決定する「新型コロナウイルス感染症対策の基本的対処方針」に従い、また「濃厚接触者の定義」を考慮して、至近距離・長時間の対話を避けるなどの感染防止対策をとりながら、緊急事態宣言の発令中を除き可能な限り実施しました。

子ども対象の事業では、地元で活躍する美術家を講師に迎え、特別展の鑑賞体験をもとに制作する講座を2つ企画・実施しました。人どうしの密集を避けるために会話量や作業の制約はあったものの、美術家の存在を間近に感じたことで、制作・鑑賞に対する参加者の関心・意欲が今後ますます高まっていくことを期待しています。学校対象事業では、感染症の流行状況に応じて、学年単位での来館や「出前アート体験」の実施、「アートカード」の借用を控えざるをえない学校・団体が多くありました。ボランティアの活動もまた、昨年度に引き続き多くの活動を見送る必要がありましたが、常設展のギャラリートークを、ガイド時間の短縮など、形態を一部変更した上で8月17日(火)より再開しました。その後、感染症の流行状況を見ながら、令和4年1月4日(火)より週3日の開催を週6日に戻し、1回につき1団体(5名以内)のみの参加制限を、団体数を問わず5名までとして運用しています。また、ボランティアは美術館敷地内および白川公園内の彫刻を中心に鑑賞する講座の企画にも関わり、緊急事態宣言による5月・6月中の延期があったものの、10月に実施することができました。

令和3年度は、昨年度に作成した収蔵品データベースの公開を始め、公式ウェブサイトでの作品検索が可能になりました。作品検索には一般向けの画面とは別に、子ども向けの画面を設け、高画質で拡大表示・ダウンロードができる著作権保護期間外の45点の作品画像を用意しました。従来、鑑賞授業等で活用してきた紙媒体の「アートカード」の貸出を継続する一方で、物品の共用による感染症の防止、またGIGAスクール構想に基づくICT環境(一人一台端末)の活用に対応する教材として、「出前アート体験」で試験的に利用をはじめています。

館内では、常設展の鑑賞補助ツールとして、ブラザー工業株式会社が提供するアプリ「マルチリングルミュージアムガイド」を7月に導入しました。特定の作品の解説を来館者が所有するスマートフォン等で読むことができ、

端末の音声読み上げ機能を用いて、日本語と英語に対応する音声ガイドとして使用することができます。また、7月30日(金)から11月14日(日)まで「子どものためのワークシート」を配布し、学校行事での来館が難しくなっている状況やギャラリートークの参加制限など、美術に親しむ機会の減少を補う紙媒体のツールを用意しました。

美術館協会では、遠方の美術館を巡るバスツアーなどを前年度に続き中止したものの、近隣美術館の展覧会を鑑賞するミニツアーや、当館特別展の解説つき鑑賞会を実施することができ、感染症拡大以前の定例的な活動が戻りつつあります。2022年のオリジナルカレンダーは、濱田樹里氏(日本画家・名古屋造形大学准教授)に制作を依頼し、その原画は作者より美術館に寄贈されました。

図書室は開館日の午後1時から午後4時まで開室しています。既存の美術関連書籍のほか、他館や他施設が令和3年度に発行した図録や報告書などの寄贈を受け、これらを利用者の求めに応じて公開、配架しています。

年3回発行している情報紙『アートペーパー』は、8月発行のNo.117で判型と内容を変更しました。新しいデザインは岡田和奈佳氏が手がけています。また、『名古屋市美術館研究紀要』第16巻を、平成20年3月発行の第15巻以来、14年ぶりに発行しました。

1. 一般成人対象の事業

(1) 講演会・解説会

※新型コロナウイルス感染症対策として、講堂の定員180名を90名に減らして開催

年月日	時刻	内容	講師等	場所	参加者
2021年4月24日(土)	午後2時～	ランス美術館コレクション 風景画のはじまり コローから印象派へ 展覧会解説会	勝田琴絵(名古屋市美術館学芸員)	講堂	77
2021年5月9日(日)	午後2時～	ランス美術館コレクション 風景画のはじまり コローから印象派へ 展覧会解説会	勝田琴絵(名古屋市美術館学芸員)	講堂	65
2021年7月17日(土)	午後2時～	日比遊一講演会	日比遊一(写真家・映画監督)、深谷克典(名古屋市美術館参与)	講堂	90
2021年7月18日(日)	午後2時～	グランマ・モーゼス展 展覧会解説会	井口智子(名古屋市美術館学芸課長)	講堂	47
2021年8月21日(土)	午後2時～	グランマ・モーゼス展 展覧会解説会	井口智子(名古屋市美術館学芸課長)	講堂	46
2021年9月23日(木)	午後2時～	フランソワ・ポンボン展 展示説明会	星子桃子(名古屋市美術館学芸員)	講堂	49
2021年10月13日(水)	午後2時～	フランソワ・ポンボン展 展示説明会	星子桃子(名古屋市美術館学芸員)	講堂	41
2021年10月23日(土)	午後2時～	フランソワ・ポンボン展 展示説明会	星子桃子(名古屋市美術館学芸員)	講堂	60
2021年11月7日(日)	午後2時～	フランソワ・ポンボン展 展示説明会	星子桃子(名古屋市美術館学芸員)	講堂	66
2022年1月9日(日)	午後2時～	現代美術のポジション展 展覧会解説会	森本陽香、久保田舞美(名古屋市美術館学芸員) 鈴木孝幸、寺脇扶美、本山ゆかり、横野明日香(出品作家)	講堂	64
2022年1月22日(土)	午後2時～	現代美術のポジション展 展覧会解説会	保崎裕徳(名古屋市美術館学芸係長)、久保田舞美(名古屋市美術館学芸員) 木村充伯、多田圭佑、水野勝規、水野里奈(出品作家)	講堂	64
2022年3月13日(日)	午後2時～	ゴッホ展 作品解説会	森本陽香(名古屋市美術館学芸員)	講堂	65
2022年3月19日(土)	午後2時～	ゴッホ展 作品解説会	深谷克典(名古屋市美術館参与)	講堂	62
2022年3月26日(土)	午後2時～	ゴッホ展 作品解説会	森本陽香(名古屋市美術館学芸員)	講堂	64

(2) コレクション解析学

当館のコレクションから1点を選び、その魅力を学芸員が紹介する美術講座。

コレクション解析学第1回

日時：2021年8月22日(日)午後2時～

演題：シュルレアリストとの交流

作品：ルフィーノ・タマヨ《メキシコの風》1952年

講師：清家三智(名古屋市博物館学芸員)

内容：《メキシコの風》はフランスのシュルレアリストで詩人のパンジャマン・ベレによる詩に、ルフィーノ・タマヨ(1899-1991)のリトグラフによる挿絵を添えて出版された詩集である。この詩には古代メキシコの神話や伝説の要素がふんだんに盛り込まれ、シュルレアリズムの影響も強く受けており、発表から約70年経った現在も邦訳が存在しない。タマヨの挿絵が表すものを理解するため翻訳および解題を試みるとともに、ベレや同時代のシュルレアリストたちがタマヨと交流する端緒や背景を探った。

内容：加藤大博(1936-)は名古屋に生まれ、名古屋を拠点として制作発表を行ってきたこの地域の戦後の抽象表現を代表する作家のひとりである。人種差別や広島原爆投下などの社会的な問題について考察した作品の制作を経て、美術の制作を労働ととらえ、作業として作品を制作することを試みている。このような制作の推移を作家の思考とともに時代背景や同時代の他作家の活動などを交えて紹介した。作家の許可を得て作成した制作の一端を追体験するワークシートを作家の試みを理解する手掛かりとして参考に配布した。

コレクション解析学第3回

日時：2021年12月26日(日)午後2時～

演題：庄司達の空間表現

作品：庄司達《白い布による空間'68-6》1968年(2003年再制作)

講師：森本陽香(名古屋市美術館学芸員)

内容：庄司達(1939-)は、京都市に生まれ、愛知県を拠点に50年以上活動を続けている作家であり、名古屋市美術館では、本講で取り上げる作品を含め3点の

作品を所蔵している。「白い布による空間」と題したシリーズ7点は、庄司の作家としてのデビュー作に当たり、その後の空間表現の核となる重要な作品群である。生徒が取り上げたハンカチがひらりと空中に舞う様子を見てインスピレーションを得、この作品が生まれたという高校教諭時代のエピソードなどを交えて紹介した。さらに、〈白い布による空間〉シリーズに加えて、当館が所蔵する《Navigation Flight No. 5-6》など、「Navigation(ナビゲーション)」と題されるシリーズについても、より発展した空間表現として紹介した。布に木材を組み合わせてつくる〈Navigation〉シリーズは、1985年に始まり、「アーチ」、「フライト」、「レベル」の3種類の展開を見せた。いずれも限られた素材で高い造形性をもつ作品で、数ある庄司の作品の中でも、群を抜いている。とくに、庄司がデビュー当時から大切にしている浮遊感が際立つ「フライト」は、橋梁やタワーに用いられる「トラス」という構造をヒントにするなど、建築的な側面の強い作品であるといえる。建築、さらには都市計画についての庄司の持論を合わせて紹介し、布を使用した大型インスタレーションとのかかわりを考察した。

コレクション解析学第4回

日時：2022年2月27日(日)午後2時～

演題：労働と壁画

作品：北川民次《赤津陶工の家》1941年

講師：勝田琴絵(名古屋市美術館学芸員)

内容：北川民次(1894-1989)は静岡県に生まれ、1914年にアメリカに渡って美術の基礎を学んだ後、1921年から15年間メキシコで制作活動と児童美術教育に携わった。ニューヨークの社会派の画家たちやメキシコ壁画運動に接するなかで、「民衆を描く」という重要なテーマを得る。《赤津陶工の家》は、作家が日本へ帰国後、第28回二科会で発表した作品で、発表時は《生活三題・勤労》という題だった。当時の社会状況や美術雑誌の批評を紹介するとともに、異時同図的な画面構成や独特の遠近法においてメキシコ壁画からの影響が見られることを確認した。また、本作が制作されたのと同時期、作家は仲間とともに『マハフノツボ(魔法の壺)』という児童向け絵本を出版しており、そこには似た構図や主題の挿絵が含まれていることにも注目した。作家自身が絵と文を手がけたこの絵本のストーリーを手掛かりに、陶器製作の様子を通じて人々の創造的な連帯を意識させる《赤津陶工の家》に込められた思想について考察した。

(3)パフォーマンス・ワークショップ

年月日	時刻	内容	講師等	場 所	参加者
2021年8月9日(月)	午前10時～	美術をたのしむプログラム 風景を糸と布でえがく ワークショップー刺しゅう体験ー	宮田明日鹿(ニット・テキスタイル作家)	講堂	9
2021年8月9日(月)	午後2時～	美術をたのしむプログラム 風景を糸と布でえがく ワークショップー刺しゅう体験ー	宮田明日鹿(ニット・テキスタイル作家)	講堂	10
2021年10月17日(日)	午前10時～	美術をたのしむプログラム びじゅつかんは玉手箱	星子桃子、森本陽香、久保田舞美(名古屋市美術館学芸員)	講堂及び屋外	11
2021年10月17日(日)	午後2時～	美術をたのしむプログラム びじゅつかんは玉手箱	星子桃子、森本陽香、久保田舞美(名古屋市美術館学芸員)	講堂及び屋外	5
2022年1月29日(土)	午前10時～	美術をたのしむプログラム 線であそんでみよう!	水野里奈(現代美術のポジション2021-2022 出品作家)	講堂及び屋外	7
2022年1月29日(土)	午後2時～	美術をたのしむプログラム 線であそんでみよう!	水野里奈(現代美術のポジション2021-2022 出品作家)	講堂及び屋外	10
2022年1月30日(日)	午前10時～	美術をたのしむプログラム 線であそんでみよう!	水野里奈(現代美術のポジション2021-2022 出品作家)	講堂及び屋外	12
2022年1月30日(日)	午後2時～	美術をたのしむプログラム 線であそんでみよう!	水野里奈(現代美術のポジション2021-2022 出品作家)	講堂及び屋外	11

2. 子ども対象の事業

(1)学校休業日の体験活動の推進

名古屋市美術館では平成15年度から、長期休業期間を除く学校休業日(土日祝)を対象に、美術や美術館に親しむプログラムを継続して実施している。これは名古屋市教育委員会が平成22年度まで推進してきた「なごやっ子教育推進計画」の後継として策定した「名古屋市教育振興基本計画」の一環で行うものである。

令和3年度は、来館者の利用状況や興味関心を考慮し、特別展との連携を図りながら、「美術をたのしむプログラム」として事前申込制と自由参加、あわせて年間4種類の活動を実施した。新型コロナウイルス感染拡大状況から、参加者同士の距離の確保等、コロナ対策を行った上で各ワークショップを実施。また、2回の延期を経て実施したプログラムもあった。

①事前申し込みが必要なプログラム

1) 風景を糸と布でえがくワークショップ

—刺しゅう体験—

日 時 8月9日(月・振休)

【午前の部】午前10時～午後0時30分

【午後の部】午後2時～午後4時30分

講 師 宮田明日鹿(ニット、テキスタイル作家)

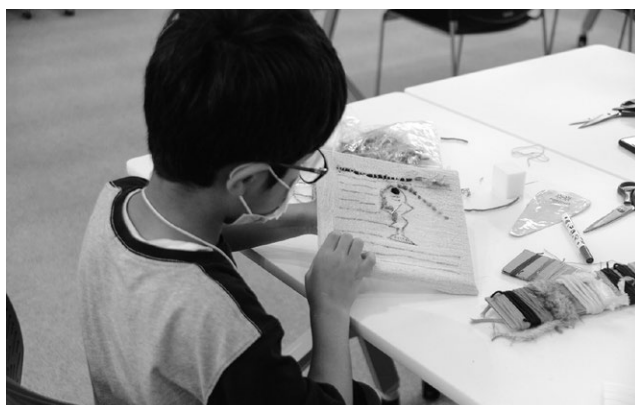
対 象 小中学生(小学4年生以下は保護者同伴)

会 場 2階講堂・企画展示室

参加者数 19名(2回延べ・小中学生のみ)

スタッフ (名古屋市美術館学芸員) 森本陽香、星子桃子、久保田舞美

内 容 特別展「生誕160年記念 グランマ・モーゼス展—素敵な100年人生」の開催に合わせ、刺繍とパッチワークキルトの要素を組み合わせたワークショップを実施。モーゼスが日常生活で行っていた制作を体験することで、展覧会・作品の理解を深め、毛糸刺繍やはぎれ布を使って自ら新しい造形物を作りあげる楽しさ・造形を見る面白さを感じてもらいきっかけとした。企画・講師には、名古屋市出身、「宮田編機」主宰・「港まち手芸部」部長のニット・テキスタイル作家・宮田明日鹿氏を迎えた。参加者は、モーゼスの刺繍作品・キルトを鑑賞した後、事前に描いてきたスケッチをもとに、さまざまな色や形の糸を使って刺繍をしたり、自宅から持ってきた端切れを縫い貼りしたりして、好きな風景やものを表現した。最後に、各参加者が作ったものを見合い、体験を共有した。



2) びじゅつかんは玉手箱

日 時 10月17日(日)

【午前の部】午前10時～正午

【午後の部】午後2時～午後4時

対 象 こども(小中学生)とおとな(保護者)

*家族単位での参加

会 場 2階講堂・白川公園

参加者数 6家族16名(2回延べ)

スタッフ (名古屋市美術館学芸員) 森本陽香、星子桃子、久保田舞美
(ボランティア)10名

内 容 鑑賞する対象を、展示室内の作品から白川公園内の立体作品へと広げ、以前からあるのに目を向けていないものに意識を向けること、新たに発見したり、不思議に思ったり、「なぜ～なんだろう?」と疑問を持ったりしながら自発的に感覚を働かせて鑑賞することをねらいとしたプログラム。

当初は、令和3年5月30日(日)に実施する予定であったが、愛知県に緊急事態宣言が発出されたことを受け、6月20日(日)に実施延期を決定。しかし、同緊急事態宣言の期間が延長されたことで、再延期として10月17日(日)に実施する運びとなった。過去にも実施されてきた同プログラムだが、

新型コロナウイルス感染拡大防止の観点から、当館ボランティアと協議を行いながら、従来の運用を変更して行った。

各参加家族は、3～5点の作品が指定された彫刻マップをもとに、白川公園内を散策しながら、ボランティアが待つ指定作品のもとへ向かう。作品のもとへ着いた後は、ボランティアから、作品の形や色、大きさなど造形的な特徴に関する問いが投げかけられる。参加者は、その言葉をもとに考えたり、作者の意図を想像したりしながら、家族同士、またボランティアと意見交換を行った。最後に参加者全員で集まり、印象に残った作品や感想を書いた付箋を地図に貼り集め、互いの体験を共有した。



3) 線であそんでみよう！

日 時 1月29日(土)・30日(日)

【午前の部】午前10時～午前11時30分

【午後の部】午後2時～午後3時30分

講 師 水野里奈

(名古屋芸術大学非常勤講師・「現代美術のポジション2021-2022」出展作家)

対 象 小学生以上

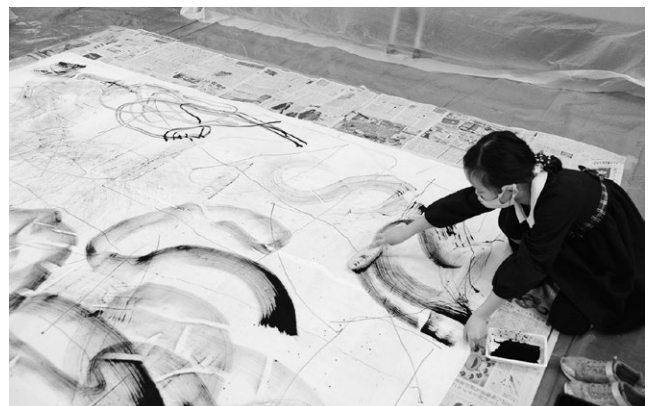
会 場 2階講堂・企画展示室

参加者数 40名(2日間延べ)

スタッフ (名古屋市美術館学芸員) 森本陽香、星子桃子、久保田舞美

内 容 特別展「現代美術のポジション2021-2022」の開催に合わせて、同展覧会出品作家である水野里奈氏を講師に迎え、線にかくこと、組み合わせることを楽しむワークショップを実施。子どもたちが、東海地域にゆかりがあり、現在活躍している若手作家と一緒に創作活動を行うことをきっかけに、現代美術への関心を高め、その面白さや魅力を感じてもらうことを目的とした。

参加者は、水野里奈氏の作品を鑑賞後、グループに分かれ、くじ引きで割り当てられたホウキや歯ブラシ、割りばしなどを使って、1人ずつ2×3mの布に、墨汁で思い思いの線をかいていった。参加者の制作前・制作中には講師も各グループに参加し、講師を含めたグループ内の参加者全員の線の組み合わせで、一つの作品を作ることを意識した。最後に、各グループの完成作品を見合ってそれぞれの違いを楽しみ、布を切り分けて持ち帰った。



②自由参加プログラム

1) 子ども向けワークショップ

- 配布期間** 7月30日(金)～11月14日(日)
- 対象** 制限なし
- 配架場所** 常設展受付、常設展示室入口、2階企画展示室出口付近
- 印刷部数** 4,000枚
- 内容** 小中学校の夏休みに合わせ、名品コレクション展Ⅰの出品作品をもとに、両面8ページのB5判リーフレット型のワークシートを作成、常設展示室受付を中心に各所に配架した。ワークシートを使い作品をよく見ることを通して、美術作品を見ることの楽しさを感じてもらおうきっかけとした。また、展示室内の作品だけでなく、美術館の建築意匠や、白川公園内の立体作品についても紹介し、建物自体の面白さ、屋外作品の存在を知ってもらおうきっかけとした。



(2)芸術と科学の杜

「芸術と科学の杜」とは、名古屋市美術館と科学館が連携して、市民の豊かな感性と創造力を育む魅力ある事業を継続して実施するとともに、白川公園周辺の文化施設や地域とも協力して連携の輪を広げることで「芸術と科学を中心にさまざまな文化が融合し、新しい文化を生み出すまち」の形成を目指すものである。

この事業の目的を実現するため、地元商店街や周辺の施設、関係機関で構成する「芸術と科学の杜連携推進会議」を設立し、今年度は以下の事業を実施した。

アートフェスティバル

- 日時** 10月30日(土)午前10時～午後3時
- 場所** 名古屋市美術館および白川公園エリア
- 参加者数** 514名
- 内容**
(1)ワークショップ「世界に一つだけのスノードームを作ろう！」

親子でも気軽に参加できるワークショップとして、透明な容器にガラス細工を浮かべ、雪などに見立てたものを入れるオリジナルのスノードーム作りを開催した。

- 会場** 美術館講堂
- 講師** アイクリエーション
- 実施回** 2回(午前10時30分～午前11時30分／午後1時～午後2時)
- 参加者** 68名
(1回目:33名 ※付添14名含む／2回目35名 ※付添16名含む)

(2)黒い楽器・クラリネット五重奏によるクラシック音楽コンサート

黒い彫刻・ハンマリングマンの前で、黒い楽器・クラリネットのコンサートを開催した。フランソワ・ポンポン展にあわせ、フランスで生まれた楽曲などを演奏した。

- 会場** 美術館地下1階ロビー
- 出演** Clarinet Ensembleみたらしだんご
- 実施回** 3回(午前10時～午前10時20分／正午～午後0時20分／午後2時40分～午後3時)
- 参加者** 131名(1回目:37名／2回目:42名／3回目:52名)

(3)パフォーマンス「人間彫刻白リーマン出沒」

真っ白なサラリーマン風の石像(白リーマン)によるスタチュー・パフォーマンスを開催した。

- 会場** 美術館1階ロビー、外周辺(美術館前広場、科学館南門付近)
- 出演** Performer Shiva
- 実施回** 3回(午前10時～午前10時40分／午前11時40分～午後0時20分／午後1時50分～午後2時30分)
- 参加者** 315名(1回目:87名／2回目:82名／3回目:146名)

地元交流事業

特別展会期中、地元の方を招待し、担当学芸員の作品解説と自由観覧を実施した。

フランソワ・ポンポン展

- 開催日** 2021年10月31日(日)
- 参加者** 46名

3. 学校対象事業

(1) ボランティアによる学校等団体向けガイドトーク

名古屋市美術館では、常設展を鑑賞する学校等の団体来館者に対して、希望によりボランティアによるガイドトークを実施している。これは来館者が5名程度のグループにわかれて、ボランティアと一緒に展示室をまわりながら、会話を通してじっくりと美術を鑑賞するものである。本年度は、新型コロナウイルス感染防止対策を十分に行い、以下の団体に対してガイドトークを実施した。

No.	実施日	団体名	見学者数(生徒数)	引率者数	対応ボランティア数
1	2021年8月4日(水)	名古屋市立名古屋商業高等学校2年生	4	0	2
2	2021年10月8日(金)	名古屋市立二城小学校6年生	94	3	6
3	2021年11月5日(金)	津島市立神守中学校1年生	60	4	5
4	2022年1月19日(水)	名古屋市立夕路中学校2年生	5	0	2
5	2022年3月10日(木)	名古屋市立一色中学校1年生	6	0	2
6	2022年3月11日(金)	名古屋市立若葉中学校2年生	3	0	2
計			172	7	19

(2) アートカード貸出実績

アートカードは、名古屋市美術館の所蔵作品の中から60点を選び、はがき大の複製図版に仕立てた鑑賞学習用補助教材である。名古屋市立の小中学校に対しては各区に設けた保管校を通して、それ以外の学校・団体には美術館から直接貸出を行い、鑑賞学習の普及に努めている。

令和3年度 アートカード保管校別貸出実績一覧

区	貸出先	ケース数	貸出期間
千種	自由ヶ丘小学校	3	10月、1月、1月
東	桜丘中学校	1	9月
	愛知教育大学附属名古屋小学校	3	10月18日～11月18日
北	名北小学校	2	2月
西	なごや小学校	4	4月～3月
中村	日比津小学校	1	6月～1月
中	なし		
昭和	なし		
瑞穂	瑞穂ヶ丘中学校	5	4月～3月
熱田	白鳥小学校	2	1月17日～1月28日
中川①	なし	0	
中川②	なし	0	
港	なし	0	
南	南光中学校	2	10月、11月
	大江中学校	2	10月、11月
守山	なし	0	
緑	なし	0	
名東	高針台中学校	2	7月
天白	なし	0	

計11件27ケース

令和3年度 美術館からの直接貸出実績

No.	学校・団体名	ケース数	貸出期間
1	松原小学校トワイライトスクール	1	5月16日～5月31日
2	栄小学校トワイライトスクール	1	5月20日～5月31日

計2件2ケース

令和3年度 アートカード保管校一覧

区	学校名	担当の先生	ケース数	保管ケース番号
千種区	自由ヶ丘小	宮城島喜弘	3	2、3、4
東区	桜丘中	大鹿公仁子	3	1、5、6
北区	名北小	鈴木さやか	4	7、8、9、10
西区	なごや小	樋田 裕二	4	11、12、13、61
中村区	諏訪小	松本 明美	3	15、16、26
中区	松原小	坂 泉美	3	17、18、19
昭和区	駒方中	松岡 健児	3	20、21、22
瑞穂区	瑞穂ヶ丘中	宮野 潤一	3	23、24、25
熱田区	白鳥小	佐々木めぐみ	2	27、28
中川区	はとり中	校條 敬子	2	29、30
	山王中	福島 恭子		31、33
港区	東港中	佐藤由利子	3	34、35、36
南区	南光中	石谷和佳子	2	62、63
守山区	大森小	山田祥太郎	4	42、43、44、45
緑区	東丘小	原 敏史	5	46、47、48、49、50
名東区	高針台中	岩崎かりん	4	51、52、53、54
天白区	御幸山中	内田 真穂	4	55、56、57、58

(3)出前アート体験

①千種区 千代田橋小学校

プログラム名 アートカードで学ぼう
日 時 7月14日(水)午前9時35分～午前11時25分
場 所 教室
学 年 2年生3クラス(61名)*3クラスを2回に分けて実施
講 師 (学芸係長)保崎裕徳
授業内容

新型コロナウイルス感染症の拡大防止に配慮し、通常「アートカード」を用いてグループ単位で行う活動を見送った。今年度から美術館のウェブサイトで公開を始めた、収蔵作品データベースの著作権保護期間外の作品画像45点を、児童が各自のタブレット端末で閲覧できる状態にして、以下の内容を実施した。

①マッチングゲーム

大型モニタに映しだされた作品(松下春雄《花を持つ女》)に似ている作品を、端末上の45点のサムネイル画像から探す。任意の生徒は選んだ作品との共通点を発表して、クラス内で意見を共有する。

②形容詞ゲーム

課題として与えられた形容詞「あかるい」にふさわしい作品を、端末上の45点のサムネイル画像から探す。選んだ画像の上に、その理由を手書きして、教員用端末に画像を送信する。選ばれた作品と理由を全員分、大型モニタに映して、結果をクラス内で共有する。ユニークな理由などを学芸員がとりあげ、とくに注目した造形要素などについて、児童に追加の発言をもとめる。

②東区 愛知教育大学附属名古屋小学校

プログラム名 アートカードで学ぼう
日 時 10月27日(水)午前9時40分～午前11時35分
場 所 プレイングルーム
学 年 2年生3クラス(89名)*3クラスを2回に分けて実施
講 師 (学芸係長)保崎裕徳
授業内容

新型コロナウイルス感染症の拡大防止に配慮し、通常「アートカード」を用いてグループ単位で行う活動を見送った。収蔵作品データベースの著作権保護期間外の作品画像45点を、児童が各自の端末で閲覧できる状態にして、以下の内容を実施した。

①キーワードゲーム

課題として与えられたキーワード「あかるい」にふさわしい作品を、端末上の45点のサムネイル画像から探す。選んだ画像を教員用端末に送信し、選んだ理由を配布されたワークシートに書き入れる。選ばれた作品を全員分、大型モニタに映して、結果をクラス内で共有する。ユニークな意見などを学芸員がとりあげ、とくに注目した造形要素(明度や気分など、「あかるい」の捉え方の違い)などについて、児童に追加の発言をもとめる。次に、キーワードを「山」に変えて、ふさわしい作品の中で自分が一番よいと思ったものを選び、教員用端末に送る。理由をワークシートに書き入れるなど、以後の流れは前半の活動と同様。

②まとめ

今日の授業で気づいたこと、友達の意見でなるほどと思ったこと、次に作品を見るときに気をつけたいことについて任意で発言する。



③西区 稲生小学校

プログラム名 アートカードで学ぼう
日 時 12月16日(木)午前9時40分～午前11時25分
場 所 体育館
学 年 4年生3クラス(106名)*3クラスを2回に分けて実施
講 師 (学芸員)森本陽香
授業内容

新型コロナウイルス感染症拡大防止の観点から、グループ活動による至近距離での会話、アートカードへの複数人の接触を避けるため、アートカードは使用せず、児童一人ひとりが所持するタブレット端末を利用して、以下のプログラムを企画、実施した。

事前準備

4年生は版画で自画像を制作していたことから、自画像をテーマに所蔵作品から2点選び、鑑賞することとした。児童がそれぞれ、

自画像を制作する際に気づいたことをふまえ、作家の気持ちを想像しながら作品を鑑賞することで、新たな視点が生まれることを期待した。

活動① 藤田嗣治《自画像》の鑑賞

藤田嗣治《自画像》(1929年)を、体育館前方に設置した大型スクリーンに映し出すとともに、児童が各自のタブレット端末で画像を映し、鑑賞する。描かれているものや気になる描写について、気づいたこと、感じたことを、タブレット端末の付箋機能を使用して、自由にメモしていく。メモは、担任の先生のタブレットに集約され、書けた人から順に表示されていく。児童も各自の端末で、クラスメイトの感想を共有することができる。藤田の表情や視線から、「カメラ目線」、「自信がある」、「真剣に絵を描いている」など、鋭い気づきが多く見られた。各自の端末で、画像を拡大して見ることで、スクリーン画像のみでは気づかないような細部にも気づき、サインなどの小さな文字も読むことができた。

活動② マルク・シャガール《二重肖像》の鑑賞

続いて、シャガールの《二重肖像》を大型スクリーンと各自の端末に映し出し、①と同様に鑑賞、付箋に気づいたことをメモしていく。本作は、①の作品ほど分かりやすい自画像ではないが、シャガール本人とその妻ベラの姿が重ね合わされていると言われる。児童には「自画像」であるとは説明せず鑑賞させたが、手にパレットを持ち、キャンバスに向かう男性の姿を見て、「描かれた人は画家であり、隣にいる白いドレスの女性をモデルに描いているのではないか」と推察する児童が多数いた。手元のタブレットで拡大縮小を自由に行えるため、微細な陰影や、小さなサインにも気づくことができた。①とほぼ同じ時代の1924年に描かれたことを発見し、描き方の違いに驚く声もあった。

講師 (学芸員)竹葉丈

授業内容 名古屋市美術館が所蔵するメキシコの女性画家フリーダ・カーロ(1907-1954)の作品《死の仮面を被った少女》を題材として授業を行う。まず初めにパワーポイントでカラー図版を紹介するとともに、全員に図版コピーを配り、作品に描かれた場面について想像してもらう。担当の先生の協力を得て、複数の子供たちに絵に対する自身の第一印象を発表してもらった。荒野に立つ骸骨の仮面を被った少女に対しては、一様にある種の寂しさや恐怖等、何か悲しい物語があるような感想を得た。

少女が被る骸骨の仮面の意味を、メキシコの死生観に照らし合わせて紹介し、少女が手にしている花(=マリーゴールド)が、現世と彼岸とをつなぐ象徴として、メキシコの民族行事「死者の日」に於いて重要な意味を持つことを解説した。三年前に製作・公開されたディズニー映画『リメンバー・ミー』のステルを見せると、子供たちの理解と興味は一気に昂まった。その後、少女の足元に置かれたジャガーの仮面に込められた意味について紹介し、「骸骨」のイメージとともに、メキシコに於ける仮面の意味と特性について解説した。

最後に作者であるフリーダ・カーロの人生と制作活動について紹介したが、先に挙げたディズニー映画にも登場していることもあったか、作品の成り立ちとともに作家に対しても興味を持ってくれたように見受けられた。以上、解説を通じて作品をはじめて見た時に感じた怖さを払拭し、作品が持つ奥深さと悲しさを確認できたのではないだろうか。

(4)就業・職業体験及び職場訪問受け入れ

- 1 対象 中学校・高等学校生徒
- 2 内容 【体験】総務課、学芸課の業務内容を知るとともに、警備、案内監視、施設管理等の業務内容を知り、体験する。
【訪問】館内施設の見学をするとともに、疑問点についてインタビューを行い、美術館に関する理解を深める。

④千種区 見付小学校

プログラム名 名作の秘密を探る

日時 1月19日(木)午前9時45分～午前10時45分

場所 体育館

学年 5年生3クラス(89名)

3 実績

就業・職業体験

実施日	内容	学校名	学年	人数
2021年8月3日(火)・4日(水)	体験	名古屋市立名古屋商業高等学校	2年	4人
2022年1月18日(火)・19日(水)	体験	名古屋市立汐路中学校	2年	5人
2022年3月8日(火)・9日(水)	体験	名古屋市立伊勢山中学校	2年	3人
計				12人

職場訪問

実施日	内容	学校名	学年	人数
2021年8月5日(木)午前10時～11時30分	訪問	第一学院高等学校 名古屋キャンパス	2年	2人
2022年1月18日(水)午前10時10分～11時40分	訪問	名古屋市立神の倉中学校	1年	16人
2022年1月18日(水)午後0時50分～2時20分	訪問	名古屋市立神の倉中学校	1年	17人
2022年1月20日(木)午前10時10分～11時40分	訪問	名古屋市立駒方中学校	1年	6人
2022年3月11日(金)午前9時30分～正午	訪問	名古屋市立若葉中学校	2年	3人
計				44人

リモート等

実施日	内容	学校名	学年	人数
2021年10月28日(木)	リモート	愛知県立名古屋西高等学校 1年	1年	5人
2022年1月20日(木)	電話	名古屋市立津賀田中学校	2年	6人
計				11人

2 ボランティア

主な活動として、常設展示室でのギャラリートークを実施したが、新型コロナウイルス感染症感染拡大の影響により、実施日、実施時間、参加人数を制限しての実施となった。また、学校休業日の教育プログラムにおける美術鑑賞体験支援などは実施しなかった。

多くのメンバーが活動する中で、一人当たりの活動の機会を確保することや、ガイドの質やレベルを平準化することが今後の課題であり、美術館としては、ボランティアが安心して積極的に活動に取り組めるよう支援していくことが責務である。

(1) ボランティア登録者(2022年3月31日現在)

第7期：池本せい子、井上静夫、今井康夫、遠藤明子、
太田美奈、大塚和子、加藤久子、末原みとせ、
蔦森敦子、平尾真実、三浦有美、安江あおい、
安原栄里、横井文代、吉川優実 ほか、
計16名

第8期：内海典子、川合幸代、神田初美、橘田純子、
柴田順三、杉原和夫、杉山要、鈴木昌弘、

都築祥子、道家千津子、廣瀬千明 ほか、
計17名

第9期：伊藤和子、魚住千加子、可児理佳、北村滋規、
近藤理恵、下田薫子、鈴木浩司、恒川明美、
西田果絵、廣瀬典子、前澤真奈美、目加田頼
子、吉村由紀江、米本有里、渡辺順子 ほか、
計18名

第10期：池田裕子、伊藤早苗、川合葉子、久野るみ子、
中島鋭夫、二宮由加里、野沢忠道
ほか、計10名

第11期：青木未来、明石有里、浅田雅代、足立三和子、
石田由美、石原由美子、大矢雅道、岡本千花
栄、小澤真理、笠山るみ子、神田美智子、倉
田宏、黒田あつ子、五藤紳一郎、谷口亜希子、
野中美佳、平尾智子、福井恵子、藤原佳子、
二見公子、三浦肇、溝口純子、山下純、若林
啓子 計24名

(2) 定例会

定例会は原則として毎月第2土曜日の午前中に開催した。ボランティア間の連絡・調整の他に以下のような研修を行った。9月については、新型コロナウイルス感染拡大防止のため中止した。

日 時	時 間	内 容	講 師
4月10日	午前10時～正午	係活動の話し合い	
5月8日	午前10時～正午	特別展「アートとめぐる はるの旅」について	森本学芸員
7月10日	午前10時～正午	名品コレクション展Iについて	角田学芸員
8月7日	午前10時～正午	常設展ギャラリートークガイドツアーについて	星子学芸員
10月9日	午前10時～正午	彫刻の見方	保崎学芸係長
11月13日	午前10時～正午	名品コレクション展IIについて	勝田学芸員
12月11日	午前10時～正午	名古屋市博物館と分館の書道史的なみどころ	星子学芸員
1月8日	午前10時～正午	彫刻作品の見方(補足)	保崎学芸係長
2月5日	午前10時～正午	油彩画をさぐる—自然科学的調査結果を参考に	井口学芸課長
3月12日	午前10時～正午	令和4年度特別展「布の庭に遊ぶ 庄司達」について	森本学芸員

(3) ガイド活動

① 常設展ギャラリートーク

4月～7月は新型コロナウイルス感染拡大防止のため、活動を中止していたが、8月から週3回、1月からは休館日を除く毎日(午後1時30分～・午後2時30分～)、一般を対象とした約30分のガイドツアーを各日ボランティア2名が担当した。8月28日～9月30日は新型コロナウイルス感染

拡大防止のため中止した。

活 動 日 数 94日間
延べ参加者数 374名

② 特別展ギャラリートーク

新型コロナウイルス感染拡大防止のため、中止した。

(4) サポート活動 系の活動

研修係

昨年度に引き続き、新型コロナウイルス感染症の拡大防止のため、館外や定例会での研修を見送った。一方、スキルの維持向上のため、休館日を利用してギャラリートークの模擬実践を12月に2回、2月に1回、有志が集まって実施した。

資料係

例年、常設展の展示替えごとにギャラリートークの参考となる資料を選別してボランティアに情報提供し、必要なものを配布している。また、特別展ギャラリートーク等で使用した資料やコレクション解析学等の展覧会の記録を収集し、後に参照しやすいよう整理して保存するなど、資料の管理全般に携わっている。今年度は新型コロナウイルス感染症への対応によりボランティア活動が長期休止となったことから、これらの活動を行うことができなかった。

体験活動係

美術をたのしむプログラム2021の事業の一つ「びじゅつかんは玉手箱」において、スタッフの募集や実施までの連絡調整、下準備、参加者との対話を中心とした当日の運営サポート、ボランティア定例会での活動報告を主に担当した。当日の円滑な事業運営や鑑賞対象となる作品への理解を深めるため、事前打ち合わせを行ったほか、実施後の振り返り会にて、今後の活動内容の検討や意見交換にも携わった。また、同プログラムの活動の研鑽のため、ボランティアによるブラッシュアップ企画を実施した（1月8日〔土〕午後1時30分～午後3時30分、21名参加）。プログラム参加者を作品鑑賞やトークに引きつける声のかけ方など、過去の経験を共有し、11期のボランティアを中心に屋外立体作品でのトークの経験を積む機会とした。

団体対応係

学校団体等による常設展の鑑賞方法の研鑽のため、ボランティアによる自主勉強会を実施した（7月10日〔土〕午後1時～午後2時30分、12名参加）。新型コロナウイルス感染拡大防止対策のため、参加者およびガイドボランティアそれぞれの距離を1m程度保ち、5名程度のグループで鑑賞する想定で、ガイドの練習を行った。11期のボランティアは積極的にガイドを行い、経験を積む機会とした。マスク着用で距離をとるトークの場合の音量などについて、意見を交わしたほか、参加者が作品に近づきすぎた場合に、距離を取りながら注意する難しさなども指摘された。

3 学生向け優待事業

(1) 美術館学生メンバーズ

① 趣旨

美術館と大学等との教育連携により、学生と美術との出会いを容易にし、学生生活をより豊かにする機会を提供する。

② 対象

大学（短大、大学院）、専修学校、各種学校等の学校の生徒。オプションとして教職員の付加も可能。

③ 事業概要

「ゆめ・プレミアムアートコレクション寄附金」に一定額以上の寄附を行った学校法人や団体に対して、その特典として、在籍する学生等がその年度の特別展や常設展を学生証等の呈示だけで無料で観覧できるようにするもの。

④ 会員校(令和4年3月31日現在)

- ・名古屋大学
- ・名古屋芸術大学
- ・名古屋学院大学
- ・名古屋市立大学
- ・愛知県立芸術大学
- ・愛知淑徳大学
- ・学校法人中西学園
- ・南山大学
- ・豊田工業大学
- ・金城学院大学
- ・中部大学
- ・愛知教育大学

(2) 高校生サポーター事業

① 趣旨

事業の実施により、高校生の美術に対する理解を深め、学校生活をより豊かにする機会を提供する。

② 対象

高等学校、中等教育学校（後期課程に限る。）又は高等専門学校の生徒。

③ 事業概要

2,000円の会費の納付により、納付から1年間の会員期間の間、サポーター証及び学生証の呈示により特典を受けられる。特別展は会員及び同行する高校生が4回を上限に無料で観覧でき、常設展は会員が何度でも無料で観覧できる。

4 協力会

名古屋市美術館協力は、美術館の活動等に協力するとともに、市民の美術に関する知識と教養の向上を図るために必要な事業を行い、芸術文化の振興発展に寄与することを目的に活動を行っています。

<会員数>	<新規・継続別> (令和4年3月31日現在)		
	新規	継続	計
特別会員 5名	特別会員 0名	5名	5名
一般会員 113名	一般会員 14名	99名	113名
ユース会員 9名	ユース会員 2名	7名	9名
家族会員 51名	家族会員 6名	45名	51名
(計) 178名	(計) 22名	156名	178名

令和3年度美術館協力会事業報告

(1) 展覧会ギャラリー・トークの開催

- 「アートとめぐる はるの旅展」解説会
令和3年4月4日(日) 22名参加
- 「ランス美術館コレクション 風景画のはじまり
コロから印象派へ」解説会
令和3年4月18日(日) 46名参加
- 「生誕160年記念 グランマ・モーゼス展—素敵な100年
人生」解説会
令和3年7月25日(日) 35名参加
- 「フランソワ・ボンボン展」解説会
令和3年9月25日(土) 42名参加
- 「現代美術のポジション2021-2022」解説会
令和3年12月19日(日) 33名参加
- 「ゴッホ展—響きあう魂 ヘレーネとフィンセント」
解説会
第1回 令和4年2月27日(日) 45名参加
第2回 令和4年3月13日(日) 30名参加

(2) 美術館見学ツアーの実施

- 春 中止
- 秋 中止

(3) 作家を囲む会 無し

(4) 美術館鑑賞ミニツアー

- 愛知県美術館 「トライアログ展」
令和3年6月6日(日) 18名参加
- 岡崎市美術博物館 「渡辺省亭展」
令和3年6月13日(日) 21名参加
- 豊田市美術館 「モンドリアン展」
令和3年8月29日(日) 11名参加
- 三重県立美術館 「ミケル・バルセロ展」
令和3年10月3日(日)
※新型コロナウイルス感染症拡大のため中止
- 名古屋市博物館 「ムーミンコミックス展」
令和3年10月31日(日) 7名参加

- 豊田市美術館 「ホー・ツーニエン百鬼夜行展」
令和3年11月28日(日) 11名参加
- 名古屋市博物館 「大雅と蕪村展」
令和3年12月26日(日) 24名参加
- 愛知県美術館 「ミニマル/コンセプチュアル展」
令和4年1月30日(日)

※新型コロナウイルス感染症拡大のため中止

- (5) 令和3年度ブログ閲覧状況〔投稿36件、閲覧数4,824回、
ユーザー数(延)2,480名〕
- (6) オリジナル・カレンダーの作成及び配付
原画：濱田樹里(日本画家・名古屋造形大学准教授) 250部
- (7) 催しものの案内
特別展、常設展、講演会など情報提供、年間展覧会案内、
アートペーパーの配付
- (8) 作品の寄贈
オリジナル・カレンダー1件1点
- (9) 総会の開催
令和3年6月27日(日) 出席者 16名(委任状94名)計110名

5 図書室

図書室の資料の充実を図るとともに、そのときどきの特別展に即した参考資料を揃えるなどして、利用者の多様なニーズに応えるよう努力しています。

図書資料分類別冊数一覧 (令和4年3月31日現在)

分類	和書	洋書
辞書、辞典、年鑑、図書目録	588(3)	225(0)
画集、美術全集、所蔵品目録	7,911(68)	3,628(18)
展覧会図録	14,448(375)	1,551(16)
研究書、技法書	416(23)	19(2)
年報、紀要、報告書	9,151(386)	31(8)
美術雑誌	13,330(77)	2,588(2)
その他(美術教科書、一般図書)	2,723(35)	1,099(4)
小計	48,567(967)	9,141(50)
総計	57,708(1,017)冊	

()は今年度の受け入れ図書冊数

入室者数 4,523名

4月	333名	10月	334名
5月	320名	11月	243名
6月	91名	12月	148名
7月	192名	1月	220名
8月	239名	2月	341名
9月	275名	3月	1,787名

出版・制作物一覧

美術館ニュース『アートペーパー』Nos. 117、118、119

美術館の活動状況や美術・文化についての様々な情報を広報するものです。No.117より判型、紙面レイアウトを刷新しました。

A4判、6頁、片観音折り、各5,000部、館内無料配布およびPDFデータを当館ウェブサイトに掲載

特集記事

117号：油絵をさぐる一松下春雄《花を持つ女》と鬼頭鍋三郎《手をかざす女》

118号：マリオネット、メキシコに行く。—三人のアメリカ人の出会いとその後の物語

119号：北川民次の《赤津陶工の家》—絵本『マハフノツボ』から読み解く



名古屋市美術館研究紀要 第16巻

美術や博物館活動等に関して、主に当館学芸員による調査・研究の詳細を収めた冊子です。

A4判、42頁、300部、関係機関配布およびPDFデータを当館ウェブサイトに掲載



令和2年度名古屋市美術館年報

令和2年度の当館の活動の記録です。

A4判、52頁、PDFデータを当館ウェブサイトに掲載



令和4年度年間案内

令和4年度の展覧会情報と教育普及プログラムについて広報するものです。

A3判(2つ折り、3山経本折り)、20,000部、館内無料配布



名古屋市美術館は近代美術館として、名古屋文化圏と考えられる伊勢湾周辺地帯の優れた美術品「郷土の美術」を収集することから出発しました。地元を代表する作家のうち、全国的または国際的な視点から、美術史上、重要と認められる作家については、作家個人の芸術の発展が明らかになるように系統立てて収集することとしました。こうした方針のもと、地元重要作家への影響と関連を理解するために有益であり、収蔵品に厚みをもたせて美術館の特色を出し、また国際性を考慮し、「エコール・ド・パリ」「メキシコ・ルネサンス」「現代の美術」の3つの収集方針を加え、収集の範囲を広げました。現在、以上の4つの方針に沿って収集を進めています。

収集にあたっては、資料収集会議において、各分野の専門家5人から意見を聴取し、選定作品の受入を行います。本年度は、令和4年1月24日に資料収集会議を開催し、意見聴取を行いました。会議では、新型コロナウイルス感染症の影響により令和2年度に審議を延期した案件も審議し、351点の受贈（作品）、1807点の受託（作品）、883点の受贈（特別資料）、158点の受託（特別資料）、69点の受け入れ変更がありました。購入作品はありませんでした。結果、令和3年度末において、当館の資料収集数は、8105点となりました。

本年度は、令和2年度に開催した「「写真の都」物語—名古屋写真運動史：1911-1972」展にかかわる多数の作品・特別資料を受け入れました。それ以外では、受贈作品には、100歳を迎えた今も活躍する画家・野見山暁治、国内外で高く評価されている写真家・奈良原一高の作品が含まれています。また、大正時代の京都画壇で異彩を放った甲斐庄楠音の作品、地元での活動について今後の調査・研究が期待される野村博の版画も収集しました。特別資料では、大島哲以のスケッチブック、岸本清子に関連する資料などを収集しました。受託作品には、海老原喜之助の油彩画、また

地元を代表する作家のひとり久野真の作品構想のためのドローイングをまとめてご寄託いただきました。作家の制作過程を探る貴重な資料です。

厳しい財政状況が続いており、計画的に収集していくことが困難ではありますが、寄贈・寄託を受けながら、今後も美術館活動の根幹ともいえる収集活動を充実させていくよう努めていきます。

(1) 受贈

① 資料



1. 石井久峰 (1878-n.d.)
ISHII Kyūho
《[夏姿美人図]》
[Summer Beauty]
c.1935
絹本着彩 軸装
185.0×71.3cm
早瀬陽一氏寄贈



2. 山田秋衛 (1888-1968)
YAMADA Akie
《根室に於ける大黒屋光太夫、磯吉、小市》
title unknown
[Daikokuya Kodayu, Isokichi, Koichi, in Nemuro.]
c.1935
紙本着彩 屏風(六曲一隻)
136.3×273.0cm
早瀬陽一氏寄贈



3. 山田秋衛 (1888-1968)
YAMADA Akie
《田代新八景画卷》
Picture Scroll of Tashiro Shin-Hakkei
(Tashiro New Eight Views)
1936
紙本着彩 卷子
36.8×351.5cm
早瀬陽一氏寄贈



4. 甲斐庄楠音 (1894-1978)
KAINOSHO Tadaoto
《女の顔》
Woman's Face
c.1919
絹本着彩 額装
46.0×52.0cm
熊沢五六旧蔵



5. 甲斐庄楠音 (1894-1978)
KAINOSHO Tadaoto
《手鏡を持つ女》
Woman with a Hand Mirror
c.1925
絹本着彩 額装
44.0×51.0cm
熊沢五六旧蔵



6. 甲斐庄楠音 (1894-1978)
KAINOSHO Tadaoto
《悪夢》
Nightmare
c.1933
絹本着彩 軸装
126.0×27.0cm
熊沢五六旧蔵



7. 甲斐庄楠音 (1894-1978)
KAINOSHO Tadaoto
《砂の女》
Woman on the Sand
c.1977
紙本着彩 額装
29.8×24.3cm
熊沢五六旧蔵



8. 甲斐庄楠音 (1894-1978)
KAINOSHO Tadaoto
《痴女昇天》
Woman with Blind Passion Going to Heaven
c.1977
紙本着彩 額装
32.0×24.0cm
熊沢五六旧蔵



9. 甲斐庄楠音 (1894-1978)
KAINOSHO Tadaoto
《[美人図]》
[Beauty]
n.d.
絹本着彩 軸装
125.5×27.0cm
熊沢五六旧蔵



10. 甲斐庄楠音 (1894-1978)
KAINOSHO Tadaoto
《白首》
Prostitute
n.d.
絹本着彩 額装
145×16.0cm
熊沢五六旧蔵



11. 甲斐庄楠音 (1894-1978)
KAINOSHO Tadaoto
《[[舞妓]]》
[[Maiko]]
n.d.
紙本着彩 額装
25.5×17.0cm
熊沢五六旧蔵



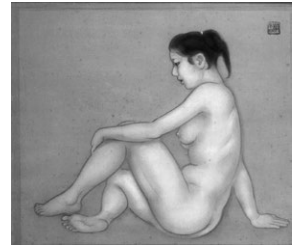
12. 甲斐庄楠音 (1894-1978)
KAINOSHO Tadaoto
《畜生塚由来(草稿)》
The Origin of "Hillock of Beasts" (Study)
c.1915
紙本墨画淡彩 額装
20.0×51.7cm
熊沢五六旧蔵



13. 甲斐庄楠音 (1894-1978)
KAINOSHO Tadaoto
《椅子に倚る女》
Woman Leaning Back in a Chair (Sketch)
c.1920
鉛筆・紙 額装
35.0×37.5cm
熊沢五六旧蔵



14. 甲斐庄楠音 (1894-1978)
KAINOSHO Tadaoto
《怨恨》
Grudge
c.1920
紙本墨画淡彩 額装
27.0×24.0cm
熊沢五六旧蔵



15. 甲斐庄楠音 (1894-1978)
KAINOSHO Tadaoto
《裸女》
Nude
c.1930
絹本着彩 額装
36.5×42.0cm
熊沢五六旧蔵



16. 甲斐庄楠音 (1894-1978)
KAINOSHO Tadaoto
《[[立てる男]]》
[Standing Man]
n.d.
紙本墨画淡彩 額装
33.0×23.0cm
熊沢五六旧蔵



17. 甲斐庄楠音 (1894-1978)
KAINOSHO Tadaoto
《[[悪夢]]のモデル》
[Model of "Nightmare"]
c.1933
紙本着彩 額装
19.0×24.5cm
熊沢五六旧蔵



18. 甲斐庄楠音 (1894-1978)
KAINOSHO Tadaoto
《[[横たわる女]]》
[Reclining Woman]
c.1933
鉛筆・淡彩・紙
25.0×33.5cm
熊沢五六旧蔵



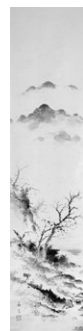
19. 甲斐庄楠音 (1894-1978)
KAINOSHO Tadaoto
《[[蚊帳]]》
[Mosquito Net]
n.d.
紙本着彩 額装
30.0×24.0cm
熊沢五六旧蔵



20. 平岩三陽 (1893-1982)
HIRAIWA Sanyo
《宿場》
Posting Station
n.d.
絹本着彩 額装
42.5×44.8cm
熊沢五六旧蔵



21. 横山菫生 (1899-1977)
YOKOYAMA Hasei
《太子堂》
Taishi-do Shrine
n.d.
絹本着彩 額装
44.8×38.4cm
熊沢五六旧蔵



22. 横山菫生 (1899-1977)
YOKOYAMA Hasei
《秋聲余情》
Elegance of Autumn
n.d.
絹本墨画淡彩 軸装
122.3×30.0cm
熊沢五六旧蔵

23. 井上まさじ(1955-)
INOUE Masaji
《白から白へ》12点
From White to White
2011
アクリル、糸・板
各60.0×30.0cm



23-1



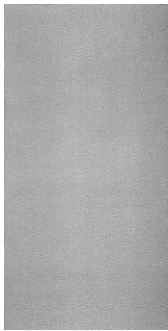
23-2



23-3



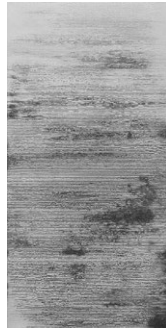
23-4



23-5



23-6



23-7



23-8



23-9



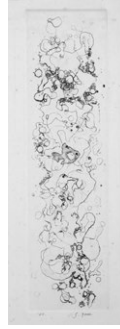
23-10



23-11



23-12

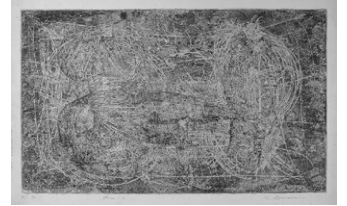
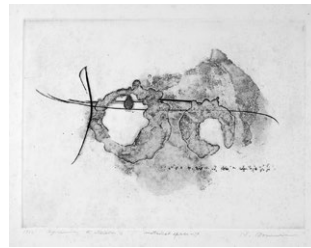
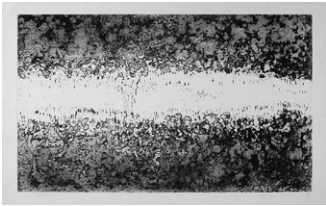


24. 鷺見磨 (1954-)
SUMI Maro
《新・聖なるファティアー「神秘の子羊の礼拝」》
New Sacred Fatiah - "The Worship of the Mystic Lamb"
2013-2020
ミクストメディア
185.5×288.5×36.0cm
永見隆幸氏寄贈

25. 野見山暁治 (1920-)
NOMIYAMA Gyoji
《ふり返るな》
Don't Look Back
2012
油彩・キャンバス
162.0×194.0cm
野見山暁治氏寄贈

26. 野村博 (1923-2008)
NOMURA Hiroshi
《作品60-23》
title unknown [Work 60-23]
1960
エッチング、エンブレイピング・紙
25.5×6.8cm

27. 野村博 (1923-2008)
NOMURA Hiroshi
《間-1》
Space-1
1961
エッチング、ドライポイント・紙
46.0×36.4cm, ed. 2/10

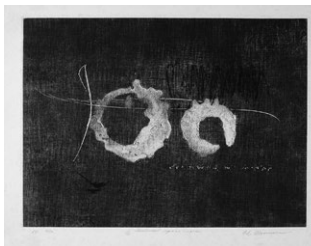


28. 野村博 (1923-2008)
NOMURA Hiroshi
《間-4》
Space-4
1962
エッチング、ドライポイント・紙
36.0×59.7cm, ed. 1/10

29. 野村博 (1923-2008)
NOMURA Hiroshi
《間-8》
Space-8
1962
エッチング、エンブレイピング、ドライポイント・紙
36.0×69.2cm, ed.A.P. 1/2

30. 野村博 (1923-2008)
NOMURA Hiroshi
《律の広場-19》
Metrical Space-19
1963
エッチング、エンブレイピング・紙
26.5×35.8cm, ed.A.P. 1/1

31. 野村博 (1923-2008)
NOMURA Hiroshi
《自在-3》
Free-3
1963
エッチング・紙
36.0×59.5cm, ed. 6/10



32. 野村博 (1923-2008)
NOMURA Hiroshi
《自在-4》
Free-4
1963
エッチング、エンブレイピング、アクアチント・紙
59.5×35.9cm, ed.A.P.

33. 野村博 (1923-2008)
NOMURA Hiroshi
《間-24》
Space-24
1964
エッチング、ドライポイント・紙
26.4×36.0cm, ed.A.P.

34. 野村博 (1923-2008)
NOMURA Hiroshi
《律の広場-19(b)》
Metrical Space-19(b)
1964
エッチング、ドライポイント、メゾチント・紙
26.4×36.0cm, ed. 4/10

35. 野村博 (1923-2008)
NOMURA Hiroshi
《ゼノンの矢-17》
La Fletche de Zénon - 17
1964
エッチング、ドライポイント・紙
36.3×50.4cm, ed. 2/10



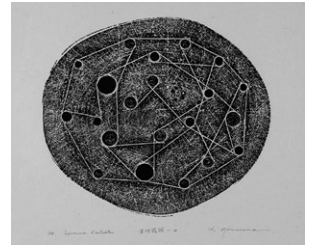
36. 野村博(1923-2008)
NOMURA Hiroshi
《ゼノンの矢-18》
La Fletche de Zénon - 18
1964
エッチング・紙
46.3×36.2cm, ed.A.P.



37. 野村博(1923-2008)
NOMURA Hiroshi
《壁-2》
Le Mur - 2
1969
空刷り、エンブレイピング、エッチング、
アルミ鋳型押し・紙
52.3×37.5cm, ed.A.P.



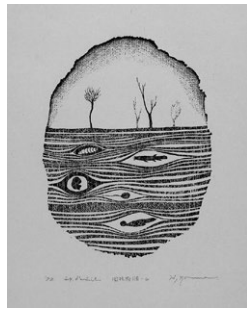
38. 野村博(1923-2008)
NOMURA Hiroshi
《作品69-294》
title unknown[Work 69-294]
1969
エッチング、ドライポイント、アクアチント、
写真凹版空刷り・紙
55.2×38.0cm, ed.A.P. 1/1



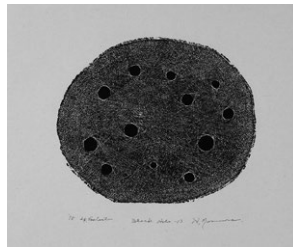
39. 野村博(1923-2008)
NOMURA Hiroshi
《因陀羅網-2》
Indra Net - 2
1972
木口木版・紙
17.1×14.8cm, ed.A.P.



40. 野村博(1923-2008)
NOMURA Hiroshi
《因陀羅網-3》
Indra Net - 3
1972
木口木版・紙
14.7×12.8cm, ed.A.P.



41. 野村博(1923-2008)
NOMURA Hiroshi
《因陀羅網-4》
Indra Net - 4
1972
木口木版・紙
15.2×11.5cm, ed.A.P.



42. 野村博(1923-2008)
NOMURA Hiroshi
《ブラックホール-13》
Black Hole -13
1975
木口木版・紙
14.7×12.5cm, ed.A.P.



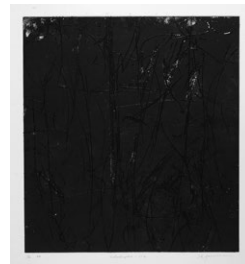
43. 野村博(1923-2008)
NOMURA Hiroshi
《破局-1》
Catastrophe-1
1982
エッチング・紙
36.0×69.3cm, ed. 3/20



44. 野村博(1923-2008)
NOMURA Hiroshi
《破局-2》
Catastrophe-2
1982
エッチング・紙
36.3×69.2cm, ed.A.P.



45. 野村博(1923-2008)
NOMURA Hiroshi
《破局-11》
Catastrophe-11
1982
エッチング、エンブレイピング・紙
39.7×36.4cm, ed.A.P.



46. 野村博(1923-2008)
NOMURA Hiroshi
《破局-11a》
Catastrophe-11a
1982
エッチング、エンブレイピング・紙
39.5×36.2cm, ed. 1/20



47. 野村博(1923-2008)
NOMURA Hiroshi
《ブラックホール》
Black Hole
1982
木口木版・紙
18.7×11.5cm, ed.A.P.

48. 奈良原一高(1931-2020)
 NARAHARA Ikko
 『無国籍地』より20点
 Stateless Land
 1954-56撮影



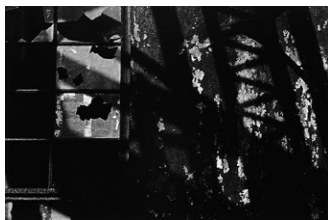
48-1. 《無国籍地-01》
 Stateless Land(01)
 2020(1954-56撮影)
 ラムダ・プリント
 32.7×21.6cm
 奈良原一高アーカイブズ寄贈



48-2. 《無国籍地-03》
 Stateless Land(03)
 1987(1954-56撮影)
 セラチンシルバー・プリント
 22.0×33.0cm
 奈良原一高アーカイブズ寄贈



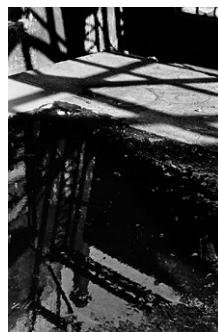
48-3. 《無国籍地-04》
 Stateless Land(04)
 1987(1954-56撮影)
 セラチンシルバー・プリント
 33.1×22.0cm
 奈良原一高アーカイブズ寄贈



48-4. 《無国籍地-05》
 Stateless Land(05)
 1987(1954-56撮影)
 セラチンシルバー・プリント
 21.7×32.9cm
 奈良原一高アーカイブズ寄贈



48-5. 《無国籍地-06》
 Stateless Land(06)
 1987(1954-56撮影)
 セラチンシルバー・プリント
 21.8×33.0cm
 奈良原一高アーカイブズ寄贈



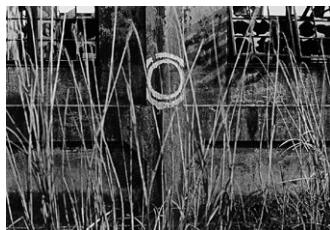
48-6. 《無国籍地-08》
 Stateless Land(08)
 1987(1954-56撮影)
 セラチンシルバー・プリント
 33.0×21.2cm
 奈良原一高アーカイブズ寄贈



48-7. 《無国籍地-10》
 Stateless Land(10)
 1987(1954-56撮影)
 セラチンシルバー・プリント
 21.8×33.0cm
 奈良原一高アーカイブズ寄贈



48-8. 《無国籍地-12》
 Stateless Land(12)
 1987(1954-56撮影)
 セラチンシルバー・プリント
 33.0×21.8cm
 奈良原一高アーカイブズ寄贈



48-9. 《無国籍地-17》
 Stateless Land(17)
 1987(1954-56撮影)
 セラチンシルバー・プリント
 22.9×33.1cm
 奈良原一高アーカイブズ寄贈



48-10. 《無国籍地-20》
 Stateless Land(20)
 1987(1954-56撮影)
 セラチンシルバー・プリント
 33.1×21.7cm
 奈良原一高アーカイブズ寄贈



48-11. 《無国籍地-25》
 Stateless Land(25)
 1987(1954-56撮影)
 セラチンシルバー・プリント
 33.0×21.7cm
 奈良原一高アーカイブズ寄贈



48-12. 《無国籍地-26》
Stateless Land(26)
1987(1954-56撮影)
ゼラチンシルバー・プリント
32.9×21.0cm
奈良原一高アーカイブズ寄贈



48-13. 《無国籍地-28》
Stateless Land(28)
2020(1954-56撮影)
ラムダ・プリント
21.7×32.5cm
奈良原一高アーカイブズ寄贈



48-14. 《無国籍地-29》
Stateless Land(29)
1987(1954-56撮影)
ゼラチンシルバー・プリント
22.0×33.0cm
奈良原一高アーカイブズ寄贈



48-15. 《無国籍地-32》
Stateless Land(32)
1987(1954-56撮影)
ゼラチンシルバー・プリント
33.1×22.1cm
奈良原一高アーカイブズ寄贈



48-16. 《無国籍地-34》
Stateless Land(34)
1987(1954-56撮影)
ゼラチンシルバー・プリント
33.0×21.6cm
奈良原一高アーカイブズ寄贈



48-17. 《無国籍地-36》
Stateless Land(36)
1987(1954-56撮影)
ゼラチンシルバー・プリント
33.0×21.8cm
奈良原一高アーカイブズ寄贈



48-18. 《無国籍地-37》
Stateless Land(37)
1987(1954-56撮影)
ゼラチンシルバー・プリント、ラムダ・プリント
32.9×21.9cm
奈良原一高アーカイブズ寄贈



48-19. 《無国籍地-39》
Stateless Land(39)
1987(1954-56撮影)
ゼラチンシルバー・プリント、ラムダ・プリント
33.0×21.8cm
奈良原一高アーカイブズ寄贈



48-20. 《無国籍地-44》
Stateless Land(44)
1987(1954-56撮影)
ゼラチンシルバー・プリント
21.9×32.8cm
奈良原一高アーカイブズ寄贈

49. 奈良原一高(1931-2020)
NARAHARA Ikko
『人間の土地』より30点
from Human Land
1954-56撮影



49-1. 《緑なき島 軍艦島、軍艦島全景》
Island without Green: Gunkanjima
-Views of Gunkanjima
2020(1954-57撮影)
ラムダ・プリント
40.5×26.5cm
奈良原一高アーカイブズ寄贈



49-2. 《緑なき島 軍艦島、軍艦島全景》
Island without Green: Gunkanjima
-Views of Gunkanjima
2020(1954-57撮影)
ラムダ・プリント
27.0×40.5cm
奈良原一高アーカイブズ寄贈



49-3. 《緑なき島 軍艦島、軍艦島全景》
Island without Green: Gunkanjima
-Views of Gunkanjima
2020(1954-57撮影)
ラムダ・プリント
21.7×32.8cm
奈良原一高アーカイブズ寄贈



49-4. 《緑なき島 軍艦島、岩壁》
Island without Green: Gunkanjima
-The Sea Wall
1997(1954-57撮影)
ゼラチンシルバー・プリント
47.7×32.0cm
奈良原一高アーカイブズ寄贈



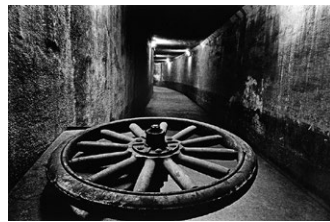
49-5. 《緑なき島 軍艦島、時化》
Island without Green: Gunkanjima
-In Stormy Weather
1997(1954-57撮影)
ゼラチンシルバー・プリント
31.7×48.0cm
奈良原一高アーカイブズ寄贈



49-6. 《緑なき島 軍艦島、時化》
Island without Green: Gunkanjima
-In Stormy Weather
2020(1954-57撮影)
ラムダ・プリント
32.7×21.7cm
奈良原一高アーカイブズ寄贈



49-7. 《緑なき島 軍艦島、岩壁》
Island without Green: Gunkanjima
-The Sea Wall
1997(1954-57撮影)
ゼラチンシルバー・プリント
32.2×48.0cm
奈良原一高アーカイブズ寄贈



49-8. 《緑なき島 軍艦島、地下道》
Island without Green: Gunkanjima
-The Tunnel
2020(1954-57撮影)
ラムダ・プリント
36.8×40.5cm
奈良原一高アーカイブズ寄贈



49-9. 《緑なき島 軍艦島、地下道》
Island without Green: Gunkanjima
-The Tunnel
1997(1954-57撮影)
ゼラチンシルバー・プリント
47.9×31.9cm
奈良原一高アーカイブズ寄贈



49-10. 《緑なき島 軍艦島、雪の貯炭場》
Island without Green: Gunkanjima
-Snow on the Coal-Storage Yard
1997(1954-57撮影)
ゼラチンシルバー・プリント
31.8×48.3cm
奈良原一高アーカイブズ寄贈



49-11. 《緑なき島 軍艦島、事故》
Island without Green: Gunkanjima
-An Accident in the Mine
1986(1954-57撮影)
ゼラチンシルバー・プリント
22.2×32.8cm
奈良原一高アーカイブズ寄贈



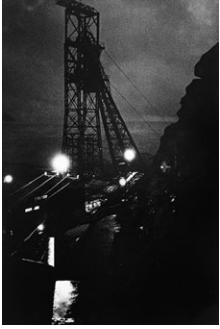
49-12. 《緑なき島 軍艦島、浴場》
Island without Green: Gunkanjima
-In the Communal Bath
1986(1954-57撮影)
ゼラチンシルバー・プリント
21.9×33.0cm
奈良原一高アーカイブズ寄贈



49-13. 《緑なき島 軍艦島、浴場》
Island without Green: Gunkanjima
-In the Communal Bath
2020(1954-57撮影)
ラムダ・プリント
32.6×21.3cm
奈良原一高アーカイブズ寄贈



49-14. 《緑なき島 軍艦島、作業場と浮桟橋、夜景》
Island without Green: Gunkanjima
-The Mine and the Jetty at Night
1997(1954-57撮影)
ゼラチンシルバー・プリント
31.8×48.1cm
奈良原一高アーカイブズ寄贈



49-15. 《緑なき島 軍艦島、立坑夜景》
Island without Green: Gunkanjima
-The Mine Shaft at Night
1986(1954-57撮影)
ゼラチンシルバー・プリント
33.0×21.8cm
奈良原一高アーカイブズ寄贈



49-16. 《緑なき島 軍艦島、アパート俯瞰、昼景》
Island without Green: Gunkanjima
-Overhead Vie of Apartment in Daylight
1999(1954-57撮影)
ゼラチンシルバー・プリント
32.9×21.8cm
奈良原一高アーカイブズ寄贈



49-17. 《緑なき島 軍艦島、アパート》
Island without Green: Gunkanjima
-Apartment
1986(1954-57撮影)
ゼラチンシルバー・プリント
32.9×24.0cm
奈良原一高アーカイブズ寄贈



49-18. 《緑なき島 軍艦島、アパートの階段》
Island without Green: Gunkanjima
-Apartment Stairs
1997(1954-57撮影)
ゼラチンシルバー・プリント
32.0×48.1cm
奈良原一高アーカイブズ寄贈



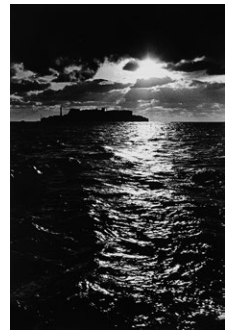
49-19. 《緑なき島 軍艦島、子守りの老人達》
Island without Green: Gunkanjima
-Old People Caring for the Young
1986(1954-57撮影)
ゼラチンシルバー・プリント
22.0×33.0cm
奈良原一高アーカイブズ寄贈



49-20. 《緑なき島 軍艦島、海を見る少年》
Island without Green: Gunkanjima
-Boy Watching the Sea
1997(1954-57撮影)
ゼラチンシルバー・プリント
32.0×48.0cm
奈良原一高アーカイブズ寄贈



49-21. 《緑なき島 軍艦島、中ノ島の無縁墓地》
Island without Green: Gunkanjima
-Graveyard for those with No Surviving Relatives, Nakanoshima Island
1996(1954-57撮影)
ゼラチンシルバー・プリント
32.6×21.5cm
奈良原一高アーカイブズ寄贈



49-22. 《緑なき島 軍艦島、夕陽の軍艦島》
Island without Green: Gunkanjima
-Gunkanjima in Sunset Light
1997(1954-57撮影)
ゼラチンシルバー・プリント
48.1×31.8cm
奈良原一高アーカイブズ寄贈



49-23. 《火の山の麓 黒神村、夜の熔岩》
Village at the Foot of The Volcano:
Kurokami Mura Village- Lave at Night
1987(1954-57撮影)
ゼラチンシルバー・プリント
47.9×31.7cm
奈良原一高アーカイブズ寄贈



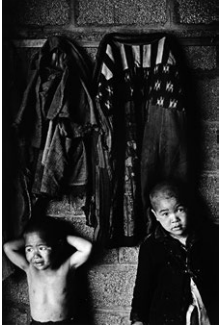
49-24. 《火の山の麓 黒神村、晴れた日》
Village at the Foot of The Volcano:
Kurokami Mura Village- On a Fair Day
1987(1954-57撮影)
ゼラチンシルバー・プリント
33.0×21.7cm
奈良原一高アーカイブズ寄贈



49-25. 《火の山の麓 黒神村、破れた野良着》
Village at the Foot of The Volcano:
Kurokami Mura Village- Worn-out Field Smock
1999(1954-57撮影)
ゼラチンシルバー・プリント
32.8×21.7cm
奈良原一高アーカイブズ寄贈



49-26. 《火の山の麓 黒神村、むしろの扉》
Village at the Foot of The Volcano:
Kurokami Mura Village- Straw-mat Door
1987(1954-57撮影)
ゼラチンシルバー・プリント
32.7×21.5cm
奈良原一高アーカイブズ寄贈



49-27. 《火の山の麓 黒神村、兄弟》
Village at the Foot of The Volcano:
Kurokami Mura Village- Brothers
1986(1954-57撮影)
ゼラチンシルバー・プリント
32.6×21.7cm
奈良原一高アーカイブズ寄贈



49-28. 《火の山の麓 黒神村、埋もれた鳥居》
Village at the Foot of The Volcano:
Kurokami Mura Village- Buried Shrine
Entrance Gateway (Torii)
2020(1954-57撮影)
ラムダ・プリント
32.7×21.7cm
奈良原一高アーカイブズ寄贈

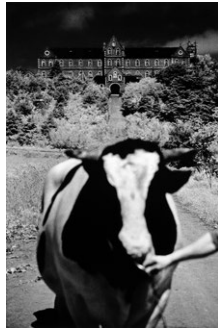


49-29. 《火の山の麓 黒神村、雨の日の
熔岩の入江》
Village at the Foot of The Volcano:
Kurokami Mura Village- Lava-bound
Inlet in Rain
1997(1954-57撮影)
ゼラチンシルバー・プリント
31.8×48.0cm
奈良原一高アーカイブズ寄贈



49-30. 《火の山の麓 黒神村、月の出の
入江》
Village at the Foot of The Volcano:
Kurokami Mura Village
- Inlet at Moonrise
1999(1954-57撮影)
ゼラチンシルバー・プリント
32.8×21.6cm
奈良原一高アーカイブズ寄贈

50. 奈良原一高(1931-2020)
NARAHARA Ikko
『王国』より32点
from Domains
1958撮影



50-1. 《沈黙の園》
Domains; Garden of Silence
1977(1958撮影)
ゼラチンシルバー・プリント
26.0×17.0cm
奈良原一高アーカイブズ寄贈



50-2. 《沈黙の園》
Domains; Garden of Silence
1998(1958撮影)
ゼラチンシルバー・プリント
31.8×48.1cm
奈良原一高アーカイブズ寄贈



50-3. 《沈黙の園》
Domains; Garden of Silence
2017(1958撮影)
ラムダ・プリント
30.7×20.4cm
奈良原一高アーカイブズ寄贈



50-4. 《沈黙の園》
Domains; Garden of Silence
1997(1958撮影)
ゼラチンシルバー・プリント
25.9×17.6cm
奈良原一高アーカイブズ寄贈



50-5. 《沈黙の園》
Domains; Garden of Silence
1997(1958撮影)
ゼラチンシルバー・プリント
31.9×47.8cm
奈良原一高アーカイブズ寄贈



50-6. 《沈黙の園》
Domains; Garden of Silence
1977(1958撮影)
ゼラチンシルバー・プリント
25.9×17.2cm
奈良原一高アーカイブズ寄贈



50-7. 《沈黙の園》
Domains; Garden of Silence
1997(1958撮影)
ゼラチンシルバー・プリント
47.8×32.1cm
奈良原一高アーカイブズ寄贈



50-8. 《沈黙の園》
 Domains; Garden of Silence
 1996 (1958撮影)
 ゼラチンシルバー・プリント
 47.7×30.2cm
 奈良原一高アーカイブズ寄贈



50-9. 《沈黙の園》
 Domains; Garden of Silence
 1977 (1958撮影)
 ゼラチンシルバー・プリント
 18.5×27.8cm
 奈良原一高アーカイブズ寄贈



50-10. 《沈黙の園》
 Domains; Garden of Silence
 1998 (1958撮影)
 ゼラチンシルバー・プリント
 47.8×31.6cm
 奈良原一高アーカイブズ寄贈



50-11. 《沈黙の園》
 Domains; Garden of Silence
 1998 (1958撮影)
 ゼラチンシルバー・プリント
 31.5×48.3cm
 奈良原一高アーカイブズ寄贈



50-12. 《沈黙の園》
 Domains; Garden of Silence
 1997 (1958撮影)
 ゼラチンシルバー・プリント
 47.9×31.7cm
 奈良原一高アーカイブズ寄贈



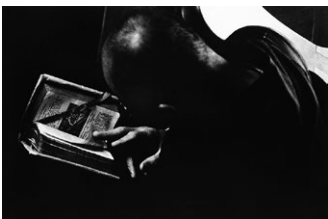
50-13. 《沈黙の園》
 Domains; Garden of Silence
 1997 (1958撮影)
 ゼラチンシルバー・プリント
 31.5×48.3cm
 奈良原一高アーカイブズ寄贈



50-14. 《沈黙の園》
 Domains; Garden of Silence
 1998 (1958撮影)
 ゼラチンシルバー・プリント
 31.5×47.8cm
 奈良原一高アーカイブズ寄贈



50-15. 《沈黙の園》
 Domains; Garden of Silence
 1996 (1958撮影)
 ゼラチンシルバー・プリント
 17.1×26.3cm
 奈良原一高アーカイブズ寄贈



50-16. 《沈黙の園》
 Domains; Garden of Silence
 1998 (1958撮影)
 ゼラチンシルバー・プリント、ラムダ・プリント
 31.7×48.0cm
 奈良原一高アーカイブズ寄贈



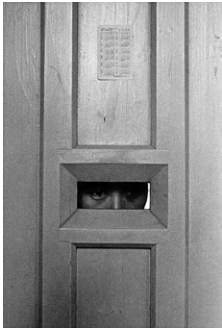
50-17. 《沈黙の園》
 Domains; Garden of Silence
 1997 (1958撮影)
 ゼラチンシルバー・プリント
 31.8×48.0cm
 奈良原一高アーカイブズ寄贈



50-18. 《沈黙の園》
 Domains; Garden of Silence
 1997 (1958撮影)
 ゼラチンシルバー・プリント
 47.6×31.7cm
 奈良原一高アーカイブズ寄贈



50-19. 《沈黙の園》
 Domains; Garden of Silence
 1998 (1958撮影)
 ゼラチンシルバー・プリント、ラムダ・プリント
 47.0×31.7cm
 奈良原一高アーカイブズ寄贈



50-20. 《壁の中》
 Domains; Within the Wall
 1977 (1956, 1958撮影)
 セラチンシルバー・プリント
 26.0×17.9cm
 奈良原一高アーカイブズ寄贈



50-21. 《壁の中》
 Domains; Within the Wall
 1998 (1956, 1958撮影)
 セラチンシルバー・プリント
 30.2×47.6cm
 奈良原一高アーカイブズ寄贈



50-22. 《壁の中》
 Domains; Within the Wall
 1997 (1956, 1958撮影)
 セラチンシルバー・プリント
 33.5×49.2cm
 奈良原一高アーカイブズ寄贈



50-23. 《壁の中》
 Domains; Within the Wall
 1999 (1956, 1958撮影)
 セラチンシルバー・プリント
 33.3×47.8cm
 奈良原一高アーカイブズ寄贈



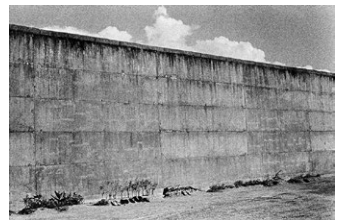
50-24. 《壁の中》
 Domains; Within the Wall
 1997 (1956, 1958撮影)
 セラチンシルバー・プリント
 47.8×31.6cm
 奈良原一高アーカイブズ寄贈



50-25. 《壁の中》
 Domains; Within the Wall
 1998 (1956, 1958撮影)
 セラチンシルバー・プリント
 47.7×30.6cm
 奈良原一高アーカイブズ寄贈



50-26. 《壁の中》
 Domains; Within the Wall
 1997 (1956, 1958撮影)
 セラチンシルバー・プリント
 47.7×30.6cm
 奈良原一高アーカイブズ寄贈



50-27. 《壁の中》
 Domains; Within the Wall
 1998 (1956, 1958撮影)
 セラチンシルバー・プリント
 31.7×47.5cm
 奈良原一高アーカイブズ寄贈



50-28. 《壁の中》
 Domains; Within the Wall
 1998 (1956, 1958撮影)
 セラチンシルバー・プリント
 31.2×47.6cm
 奈良原一高アーカイブズ寄贈



50-29. 《壁の中》
 Domains; Within the Wall
 1997 (1956, 1958撮影)
 セラチンシルバー・プリント
 31.9×47.6cm
 奈良原一高アーカイブズ寄贈



50-30. 《壁の中》
 Domains; Within the Wall
 1998 (1956, 1958撮影)
 セラチンシルバー・プリント、ラムダ・プリント
 47.7×31.7cm
 奈良原一高アーカイブズ寄贈



50-31. 《壁の中》
 Domains; Within the Wall
 1997 (1956, 1958撮影)
 セラチンシルバー・プリント
 47.8×31.6cm
 奈良原一高アーカイブズ寄贈



50-32. 《壁の中》
Domains: Within the Wall
1998 (1956, 1958撮影)
ゼラチンシルバー・プリント
31.8×47.7cm
奈良原一高アーカイブズ寄贈

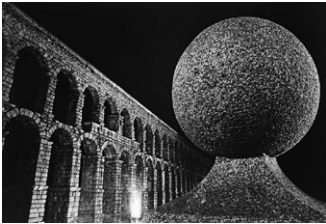
51. 奈良原一高 (1931-2020)
NARAHARA Ikko
『ヨーロッパ・静止した時間』より10点
from Where Time Has Stopped
1962-65撮影



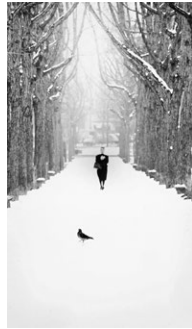
51-1. 《塔:ローマ、イタリア》
Towers: Roma, Italy
1973 (1962-65撮影)
ゼラチンシルバー・プリント
41.0×33.0cm
奈良原一高アーカイブズ寄贈



51-2. 《塔:ロワール、フランス》
Towers: Loire, France
1973 (1962-65撮影)
ゼラチンシルバー・プリント
17.2×25.5cm
奈良原一高アーカイブズ寄贈



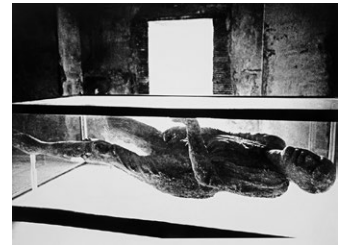
51-3. 《塔:セゴビア、スペイン》
Towers: Segovia, Spain
1973 (1962-65撮影)
ゼラチンシルバー・プリント
23.2×34.1cm
奈良原一高アーカイブズ寄贈



51-4. 《樹:パリ、フランス》
Trees: Paris, France
2020 (1962-65撮影)
ラムダ・プリント
40.5×23.4cm
奈良原一高アーカイブズ寄贈



51-5. 《化石:ポンペイ、イタリア》
Fossils: Pompeii, Italy
1973 (1962-65撮影)
ゼラチンシルバー・プリント
27.7×42.0cm
奈良原一高アーカイブズ寄贈



51-6. 《化石:ポンペイ、イタリア》
Fossils: Pompeii, Italy
1973 (1962-65撮影)
ゼラチンシルバー・プリント
35.0×49.2cm
奈良原一高アーカイブズ寄贈



51-7. 《化石:フィレンツェ、イタリア》
Fossils: Florence, Italy
1976 (1962-65撮影)
ゼラチンシルバー・プリント
26.0×17.2cm
奈良原一高アーカイブズ寄贈



51-8. 《秘密:シチリア島、イタリア》
Secrets: Sicily, Italy
1973 (1962-65撮影)
ゼラチンシルバー・プリント
27.8×18.3cm
奈良原一高アーカイブズ寄贈



51-9. 《秘密:バルセロナ、スペイン》
Secrets: Barcelona, Spain
1975 (1962-65撮影)
ゼラチンシルバー・プリント
34.1×22.8cm
奈良原一高アーカイブズ寄贈

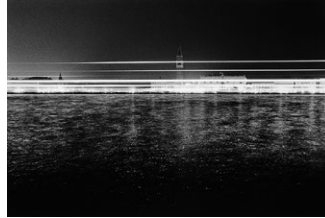


51-10. 《秘密:ヴェネツィア、イタリア》
Secrets: Venice, Italy
2020 (1962-65撮影)
ラムダ・プリント
40.5×27.3cm
奈良原一高アーカイブズ寄贈

52. 奈良原一高(1931-2020)
NARAHARA Ikko
『ヴェネチアの夜』より23点
from Venice-Nightscapes
1964-85撮影



52-1. 《落日:聖マルコ象徴「復活を表わす翼のあるライオン」を載せた円柱。聖マルコ小広場》
Sunset: Piazzetta San Marco
1983(1964-85撮影)
ゼラチンシルバー・プリント
33.0×21.6cm
奈良原一高アーカイブズ寄贈



52-2. 《光跡:聖マルコの海》
Lines of Luminance: San Marco Basin
1983(1964-85撮影)
ゼラチンシルバー・プリント
21.8×32.7cm
奈良原一高アーカイブズ寄贈



52-3. 《光跡:聖マルコの海》
Lines of Luminance: San Marco Basin
1983(1964-85撮影)
ゼラチンシルバー・プリント
21.8×32.7cm
奈良原一高アーカイブズ寄贈



52-4. 《光跡:ジュデッカ運河》
Lines of Luminance: Giudecca Canal
1983(1964-85撮影)
ゼラチンシルバー・プリント
21.7×32.7cm
奈良原一高アーカイブズ寄贈



52-5. 《光跡:ジュデッカ運河》
Lines of Luminance: Giudecca Canal
1983(1964-85撮影)
ゼラチンシルバー・プリント
21.7×32.7cm
奈良原一高アーカイブズ寄贈



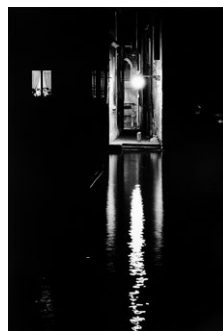
52-6. 《光跡:月光が渡る聖マルコの海》
Lines of Luminance: Moon Light on San Marco Basin
1983(1964-85撮影)
ゼラチンシルバー・プリント
21.7×32.7cm
奈良原一高アーカイブズ寄贈



52-7. 《光跡:オストレゲ小運河》
Lines of Luminance: Ostreghe Tiny Canal
2020(1964-85撮影)
ラムダ・プリント
32.6×21.6cm
奈良原一高アーカイブズ寄贈



52-8. 《光跡:聖マリア小運河》
Lines of Luminance: St. Maria Tiny Canal
2020(1964-85撮影)
ラムダ・プリント
32.6×21.6cm
奈良原一高アーカイブズ寄贈



52-9. 《光跡:小さな舟着き場》
Lines of Luminance: Small Gondola Terminal
1983(1964-85撮影)
ラムダ・プリント
32.7×21.9cm
奈良原一高アーカイブズ寄贈



52-10. 《光跡:ヴェステ小運河》
Lines of Luminance: Veste Tiny Canal
1984(1964-85撮影)
ゼラチンシルバー・プリント
32.7×21.8cm
奈良原一高アーカイブズ寄贈



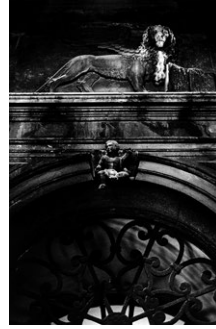
52-11. 《光跡:ヴェローナ小運河》
Lines of Luminance: Verona Tiny Canal
1993(1964-85撮影)
ゼラチンシルバー・プリント
37.3×41.2cm
奈良原一高アーカイブズ寄贈



52-12. 《橋:ヴォルト橋》
Bridges: Volto Bridge
1997(1964-85撮影)
ゼラチンシルバー・プリント
32.0×48.1cm
奈良原一高アーカイブズ寄贈



52-13. 《迷路:聖マリア・ミラコーリ教会》
Labyrinth: Church of Santa Maria dei Miracoli
1997(1964-85撮影)
ゼラチンシルバー・プリント
48.0×32.7cm
奈良原一高アーカイブズ寄贈



52-14. 《迷路:天使とライオン》
Labyrinth: Angel and Lion
1983(1964-85撮影)
ゼラチンシルバー・プリント
33.0×21.5cm
奈良原一高アーカイブズ寄贈



52-15. 《迷路:フルッタロ通り》
Labyrinth: Fruttaro Street
1997(1964-85撮影)
ゼラチンシルバー・プリント
33.7×35.3cm
奈良原一高アーカイブズ寄贈



52-16. 《迷路:カフェティエル通り》
Labyrinth: Caffetier Street
1997(1964-85撮影)
ゼラチンシルバー・プリント
45.0×36.7cm
奈良原一高アーカイブズ寄贈



52-17. 《迷路:ヴェローナ通り》
Labyrinth: Verona Street
1983(1964-85撮影)
ゼラチンシルバー・プリント
32.7×25.9cm
奈良原一高アーカイブズ寄贈



52-18. 《迷路:道にはみ出たレストラン》
Labyrinth: Restaurant on the Street
1983(1964-85撮影)
ゼラチンシルバー・プリント
25.8×32.7cm
奈良原一高アーカイブズ寄贈



52-19. 《迷路:仮面のある窓》
Labyrinth: Window with the Mask
2020(1964-85撮影)
ラムダ・プリント
32.8×21.7cm
奈良原一高アーカイブズ寄贈



52-20. 《聖マルコ広場・聖マルコ寺院(東側)の夜景》
Piazza San Marco: Night View of Basilica di San Marco (The east side)
1983(1964-85撮影)
ゼラチンシルバー・プリント
25.1×37.8cm
奈良原一高アーカイブズ寄贈



52-21. 《聖マルコ広場:広場への入口》
Piazza San Marco: Entrance to the Square
1983(1964-85撮影)
ゼラチンシルバー・プリント
33.0×22.0cm
奈良原一高アーカイブズ寄贈



52-22. 《祝祭:レデントーレの祝祭の花火》
Feast: Fireworks of Redentore Festival
2020(1964-85撮影)
ラムダ・プリント
27.2×40.7cm
奈良原一高アーカイブズ寄贈



52-23. 《祝祭:レデントーレの祝祭の花火》
Feast: Fireworks of Redentore Festival
1997(1964-85撮影)
ゼラチンシルバー・プリント
32.6×47.8cm
奈良原一高アーカイブズ寄贈

53. 奈良原一高(1931-2020)
NARAHARA Ikko
『消滅した時間』より25点
from Where Time Has Vanished
1971-72/1973-75/1977-78, 1985, 1997撮影



53-1. 《砂漠を走る車の影、アリゾナ州、1971年》
Shadow of Car Driving through Desert,
Arizona, 1971
1975(1971撮影)
ゼラチンシルバー・プリント
26.4×39.7cm
奈良原一高アーカイブズ寄贈



53-2. 《刻まれた矢印、アリゾナ州、1972年》
Engraved Arrow, Arizona, 1972
1996(1972撮影)
ゼラチンシルバー・プリント
47.7×32.3cm
奈良原一高アーカイブズ寄贈



53-3. 《モニュメント・バレーの見える車窓、アリゾナ州、1971年》
Monument Valley, Arizona, 1971
1973(1971撮影)
ゼラチンシルバー・プリント
27.1×34.3cm
奈良原一高アーカイブズ寄贈



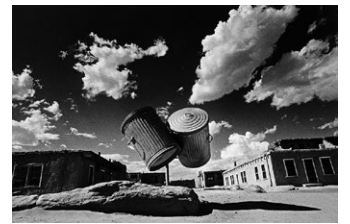
53-4. 《人口湖の見えるプール・サイド、ユタ州、1971年》
Side of Pool, Lake Powell, Utah, 1971
1977(1971撮影)
ゼラチンシルバー・プリント
22.5×33.9cm
奈良原一高アーカイブズ寄贈



53-5. 《トイレ、フォー・コーンズ、1971年》
Toilet, Four Corners, 1971
1973(1971撮影)
ゼラチンシルバー・プリント
22.0×33.0cm
奈良原一高アーカイブズ寄贈



53-6. 《イリノイの長い堀、イリノイ州、1972年》
Long Fence, Illinois, 1972
1974(1972撮影)
ゼラチンシルバー・プリント
21.1×31.6cm
奈良原一高アーカイブズ寄贈



53-7. 《ネイティブ・アメリカンの村の二つのゴミ缶、ニュー・メキシコ州、1972年》
Two Garbage Cans, Native American Village, New Mexico, 1972
1975(1972撮影)
ゼラチンシルバー・プリント
26.9×39.9cm
奈良原一高アーカイブズ寄贈



53-8. 《町はずれの酒屋、コロラド州、1972年》
Rural Liquor Shop, Colorado, 1972
1997(1972撮影)
ゼラチンシルバー・プリント
32.6×47.8cm
奈良原一高アーカイブズ寄贈



53-9. 《ゴールド・ラッシュ時代の家、カリフォルニア州、1972年》
House on State Highway 49,
California, 1972
1997(1972撮影)
ゼラチンシルバー・プリント
31.8×47.7cm
奈良原一高アーカイブズ寄贈



53-10. 《ゴースト・シティの少女、アリゾナ州、1971年》
Girl in Ghost City, Arizona, 1971
1973(1971撮影)
ゼラチンシルバー・プリント
18.6×27.9cm
奈良原一高アーカイブズ寄贈



53-11. 《ゴースト・シティ、アリゾナ州、1971年》
Ghost City, Arizona, 1971
1973(1971撮影)
ゼラチンシルバー・プリント
22.7×34.2cm
奈良原一高アーカイブズ寄贈



53-12. 《バスで過ぎる街角、テキサス州、1971年》
Street Scene from a Bus, Texas, 1971
1973(1971撮影)
ゼラチンシルバー・プリント
22.8×33.4cm
奈良原一高アーカイブズ寄贈



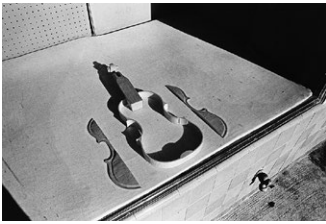
53-13. 《霊園、カリフォルニア州、1972年》
Graveyard, California, 1972
1974(1972撮影)
ゼラチンシルバー・プリント
34.1×23.0cm
奈良原一高アーカイブズ寄贈



53-14. 《九本の椰子の木と飛行機、ロサンゼルス、1972年》
Nine Palm Trees and an Airplane, Los Angeles, California, 1972
1997(1972撮影)
ゼラチンシルバー・プリント
32.5×47.8cm
奈良原一高アーカイブズ寄贈



53-15. 《スロット・マシン・ウーマン、ネバダ州、1972年》
Slotmachine Girl, Nevada, 1972
1975(1972撮影)
ゼラチンシルバー・プリント
28.1×18.6cm
奈良原一高アーカイブズ寄贈



53-16. 《バイオリン、サン・フランシスコ、1971年》
Violin, San Francisco, California, 1971
1973(1971撮影)
ゼラチンシルバー・プリント
23.0×34.1cm
奈良原一高アーカイブズ寄贈



53-17. 《二つのサンタ・クロース、ニューヨーク、1972年》
Two Santa Clauses, New York, 1972
1975(1972撮影)
ゼラチンシルバー・プリント
32.9×49.6cm
奈良原一高アーカイブズ寄贈



53-18. 《射撃、ユタ州、1972年》
Shooting, Utah, 1972
1973(1972撮影)
ゼラチンシルバー・プリント
22.9×34.1cm
奈良原一高アーカイブズ寄贈



53-19. 《リフレクション、ロサンゼルス、1972年》
Reflections, Los Angeles, California 1973(1972撮影)
ゼラチンシルバー・プリント
22.9×34.3cm
奈良原一高アーカイブズ寄贈



53-20. 《犬の散歩、ニューヨーク、1971年》
Dogs on a Walk, New York, 1971
1974(1971撮影)
ゼラチンシルバー・プリント
18.7×27.9cm
奈良原一高アーカイブズ寄贈



53-21. 《少女の影、カリフォルニア州、1971年》
Shadow of a Girl, California, 1972
1973(1971撮影)
ゼラチンシルバー・プリント
34.2×24.4cm
奈良原一高アーカイブズ寄贈



53-22. 《セントラル・パーク、ニューヨーク、1971年》
The Central Park, New York, 1972
1974(1971撮影)
ゼラチンシルバー・プリント
22.8×34.1cm
奈良原一高アーカイブズ寄贈



53-23. 《空き部屋、ニューヨーク、1973年》
Space for Rent, New York, 1973
1985(1973撮影)
ゼラチンシルバー・プリント
47.7×32.0cm
奈良原一高アーカイブズ寄贈

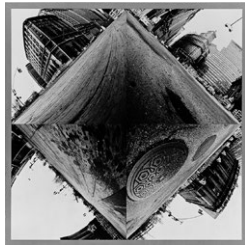


53-24. 《捨てられたポラロイド・フィルム、
ニューヨーク、1972年》
Discarded Polaroid Film, New York, 1972
1973 (1972撮影)
ゼラチンシルバー・プリント
21.9×33.0cm
奈良原一高アーカイブズ寄贈

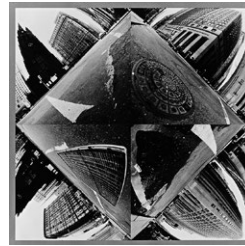


53-25. 《アポロ17号、ケープ・ケネディ、
フロリダ州、1972年》
Apollo 17, Florida, 1972
1978 (1972撮影)
48.0×32.4cm
奈良原一高アーカイブズ寄贈

54. 奈良原一高 (1931-2020)
NARAHARA Ikko
『BROADWAY』より11点
from BROADWAY
1973-74撮影



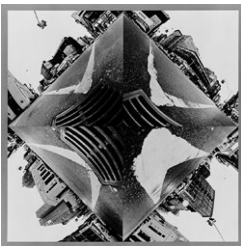
54-1. 《ボウリング・グリーン》
Bowling Green
1989 (1973-74撮影)
ゼラチンシルバー・プリント
27.5×27.5cm
奈良原一高アーカイブズ寄贈



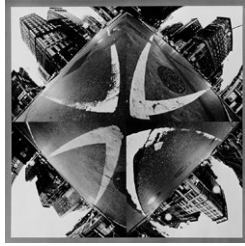
54-2. 《ウォール・ストリート》
Wall Street
1989 (1973-74撮影)
ゼラチンシルバー・プリント
27.5×27.5cm
奈良原一高アーカイブズ寄贈



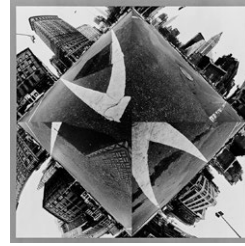
54-3. 《フランクリン・ストリート》
Franklin Street
1989 (1973-74撮影)
ゼラチンシルバー・プリント
27.5×27.5cm
奈良原一高アーカイブズ寄贈



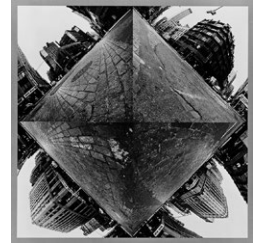
54-4. 《チャンネル・ストリート》
Canal Street
1989 (1973-74撮影)
ゼラチンシルバー・プリント
27.5×27.5cm
奈良原一高アーカイブズ寄贈



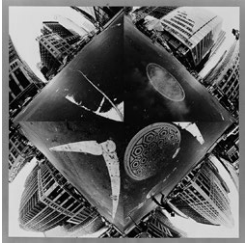
54-5. 《グレート・ジョーンズ・ストリート》
Great Jones Street
1989 (1973-74撮影)
ゼラチンシルバー・プリント
27.5×27.5cm
奈良原一高アーカイブズ寄贈



54-6. 《東22丁目》
East 22nd Street
1989 (1973-74撮影)
ゼラチンシルバー・プリント
27.5×27.5cm
奈良原一高アーカイブズ寄贈



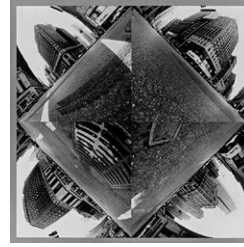
54-7. 《西29丁目》
West 29th Street
1989 (1973-74撮影)
ゼラチンシルバー・プリント
27.5×27.5cm
奈良原一高アーカイブズ寄贈



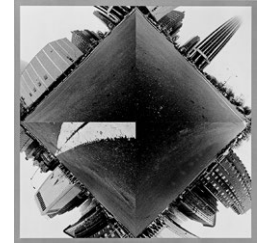
54-8. 《西41丁目》
West 41st Street
1989 (1973-74撮影)
ゼラチンシルバー・プリント
27.5×27.5cm
奈良原一高アーカイブズ寄贈



54-9. 《西44丁目》
West 44th Street
1989 (1973-74撮影)
ゼラチンシルバー・プリント
27.5×27.5cm
奈良原一高アーカイブズ寄贈



54-10. 《西57丁目》
West 57th Street
1989 (1973-74撮影)
ゼラチンシルバー・プリント
27.5×27.5cm
奈良原一高アーカイブズ寄贈



54-11. 《コロムバス・サークル》
Columbus Circle
1989 (1973-74撮影)
ゼラチンシルバー・プリント
27.5×27.5cm
奈良原一高アーカイブズ寄贈

55. 石原輝雄 (1951-)
ISHIHARA Teruo
《題不詳[栄・広小路、名古屋、
1969年10月21日]7点》
from Documents of Sakae-Hirokoji, Nagoya,
October 21, 1969
ゼラチンシルバー・プリント
11.0×15.7cm
山崎正文氏寄贈



55-1.



55-2.



55-3.



55-4.



55-5.



55-6.



55-7.

56. 杉浦幼治 (1951-)

SUGIHARA Yoji

《[[大須]のためのスナップ写真作品]》66点

Group Shooting

Project: Documents of Osu, Nagoya, 1969

1968.10-1969.1

ゼラチンシルバー・プリント

杉浦幼治氏寄贈



56-1. [大須・東仁王門通り]

8.1×12.2cm



56-2. [参拝する女、後ろ姿]

8.3×12.1cm



56-3. [拝む眼鏡の老女]

8.1×12.1cm



56-4. [線香とロウソクを売る老人]

8.3×12.0cm



56-5. [おみくじを読む高校生]

8.1×12.0cm



56-6. [おみくじを結ぶ]

8.1×12.2cm



56-7. [境内、ハトに餌をやる男]

12.2×8.2cm



56-8. [寄進札]

12.1×8.3cm



56-9. [境内、孫娘と老婆]

8.3×12.1cm



56-10. [境内、階段で遊ぶ二人の少年]

12.0×8.2cm



56-11. [境内、ハトに餌をやる母子]

8.3×12.0cm



56-12. [寄進瓦受付所]
8.3×12.2cm



56-13. [大須演芸場の通り]
12.0×8.2cm



56-14. [万松寺通商店街入口]
8.1×12.2cm



56-15. [商店街を歩く老婆]
8.2×12.0cm



56-16. [マネキン]
12.0×8.2cm



56-17. [サンタクロースの看板]
8.3×12.1cm



56-18. [衣服店の女性店員]
8.2×12.0cm



56-19. [落書きをする子ども]
8.3×12.1cm



56-20. [マムシの瓶]
8.1×12.1cm



56-21. [マムシを売る店先]
8.1×12.2cm



56-22. [時計屋]
8.1×12.1cm



56-23. [露天商、白い髭の店主]
12.1×8.3cm



56-24. [お面を売る露店]
8.3×12.0cm



56-25. [露店、値札を見る客]
8.2×12.2cm



56-26. [路地の立看板]
12.1×8.2cm



56-27. [路地、バー]
8.3×12.1cm



56-28. [火事の跡、破材]
8.2×12.1cm



56-29. [陸橋、つながれた犬]
12.1×8.3cm



56-30. [大須観音境内、飛ぶハトの群れ1]
8.1×12.1cm



56-31. [大須観音境内、飛ぶハトの群れ2]
8.2×12.1cm



56-32. [大須観音境内、噴水]
8.3×12.1cm



56-33. [大須観音拝殿]
8.1×11.9cm



56-34. [大須観音境内、参拝者]
8.4×12.1cm



56-35. [境内、ハトに餌をやる男]
12.2×8.3cm



56-36. [落書きをする子ども]
12.1×8.4cm



56-37. [落書きをする子どもと女性]
8.2×12.1cm



56-38. [仁王門とスクーター]
8.1×12.2cm



56-39. [拝殿の脇に座る老婆]
8.1×12.1cm



56-40. [拝殿の脇に座る老婆と孫娘]
11.9×8.3cm



56-41. [露天商、白い髭の店主]
12.1×8.1cm



56-42. [露天商店主と客の男]
12.2×8.2cm



56-43. [露天商、品定めをする客の男]
8.1×12.1cm



56-44. [代金を受け取る露天商の店主]
12.1×8.1cm



56-45. [露店、壺に手をやる店主]
8.2×12.1cm



56-46. [露店、店主と4人の客]
8.1×12.2cm



56-47. [大須演芸場入口]
12.2×8.1cm



56-48. [大須演芸場通り]
8.2×12.2cm



56-49. [裏通り、金蝶饅頭]
8.1×12.1cm



56-50. [裏通り、バーみよし]
12.2×8.3cm



56-51. [アパート、八幡ゴム工業所]
12.2×8.3cm



56-52. [名画座、上映広告]
12.1×8.1cm



56-53. [名画座正面]
8.2×12.0cm



56-54. [火事の跡]
8.2×12.0cm



56-55. [火事の跡、立入禁止看板]
8.1×12.1cm



56-56. [ストリップ劇場の看板]
12.1×8.2cm



56-57. [寄進札]
12.1×8.3cm



56-58. [本堂の葺]
12.3×8.3cm



56-59. [寄進札と駐車場]
8.2×12.1cm



56-60. 【おみくじを結ぶ高校生】
8.1×12.1cm



56-61. 【堂内の男と老人】
8.1×12.1cm



56-62. 【マムシを売る店】
12.2×8.2cm



56-63. 【露店の店先】
8.2×12.1cm



56-64. 【軒先で植木に水をやる】
8.2×12.1cm



56-65. 【銀行の店先でチラシを読む男】
12.1×8.3cm



56-66. 【巡回中の警察官】
12.1×8.2cm

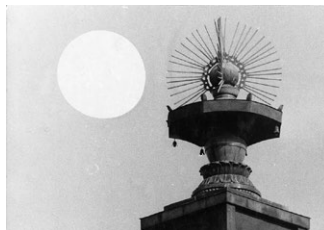


57. 杉浦幼治(1951-)
SUGIURA Yoji
《【時計屋の前の見物人】》
(共同制作《大須》のための写真作品)
title unknown [Crowds of Curious People
gathered in front of Watch Shop in Osu (from
Group Shooting Project ; Documents of Osu,
Nagoya, 1969)] .
1969
ゼラチンシルバー・プリント、パネル貼り
43.8×53.0cm
杉浦幼治氏寄贈



58. 杉浦幼治(1951-)
SUGIURA Yoji
《【寄進札と老人】》
(共同制作《大須》のための写真作品)
title unknown [Old Man Looking at the
Donation Board (from Group Shooting
Project ; Documents of Osu, Nagoya,
1969)] .
1969
ゼラチンシルバー・プリント、パネル貼り
54.0×42.6cm
杉浦幼治氏寄贈

59. 名古屋電気工業高校写真部
Nagoya Electrical Engineering High
School Photo Club
《共同制作「大須」のための写真
作品》59点
Snap shot for Group Shooting Project ;
Documents of Osu, Nagoya, 1969.
1968.10-1969.1
ゼラチンシルバー・プリント
山崎正文氏寄贈



59-1. 【月と宝輪】
11.9×17.1cm



59-2. 【おみくじを読む高校生】
11.9×17.3cm



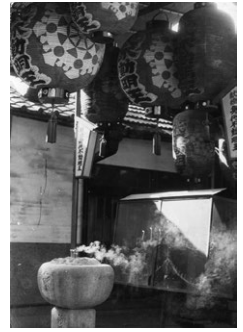
59-3. [おみくじを結ぶ高校生]
12.1×17.3cm



59-4. [おみくじを結ぶ女性]
17.1×11.8cm



59-5. [大提灯]
17.2×12.1cm



59-6. [不動尊燭台]
17.1×11.7cm



59-7. [不動尊線香台]
17.1×11.9cm



59-8. [拜む女の後ろ姿]
12.1×17.1cm



59-9. [鳥居の側]
12.0×17.2cm



59-10. [水子地藏]
12.6×17.6cm



59-11. [開創法要の日の境内]
12.2×17.5cm



59-12. [境内、出店]
10.9×16.0cm



59-13. [映画館の前]
12.6×17.6cm



59-14. [拝殿の側]
16.1×10.9cm



59-15. [賽銭箱]
16.0×10.9cm



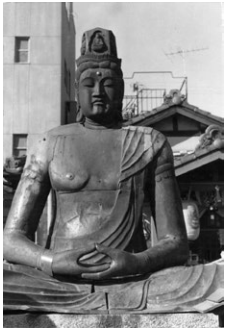
59-16. [境内、ハトに餌をやる家族]
12.6×17.4cm



59-17. [砂場]
12.3×17.3cm



59-18. [新聞を読む二人の男]
12.0×16.9cm



59-19. [如来坐像]
16.0×10.9cm



59-20. [ハトに餌をやる老人]
17.3×12.1cm



59-21. [坐り込む老婆]
12.1×17.3cm



59-22. [老婆と少女]
12.1×17.5cm



59-23. [落書きをする子ども]
11.9×17.3cm



59-24. [宝生院再建工事告知看板]
17.3×12.1cm



59-25. [階段で遊ぶ二人の子ども]
17.1×12.1cm



59-26. [路地裏、くず屋]
17.6×12.0cm



59-27. [路地裏、大衆スタンド八千代]
16.9×11.8cm



59-28. [裏通り、バー]
12.1×17.3cm



59-29. [裏通り、めしや]
12.3×17.0cm



59-30. [路地の突き当り]
11.5×16.2cm



59-31. [大須、提灯]
12.6×17.8cm



59-32. [東仁王門通専門店街]
15.9×10.9cm



59-33. [布団屋の前]
12.6×9.1cm



59-34. [東仁王門通、タバコ屋]
12.6×17.8cm



59-35. [裏通り、タイヤを売る店]
18.1×12.4cm



59-36. [物干し]
11.4×17.1cm



59-37. [裏通り、バーの勝手口]
11.7×16.1cm



59-38. [裏通り、矢場とん]
17.1×11.9cm



59-39. [露天商、雑貨屋]
17.4×12.3cm



59-40. [露店、値札]
12.1×17.2cm



59-41. [露天商、我楽多]
12.0×17.2cm



59-42. [露天商、雑貨屋]
17.3×12.4cm



59-43. [路地と廃屋]
17.5×9.1cm



59-44. [火事の跡]
11.9×17.1cm



59-45. [四輪車]
12.3×17.0cm



59-46. [百メートル道路]
16.0×10.9cm



59-47. [初観音、境内]
10.9×16.1cm



59-48. [鳥居の前で撮影する写真部員]
15.9×10.9cm



59-49. [石灯笼から顔を出す部員]
17.3×11.9cm



59-50. [薬屋の店先]
12.0×17.3cm



59-51. [万松寺通り商店街]
11.9×17.2cm



59-52. [サンタ・クロースの看板]
11.9×16.9cm



59-53. [マネキン]
17.3×11.9cm



59-54. [商店街のスナッフ、老婆]
12.0×17.2cm



59-55. [通りの看板:家具の青山]
17.3×12.4cm



59-56. [真通り、おにぎり]
17.1×11.9cm



59-57. [空き地と階段]
17.3×12.2cm



59-58. [壁と配線]
12.4×17.3cm



59-59. [配管]
12.4×17.3cm

60. 名古屋電気工業高校写真部
Nagoya Electrical Engineering High
School Photo Club
《共同制作〈大須〉第16回愛知
県私学展出品作品》5点
Group Shooting Project ;
Documents of Osu, Nagoya, 1969.
1969
ゼラチン・シルバープリント
杉浦幼治氏寄贈



60-1. 《無題[寄進札と老人]》
29.1×20.8cm



60-2. 《無題[時計屋の前の見物人]》
21.3×28.9cm



60-3. 《無題[路地の母娘]》
29.6×20.1cm



60-4. 《無題[リヤカーを曳く男]》
21.4×29.0cm



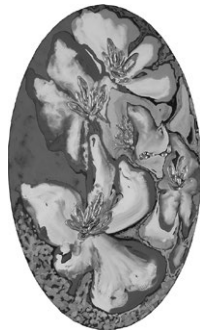
60-5. 《無題[路地と崩れた壁]》
29.1×21.2cm



61. 小川信治(1959-)
OGAWA Shinji
《Perfect World 639 Perfect Artist》
(名古屋市美術館協会カレンダー2021原画)
Perfect World 639 Perfect Artist (Original Painting of Nagoya City Art Museum Membership Calendar 2021)
2020
アクリル・絵葉書
9.0×14.0cm
小川信治氏寄贈



62. 濱田樹里(1973-)
HAMADA Juri
《花を纏う・緋》
(名古屋市美術館協会カレンダー2022原画)
Covered by Flowers: Scarlet (Original Painting of Nagoya City Art Museum Membership Calendar 2022)
2021
紙本着彩、木製パネル 額装
40.8×24.3cm

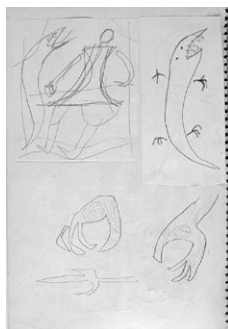


63. 濱田樹里(1973-)
HAMADA Juri
《花を纏う・森》
(名古屋市美術館協会カレンダー2022原画)
Covered by Flowers: Forest (Original Painting of Nagoya City Art Museum Membership Calendar 2022)
2021
紙本着彩、木製パネル 額装
40.8×24.3cm

②特別資料



1. 入義紋四郎(1947-2020)
IRIYOSHI Monshiro
《入義紋四郎撮影制作岸本清子関連資料
(111件111点)》
Document Photographs of KISHIMOTO Sayoko
1980-1988/2009
ゼラチン・シルバー・プリントなど



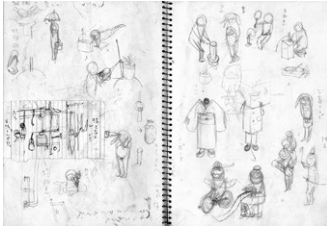
2. 大島哲以(1926-1999)
OSHIMA Tetsui
《[スケッチブックI]》
[Sketch Book No.1]
c.1963
鉛筆・紙
26.8×18.6cm(外寸)
大島青夏氏寄贈



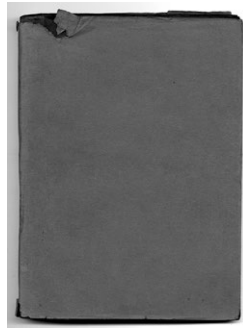
3. 大島哲以(1926-1999)
OSHIMA Tetsui
《[スケッチブックII]》
[Sketch Book No.2]
c.1966
鉛筆・紙
26.2×19.0cm(外寸)
大島青夏氏寄贈



4. 大島哲以(1926-1999)
OSHIMA Tetsui
《[スケッチブックIII]》
[Sketch Book No.3]
c.1967
鉛筆・紙
35.9×28.4cm(外寸)
大島青夏氏寄贈



5. 大島哲以(1926-1999)
OSHIMA Tetsui
《[スケッチブックⅣ]》
[Sketch Book No.4]
c.1967
鉛筆、ペン、紙
26.5×18.8cm(外寸)
大島青夏氏寄贈



6. 杉浦幼治(1951-)
SUGIURA Yoji
写真集『大須』
Portfolio OSU
1969.3
冊子・自作写真集、印画紙30点貼付、34頁
27.1×20.1cm
杉浦幼治氏寄贈



7. 杉浦幼治(1951-)
SUGIURA Yoji
写真集『名古屋70年への饗宴』
Portfolio Nagoya-Feast Towards '70.
1972.8
冊子・自作写真集、印画紙52点貼付、50頁
17.1×12.2cm
杉浦幼治氏寄贈



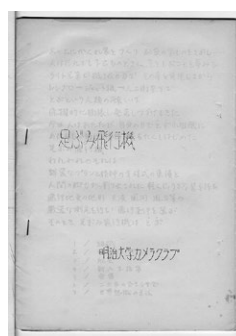
8. 全日本学生写真連盟
Zen Nihon Gakusei Shashin Renmei (All Japan Students Photography League)
《全日本学生写真連盟会報 [Young Eyes] 第54号(1966.2.10)~第63号(1968.9.1)》1件 10点
YOUNG EYES - Bulletin for the All Japan Student Photography League. No.54 (Feb. 10, 1966) -No.63(Sep.1,1968)
1966-1968
タブロイド紙
38.7×27.4cm
松本吉生氏寄贈



9. 中部学生写真連盟(高校の部)
Chubu Gakusei Shashin Renmei (Central Japan Student Photography League; Division of High School)
《[中部学生写真連盟機関紙]第7号(1966.7.15、高校の部)》
Bulletin for the Central Japan Student Photography League(Division of High School), No.7(July.15,1966)
1966
冊子
54.0×38.2cm



10. 名古屋電気工業高校写真部
Nagoya Electrical engineering High School Photo Club
写真集『共同制作 大須』
Portfolio : Group Shooting Project OSU, Nagoya,1969
1969.4
冊子・自作写真集、印画紙24点貼付、28頁
27.4×19.5cm
石原輝雄氏寄贈



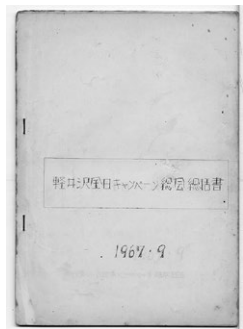
11. 全日本学生写真連盟+中部学生写真連盟
All Japan + Central Japan Student Photography League
《全日本学生写真連盟+中部学生写真連盟活動資料[足ぶみ飛行機](テキスト版)1966年》はじめ51件 66点
Documents and Materials of All Japan + Central Japan Student Photography League
1965-80
松本吉生氏寄贈



12. 全日本学生写真連盟+中部学生写真連盟
All Japan + Central Japan Student Photography League
《全日本学生写真連盟+中部学生写真連盟活動資料[共同制作-五か年の歩み-]1963年》はじめ8件 12点
Documents and Materials of All Japan + Central Japan Student Photography League
1963
松本吉生氏寄贈



13. 全日本学生写真連盟+中部学生写真連盟
All Japan + Central Japan Student Photography League
《全日本学生写真連盟+中部学生写真連盟活動資料[中部491 情報版]創刊号1975年》はじめ13件 68点
Documents and Materials of All Japan + Central Japan Student Photography League
1971-77
松本吉生氏寄贈



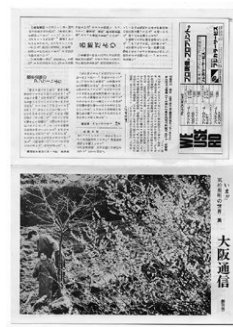
14. 全日本学生写真連盟+中部学生写真連盟
All Japan + Central Japan Student Photography League
《全日本学生写真連盟+中部学生写真連盟活動資料[軽井沢全日キャンペーン総会総括書]1967年》はじめ11件 26点
Documents and Materials of All Japan + Central Japan Student Photography League
1967-76
松本吉生氏寄贈



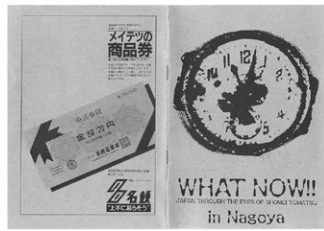
15. 全日本学生写真連盟+中部学生写真連盟
All Japan + Central Japan Student Photography League
《全日本学生写真連盟+中部学生写真連盟活動資料[全日会報 YOUNG EYES]第62号1968年》はじめ17件 54点
Documents and Materials of All Japan + Central Japan Student Photography League
1968-78
松本吉生氏寄贈



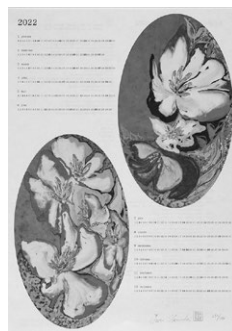
16. 全日本学生写真連盟+中部学生写真連盟
All Japan + Central Japan Student Photography League
《全日本学生写真連盟+中部学生写真連盟活動資料[広島デー第一次撮影 現地報告書] 1968年》はじめ11件 18点
Documents and Materials of All Japan + Central Japan Student Photography League
1967-76
松本吉生氏寄贈



17. 全日本学生写真連盟+中部学生写真連盟 All Japan + Central Japan Student Photography League
 《全日本学生写真連盟+中部学生写真連盟活動資料『ビル・ブランド名古屋展』展覧会チラシ1979年》はじめ21件 64点
 Documents and Materials of All Japan + Central Japan Student Photography League 1979-84
 松本吉生氏寄贈
18. 全日本学生写真連盟+中部学生写真連盟 All Japan + Central Japan Student Photography League
 《全日本学生写真連盟+中部学生写真連盟活動資料『週刊491』創刊号1970年》はじめ12件14点
 Documents and Materials of All Japan + Central Japan Student Photography League 1970-76
 松本吉生氏寄贈
19. 全日本学生写真連盟+中部学生写真連盟 All Japan + Central Japan Student Photography League
 《全日本学生写真連盟+中部学生写真連盟活動資料『いま!! 東松照明の世界・展』(全国各地の活動資料)》32件 64点
 Documents and Materials of All Japan + Central Japan Student Photography League 1981-82
 松本吉生氏寄贈
20. 全日本学生写真連盟+中部学生写真連盟 All Japan + Central Japan Student Photography League
 《全日本学生写真連盟+中部学生写真連盟活動資料『いま!! 東松照明の世界・展』(新聞・雑誌掲載記事)》7件 19点
 Documents and Materials of All Japan + Central Japan Student Photography League 1981-82
 松本吉生氏寄贈

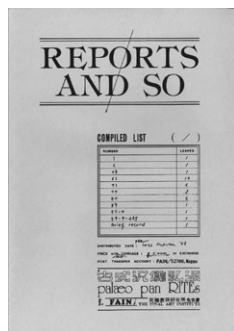


21. 全日本学生写真連盟+中部学生写真連盟 All Japan + Central Japan Student Photography League
 《全日本学生写真連盟+中部学生写真連盟活動資料『いま!! 東松照明の世界・展』(実行委員会・東京連絡センター発行資料)》5件 20点
 Documents and Materials of All Japan + Central Japan Student Photography League 1980-82
 松本吉生氏寄贈
22. 全日本学生写真連盟+中部学生写真連盟 All Japan + Central Japan Student Photography League
 《全日本学生写真連盟+中部学生写真連盟活動資料『いま!! 東松照明の世界・展』(名古屋展実行委員会活動資料)》30件 103点
 Documents and Materials of All Japan + Central Japan Student Photography League 1978-83
 松本吉生氏寄贈
23. 水上旬ほか(1937-n.d.) MIZUKAMI Jun
 《[水上旬関連資料]》52件 221点
 Materials related to MIZUKAMI Jun 1960-2010年代頃
 インク・紙など
 坂上しのぶ氏寄贈
24. 磯見輝夫(1941-) ISOMI Teruo
 《海のおと》(名古屋市美術館協会カレンダー-2007) Sound of the Sea (Nagoya City Art Museum Membership Calendar 2007) 2006
 木版・紙 ed. 230/230
 41.9×29.7cm
 名古屋市美術館協会寄贈



25. 小川信治(1959-) OGAWA Shinji
 《Perfect World 639 Perfect Artist》(名古屋市美術館協会カレンダー-2021) Perfect World 639 Perfect Artist (Nagoya City Art Museum Membership Calendar 2021) 2020
 1件 3点
 印刷・紙 ed. 268/270, 269/270, 270/270
 各42.0×29.7cm
 名古屋市美術館協会寄贈
26. 濱田樹里(1973-) HAMADA Juri
 《花を纏う・緋、花を纏う・森》(名古屋市美術館協会カレンダー-2022) Covered by Flowers: Scarlet, Covered by Flowers: Forest (Nagoya City Art Museum Membership Calendar 2022) 2021
 印刷・紙 ed. 250/250
 42.0×29.7cm
 名古屋市美術館協会寄贈

(2)受入変更



27. 坂田稔(1902-1974)
 SAKATA Minoru
 《坂田稔による撮影ネガからの新規制作
 プリント》 5件56点
 New prints from Original Negative
 by SAKATA Minoru
 2018
 オリジナル・ネガからのインクジェット・プリント
 28.6×20.7cm
 ①造形写真 17点(1934-40頃撮影)
 ②門入村 4点(1941頃撮影)
 ③ジャワ 24点(1941-42頃撮影)
 ④航空部隊 4点(1942-45頃撮影)
 ⑤日本碍子に於ける放電実験 7点
 (1950年代半ば撮影)

28. 水上旬(1937-n.d.)
 MIZUKAMI Jun
 《水上旬関連資料》 1件13点
 Materials related to MIZUKAMI Jun
 1960-1990年代頃
 インク・紙など

(3)資料収集状況一覧

年度別

年度	分類	日本画など	洋画など	水彩素描など	版画など	写真	彫刻など	特別資料	総計
58年度		0	26	2	0		1		29
59年度		3	32	50	1		0		86
60年度		4	25	67	20		2		118
61年度		5	23	33	6		1		68
62年度		12	38	0	360		15		425
63年度		0	15	8	13		6		42
元年度		3	7	2	275		1		288
2年度		7	4	2	17		1		31
3年度		1	3	2	122		0		128
4年度		2	10	15	126		3		156
5年度		0	13	4	0		3		20
6年度		0	7	0	1		2		10
7年度		1	27	2	195		0		225
8年度		0	7	0	2		3		12
9年度		0	2	0	17		2		21
10年度		2	8	0	21		0		31
11年度		2	10	0	0		1		13
12年度		0	9	0	0		0		9
13年度		0	8	0	※ △83	※ 83	1	0	9
14年度		1	0	0	167	0	0	0	168
15年度		0	1	0	0	8	2	0	11
16年度		0	0	8	0	0	2	0	10
17年度		0	2	10	0	4	0	0	16
18年度		0	9	0	0	0	0	0	9
19年度		0	2	0	0	0	1	0	3
20年度		0	1	0	0	0	1	0	2
21年度		0	1	7	3	0	0	0	11
22年度		0	1	0	0	0	0	0	1
23年度		0	1	0	0	0	0	0	1
24年度		0	0	0	0	0	2	0	2
25年度		0	0	0	0	2	0	0	2
26年度		0	0	0	0	0	0	0	0
27年度		2	1	0	0	3	0	0	6
28年度		0	1	0	0	3	0	0	4
29年度		0	0	0	0	0	△1	0	△1
30年度		0	1	0	0	0	0	0	1
元年度		0	0	0	0	0	0	0	0
2年度		0	0	0	0	0	0	0	0
3年度		0	0	0	0	0	0	0	0
購入総計		45	295	212	1,263	103	49	0	(0) 1,967
保管転換		16	41	31	35	3	3	1	(0) 130
寄贈	(16)	103	(14) 367	(9) 970	(22) 603	(290) 797	31	(883) 3,066	(1,234) 5,937
受入変更		0	0	0	0	2	0	(69) 69	(69) 71
総計	(16)	164	(14) 703	(9) 1,213	(22) 1,901	(290) 905	(0) 83	(952) 3,136	(1,303) 8,105

収集方針別

分類	日本画など	洋画など	水彩素描など	版画など	写真	彫刻など	特別資料	総計
エコール・ド・パリ		32	3	478	0	2	3	(0) 518
メキシコ・ルネサンス		36	41	391	60	4	0	(0) 532
現代の美術	5	(1) 140	(1) 100	312	(151) 224	63	(3) 297	(156) 1,141
郷土の美術	(16) 159	(13) 495	(8) 1,069	(22) 720	(139) 621	14	(949) 2,836	(1,147) 5,914
総計	(16) 164	(14) 703	(9) 1,213	(22) 1,901	(290) 905	(0) 83	(952) 3,136	(1,303) 8,105

()内の数字は令和3年度収集分 ※分類変更による増減

<修復>

鬼頭鍋三郎 《黒帽子の女》

1940年 油彩・キャンヴァス 116.5×91.0cm

【損傷状態】

多数の細かい剥落や亀裂、カンヴァスの変形、縮緬皺が生じている。画面下部に膨らみ変形がいくつか認められる。裏面木枠には水分が染みた痕跡がついており、その影響により画面下部にカビの生成が認められる。カンヴァスと木枠を固定している釘には錆が生じている。裏面には、埃の付着、フォクシングの生成、染みの付着などが認められる。ラベルは劣化しており、剥がれや破れ、欠損などが生じている。

【修復処置】

膠水10%にて絵具層の剥落部分と亀裂部分を接着。ヒドロキシプロピルセルロース3%を側面に塗布して地塗り層を補強。カビ痕にエタノール水70%を塗布。接着剤を精製水にて除去。パラロイドB72の5%溶液を剥落箇所や脆弱な箇所に塗布し接着。余分な接着剤をp-キシレンにて除去。絵具層と側辺を精製水にて洗浄。画面変形箇所を加湿し、加熱後プレスして変形修正。裏面をケミカルスポンジにてドライクリーニング。ラベルの捲れた箇所をアクリルエマルジョンの3%溶液にて接着。釘の錆を研磨し除去、アセトンで拭き上げ。釘と釘の間に楮紙を挟んだステンレス製タッカーで間打ち。白色化した箇所やカビで艶引けした箇所にダンマー10%を塗布。剥落部分を石膏にて充填・整形。修復用補彩絵具にて補彩。

【額装】

裏面の画布を鋏で固定。額縁の入れ子にフェルトを貼付、作品と額縁をT字金具で固定。

河原温 《百万年—未来》

1982年 革製ポストバインダー、スリーブ、印刷紙 30.5×22.8×7.6cm

【損傷状態】

全10冊中1巻目の表見返しの表面欠損および一部に表層剥離。

2021年11月22日頃、作品展示中に該当箇所に両面テープが接触していた状態から現状復帰する際に損傷が発生した。オリジナル部分には艶があるが、表面欠損部分には艶がなく色味も明るいいため、損傷部が目立つ状態である。

【修復処置】

損傷部から剥離して両面テープに付着した繊維は、有機溶剤の使用により分離できると思われるが、損傷部に戻してオリジナルの状態を再現することは難しいため、分離作業は見送ることとした。

層状剥離をメチルセルロース3.5%水溶液で再接着。その後、表面欠損部分にクルセルG（ヒドロキシプロピルセルロース、乾燥塗膜はエタノールに再可溶）のエタノール溶液（濃度は適宜調整）を細い筆で部分的に塗布する作業を、オリジナルの部分と艶が馴染むまで繰り返した。

処置の結果、全体的には処置部分とオリジナル部分の視覚的差異が軽減されたが、観察視点によっては艶や色が異なって見える。

ナム・ジュン・パイク 《ロボット家族（お父さん／お母さん）》

1986年 テレビ、ビデオ 226.1×139.1×52.1cm（お父さん）、203.1×153.7×53.3cm（お母さん）

【損傷状態】

「お父さん」のブラウン管テレビモニター5台（胴体部分4台、左足下1台）の映像が不鮮明である。また、顔部分にあたるモニター・カバーが白濁している。

【修復処置】

映像の乱れについては、映像分配器の劣化が原因であったため、分配器の交換を行い、機器配線を接続し直した。また、モニター・カバーを一度取り外し、シリコン・グリス・コンパウンドを塗布して清掃後、再度装着した。

アレクサンダー・コルダー 《ファブニール・ドラゴンⅡ》

1969年 着色スチール、アルミニウム、ステンレススチール 325×411×238cm

【修復処置】

点検及び清掃後、全面の再塗装を行った。また、本体と回転翼との連結部分へのグリス塗布をした。

＜害虫調査＞

2021年7月15日～29日、収蔵庫および常設展示室・企画展示室100ヶ所にトラップを仕掛け、害虫調査を行った。その結果、1階企画展示室にて文化財害虫（クロゴキブリ幼虫1匹）の捕獲があった。捕獲場所は展示室出入口付近であり、他箇所では確認されていないため外部からの侵入の可能性が高い。展示室内の衛生管理、清掃を徹底することで引き続き対策を行う。

作品を収集するにあたっては、サイズ・材質・形状、作品の状態などの作品に即したデータの採取のほか、作者・作品名・制作年・出品歴・所蔵歴などの作品に係わる歴史・文献的な情報の調査も行っている。これらの情報は、作品研究の基礎となるものであるが、収蔵時にすべてが明らかにできない作品もある。このような作品は、収蔵後も機会あるごとに追跡調査や情報収集を行って、不明な事項や新しい事実を明らかにするように努めている。

(1) 作家表記変更

- ① 現行：アグネス・マーチン
改訂：アグネス・マーティン
理由：表記統一

(2) 作家生没年変更

- ① 設楽知昭 現行：(1955-)
改訂：(1955-2021)
理由：作家の逝去
- ② 鳥田鮎子 現行：(1934-)
改訂：(1934-2022)
理由：作家の逝去

(3) 作品タイトル変更

- ① 現行：ハイム・スーチン 《セレの風景》《Landscape in Ceret》
改訂：英語タイトル：《Landscape at Céret》
仏語タイトル：《Paysage à Céret》
理由：表記統一
- ② 現行：北川民次 《赤津陶工の家》《Potters House at Akadzu》
改訂：英語タイトル：《House of Potter at Akazu》
理由：表記統一
- ③ 現行：北川民次 《赤津陶工の家（下図）》《Esquisse for "Potters House at Akadzu"》
改訂：英語タイトル：《Esquisse for "House of Potter at Akazu"》
理由：表記統一

(4) 作家、タイトル等変更

現行：奥村石亭 《月次山水図屏風》六曲二双（画、詩、各一双）
改訂：貝谷杜蔭 《和歌屏風「としたちし・・・」》六曲一双、奥村石亭 《月次山水図屏風》六曲一双
理由：調査による

(5) 作品制作年変更

現行：北川民次 《いなごの群れ》1958年
改訂：1959年
理由：調査による（画面の年記）

(6) 作品技法・材質変更

- ① 現行：アレクサンダー・コールドー《ファブニール・ドラゴンⅡ》着色スチール
改訂：着色スチール、アルミニウム、ステンレススチール
理由：表記統一
備考：本体、翼、支柱の順

- ② 現行：河原温〈Todayシリーズ〉リキテックス・キャンヴァス
改訂：アクリル・キャンヴァス
理由：表記統一（商標名を含むためより一般的な記載へ変更）

- ③ 現行：河原温《百万年—未来》ゼロックスコピー、ルーズリーフバインダー
改訂：革製ポストバインダー、スリーブ、印刷紙
理由：表記統一（商標名を含むためより一般的な記載へ変更）

(7) タイトル、制作年、技法・材質変更

現行：林孝彦《ドローイング・パーチメント》1998年、エッチング・羊皮紙
改訂：《93-風合瀬-6》1993年、エッチング・和紙（三桎紙、色雁皮紙）
理由：作者による教示

(8) 作品サイズ変更

現行：設楽知昭《鏡よりモノタイプ》各176.0×97.0 cm
改訂：117.0×67.0、117.0×67.2、117.0×67.1 cm
理由：調査による

収蔵資料貸出（令和3年度）

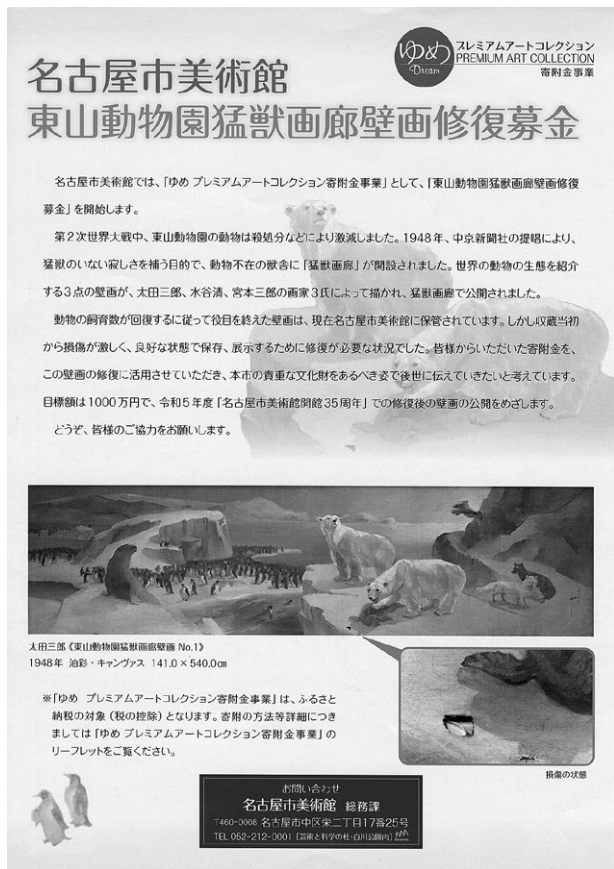
作家名	作品名	貸出期間・貸出先	展覧会名・展示期間
藤田 嗣治	《風景》	令和3年4月4日～9月26日 ポーラ美術館	「フジター色彩への旅」 令和3年4月17日～9月5日
	《二人の祈り》		
	【受託作品】《猫を抱く少女》	令和3年4月4日～7月11日、同上	同上、令和3年4月17日～6月27日
田淵 俊夫	《緑溢れる頃》	令和3年4月5日～6月12日 徳川美術館	「刻を描く 田淵俊夫」 令和3年4月18日～5月30日
三岸 好太郎	《花の静物(白百合)》	令和3年6月1日～令和4年4月30日 北海道立三岸好太郎美術館 砺波市美術館	「貝殻旅行—三岸好太郎・節子展」 【札幌】令和3年6月26日～9月1日 【砺波】令和3年9月11日～11月7日
	《海と射光》		
三岸 節子	《花咲くブルゴーニュ》	神戸市立小磯記念美術館 一宮市三岸節子記念美術館	【神戸】令和3年11月20日～令和4年2月13日 【一宮】令和4年2月19日～4月10日
藤田 嗣治	【受託作品】《猫を抱く少女》	令和3年8月24日～12月17日 府中市美術館	府中市美術館開館20周年記念 「動物の絵 日本とヨーロッパ ふしぎ・かわい い・へそまがり」 令和3年9月18日～11月28日
荻須 高德	《アムステルダム運河》	令和3年8月28日～令和4年3月27日 美術館「えき」KYOTO 稲沢市荻須記念美術館 ひろしま美術館	「生誕120年記念 荻須高德展—私のバ リ、バリの私—」 【京都】令和3年9月10日～10月17日 【稲沢】令和3年10月23日～12月29日 【広島】令和4年1月3日～3月13日
	《洗濯場、オーベルヴィリエ》		
	《ボールガール通り》		
	【受託作品】《エドガー・キネ通りの市場》		
	【受託作品】《引越屋》		
	【受託作品】《セーヌ川、シテ島》		
【受託作品】 《“リカール”の広告のあるタバコ屋》			
河原 温	《FEB.23,1966》	令和3年9月26日～令和4年6月19日 DIC川村記念美術館 愛知県美術館 兵庫県立美術館	「ミニマル／コンセプチュアル： ドロテ&コンラート・フィッシャーと1960-70年 代美術」 【千葉】令和3年10月9日～令和4年1月10日 【愛知】令和4年1月22日～3月13日 【兵庫】令和4年3月26日～5月29日
	《17 ENE.1969》		
	《MAY 29,1971》		
	《百万年—未来》		
赤瀬川 原平	《復讐の形態学(殺す前に相手をよく見る)》	令和3年10月16日～令和4年4月20日 ザヘンタ国立美術館 (ワルシャワ、ポーランド)	「集団と個の狭間で— 1950年代と1960年代の日本の前衛美術」 令和3年11月25日～令和4年3月13日
	《押収品・模型千円札梱包作品(ボトル)》		
	《押収品・模型千円札梱包作品(かなづち)》		
	《押収品・模型千円札梱包作品(かばん)》		
石川 英鳳	《地獄変》	令和4年1月18日～3月6日 安城市教育委員会(安城市民ギャ ラリー)	安城市民ギャラリー特別展 「日本画家 石川英鳳の築いた美」 令和4年1月29日～2月27日
	《白雪礎々》		
	《田園風景》		
	《鶏図》		
巴里東京新興美術同盟	『巴里・東京新興美術展覧会目録』(江上 明旧蔵資料)	令和4年1月29日～9月17日 Bunkamura ザ・ミュージアム	「ミロ展—日本を夢見て」 令和4年2月11日～4月17日
海老原 喜之助	《群鳥》	令和4年2月7日～4月17日 熊本県立美術館	「海老原美術研究所設立70周年記念 エビハラがいた時代1945-1976」 令和4年2月25日～3月30日

(1)名称

ゆめ・プレミアムアートコレクション寄附金事業

(2)趣旨

優れた美術品の収集、所蔵作品の修復をするため、寄附金を集めるもの。令和元年度から「東山動物園猛獣画廊壁画修復募金」を開始し、令和5年度「名古屋市美術館開館35周年」での修復後の壁画の公開を目指す。



名古屋市美術館
東山動物園猛獣画廊壁画修復募金

ゆめ PREMIUM ART COLLECTION
PREMIUM ART COLLECTION
寄附金事業

名古屋市美術館では、「ゆめ プレミアムアートコレクション寄附金事業」として、「東山動物園猛獣画廊壁画修復募金」を開始します。

第2次世界大戦中、東山動物園の動物は殺処分などにより激減しました。1948年、中京新聞社の提唱により、猛獣のいない寂しさを補う目的で、動物不在の歌合に「猛獣画廊」が開館されました。世界の動物の生態を紹介する3点の壁画が、大田三郎、水谷清、宮本三郎の画家3氏によって描かれ、猛獣画廊で公開されました。

動物の飼育数が回復するに従って役目を終えた壁画は、現在名古屋市美術館に保管されています。しかし収蔵当初から損傷が激しく、良好な状態で保存、展示するために修復が必要な状況でした。皆様からいただいた寄附金を、この壁画の修復に活用させていただき、本市の貴重な文化財であるべき姿で後世に伝えていきたいと考えています。目標額は1000万円で、令和5年度「名古屋市美術館開館35周年」での修復後の壁画の公開をめざします。

どうぞ、皆様のご協力をお願いします。

大田三郎《東山動物園猛獣画廊壁画 No.1》
1948年 油彩・キャンバス 141.0 x 540.0cm

※「ゆめ プレミアムアートコレクション寄附金事業」は、ふるさと納税の対象（税の控除）となります。寄附の方法等詳細につきましては「ゆめ プレミアムアートコレクション寄附金事業」のリーフレットをご覧ください。

初問い合わせ
名古屋市美術館 総務課
〒460-0008 名古屋市南区栄二丁目17番26号
TEL 052-212-0001 (FAX 052-1799011) 01132601 122

(3)寄附金の概要

1口1,000円以上。特典として、名古屋市外在住の5,000円以上の個人の寄附者には、常設展1年間定期観覧券(大人1,200円)を進呈。

(4)目標額

令和5年度に10,000,000円。(学生向け優待制度の一部金額も含む)

(5)寄附金受入状況(令和4年3月31日現在)

令和3年度：207件、10,888,000円
累計：494件、29,327,025円

(6)寄附金の活用

平成30年度に寄附金13,000,000円を活用し、開館30周年記念作品として、藤田嗣治《ベルギーの婦人》を購入した。

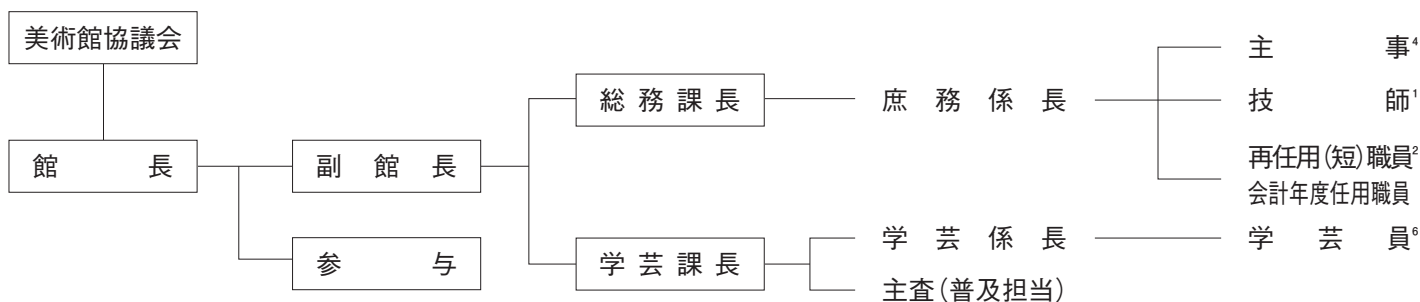
入館者一覽 VISITOR

展 覧 会 名	開催期間	開催 日数 (日)	有 料			無 料			入場者 総 数 (名)	
			一般	高大生	有料小計	招待券等	中学生以下	無料小計		
常 設 展	令和3年 7月10日(土)～ 令和4年 3月31日(木)	181	2,700	885	3,585	62,935	1,219	64,154	67,739	
特 別 展	アートとめぐるはるの旅 ※統計数字は令和3年度分のみ のもの	令和3年 3月25日(木)～ 令和3年 6月6日(日)	58	1,783	168	1,951	1,237	415	1,652	3,603
	ランス美術館コレクション 風景画のはじまり コローか ら印象派へ	令和3年 4月10日(土)～ 令和3年 6月6日(日)	50	14,308	1,056	15,364	3,553	397	3,950	19,314
	生誕160年記念「グランマ・ モーゼス展—素敵な100年 人生」	令和3年 7月10日(土)～ 令和3年 9月5日(日)	51	12,910	1,246	14,156	2,879	965	3,844	18,000
	フランソワ・ボンボン展	令和3年 9月18日(土)～ 令和3年 11月14日(日)	50	21,136	1,909	23,045	4,389	3,775	8,164	31,209
	現代美術のポジション 2021-2022	令和3年 12月11日(土)～ 令和4年 2月6日(日)	45	3,924	922	4,846	2,437	518	2,955	7,801
	ゴッホ展 — 響きあう魂へ レーネとフィンセント ※統計数字は年度末までのもの	令和4年 2月23日(水)～ 令和4年 4月10日(日)	35	77,872	8,035	85,907	3,795	8,920	12,715	98,622
特 別 展 小 計		289	131,933	13,336	145,269	18,290	14,990	33,280	178,549	
合 計			134,633	14,221	148,854	81,225	16,209	97,434	246,288	
									教育普及事業参加者 (展示室内参加者を除く)	6,808
									総 計	253,096

〈年度別入館者数等〉

区 分		平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	累 計	
展 覧 会	常 設 展	開催日数	252日	230日	58日	181日	9,113日
		入場者数	186,191人	110,631人	6,965人	67,739人	4,337,706人
	特 別 展	開催日数	252日	200日	50日	289日	7,203日
		入場者数	410,366人	245,510人	5,683人	178,549人	8,702,002人
入 場 者 小 計		596,557人	356,141人	12,648人	246,288人	13,039,708人	
教育普及事業参加者		26,897人	16,259人	676人	6,808人	741,188人	
入 館 者 合 計		623,454人	372,400人	13,324人	253,096人	13,780,896人	

1 組織図



2 美術館協議会

(1)名古屋市美術館協議会委員

名古屋市立大須小学校長	武田 雅子	愛知県私学協会文化部長	伊藤 俊典
愛知県立旭丘高等学校長	小林 整次	公益財団法人名古屋市文化振興事業団専務理事兼事務局長	柵木 厚
名古屋市立大学大学院人間文化研究科准教授	宮下さおり	名古屋市地域女性団体連絡協議会書記	広瀬多恵子
名古屋市立小中学校PTA協議会理事	角一由紀子	公募委員	大曲 春菜
愛知県立芸術大学美術学部教授	小西 信之	名古屋商工会議所文化・観光委員会副委員長	滝 茂夫
愛知県美術館長	拜戸 雅彦	名古屋造形大学准教授	濱田 樹里
名古屋造形大学教授	高橋 綾子	株式会社JTB執行役員法人事業本部副本部長	松本 博

(2)名古屋市美術館協議会開催状況

日 時	協 議 題
第1回定例会(書面開催) 令和3年10月4日(月)から 令和3年10月15日(金)まで	○令和2年度事業実施結果について ○令和3年度事業実施状況について
第2回定例会 令和4年2月4日(金) 午後2時～午後4時	○令和3年度事業実施状況について ○令和4年度事業計画(案)について

3 職 員

館 長	早瀬 弘親	学芸課長	井口 智子
参 与	深谷 克典	学芸係長	保崎 裕徳
副 館 長	榊原 美德	主査(普及)	竹内 智哉
総務課長	佐藤 規子	学 芸 員	角田美奈子
庶務係長	服部 雅也		星子 桃子
主 事	西村 弘		森本 陽香
	川上 英美		勝田 琴絵
	木村 進也		久保田舞美
	黄 直子		竹葉 文
技 師	平野 晃成		
再任用(短)職員	秦 久美子		
会計年度任用職員	千田 智治		

4 運営予算

総予算費	内 訳	
254,053千円	特別展関係費	112,058千円
	常設展運営費	20,816千円
	資料関係費	2,790千円
	教育普及事業費	6,943千円
	調査研究費	406千円
	管 理 費	111,040千円

令和3年度名古屋市美術館年報

発行日

令和5年2月

編集・発行

名古屋市美術館

〒460-0008 名古屋市中区栄二丁目17番25号
(芸術と科学の杜・白川公園内)

TEL 052-212-0001

FAX 052-212-0005

名古屋市美術館

〒460-0008 名古屋市中区栄二丁目17番25号

Tel.052-212-0001 Fax.052-212-0005